

カメルーン国
中部アフリカ森林協議会 (COMIFAC)

カメルーン国
COMIFAC 諸国における
生物多様性保全・利用および
気候変動対策促進プロジェクト

業務完了報告書

2020年12月

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

一般社団法人日本森林技術協会

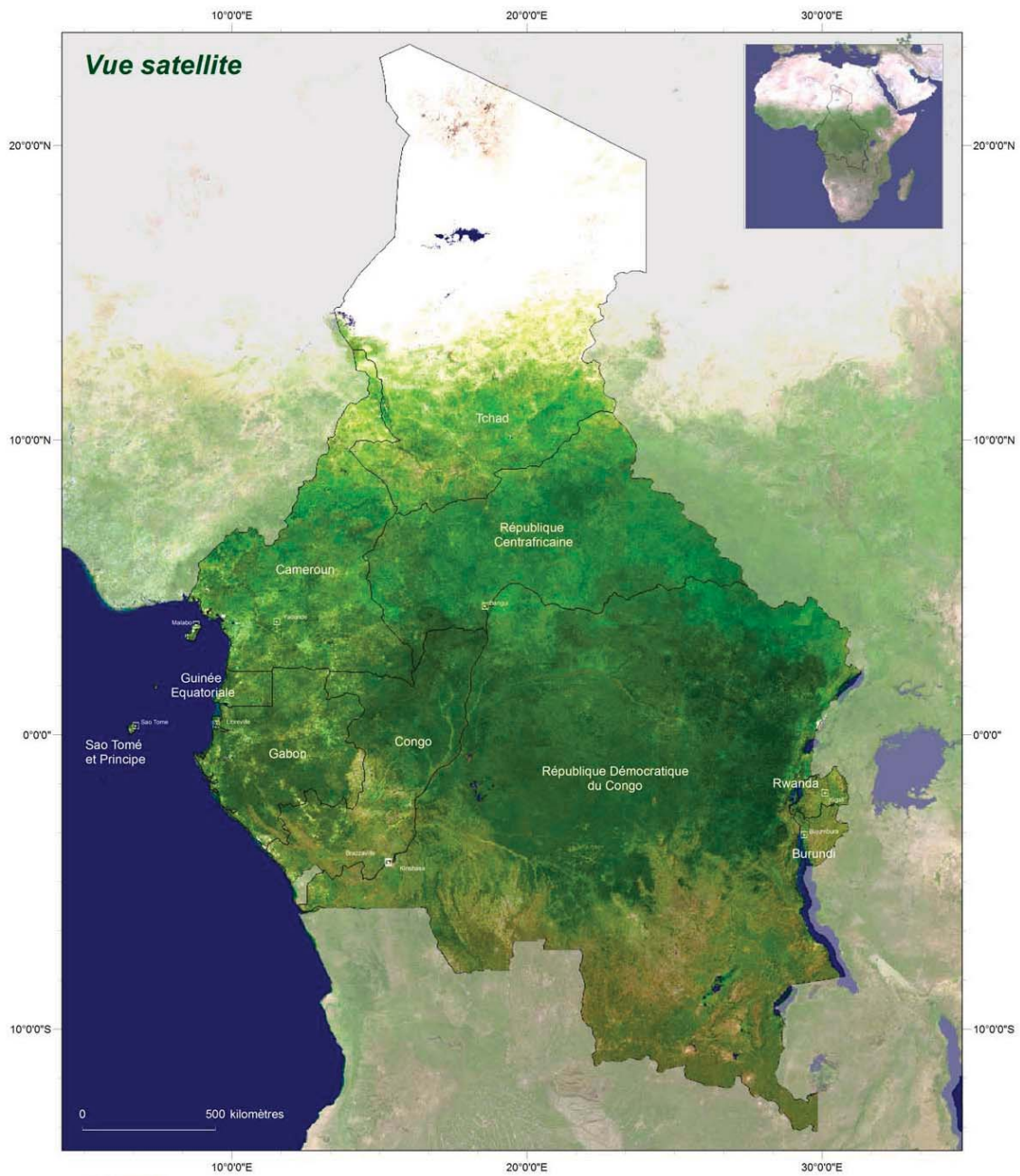
| |
|--------|
| 環境 |
| JR |
| 20-084 |

目次

| | |
|---|----|
| はじめに..... | 1 |
| 第 1 章 業務の概要 | 2 |
| 1.1 プロジェクトの概要..... | 2 |
| 1.2 本プロジェクトの全体コンセプト | 6 |
| 第 2 章 活動内容..... | 8 |
| 2.1 業務内容..... | 8 |
| 2.2 本プロジェクトで実施した主な活動..... | 15 |
| 第 3 章 プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓 | 22 |
| 3.1 業務実施方法の課題・工夫・教訓 | 22 |
| 3.2 運営体制の課題・工夫・教訓 | 27 |
| 第 4 章 モニタリングシート | 28 |
| 4.1 成果の達成状況 | 28 |
| 4.2 プロジェクト目標と指標..... | 31 |
| 第 5 章 上位目標の達成に向けての提言 | 34 |
| 5.1 上位目標達成の見込み | 34 |
| 5.2 上位目標実現に向けた COMIFAC のオペレーションプランおよび実施体制 | 35 |
| 5.3 プロジェクト終了時から事後評価実施時までのモニタリング計画 | 35 |
| 添付資料 | |
| 1. PDM (関連 MM を含む) | |
| 2. 業務フローチャート | |
| 3. 詳細活動計画 | |
| 4. 専門家派遣実績 (要員計画) | |
| 5. 機材リスト | |
| 6. 研修実績 (国ごとの参加者数) | |
| 7. 研修および会合リスト | |
| 8. Project Completion Report 和訳版 | |
| 9. Project Completion Report 仏語版 | |

図表目次

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| 表 1 | 提出すべき報告書等 | 5 |
| 表 2 | 業務内容 | 8 |
| 表 3 | 成果 1 の達成状況 | 28 |
| 表 4 | 成果 2 の達成状況 | 29 |
| 表 5 | 成果 3 の達成状況 | 30 |
| 表 6 | プロジェクト目標各指標の定性的達成度 | 31 |
| 図 1 | プロジェクト全体のコンセプト | 7 |



地図：中部アフリカ森林協議会(COMIFAC) 加盟国位置図

略語表

| 略語 | 英語／仏語 | 日本語 |
|----------------|---|--|
| ABS (APA) | Acces and Benefit-Sharing (Accès et Partage des Avantages) | 遺伝資源へのアクセスと利益配分 |
| CBD (CDB) | Convention on Biological Diversity (Convention sur la Diversité Biologique) | 国際連合生物多様性条約 |
| CNC | Coordination Nationale de la COMIFAC | COMIFAC 国家調整官 |
| COMIFAC | Commission des Forêts d'Afrique Centrale | 中部アフリカ森林協議会 |
| COP | Conference of Parties (Conférence des Parties) | 締約国会議 |
| DAC | Development Assistance Committee (Comité d'Aide au Développement) | OECD 開発援助委員会 |
| GIZ | Deutsche Gesellschaft fuer Internationale Zusammenarbeit | ドイツ国際協力公社 |
| GTBAC | Groupe de Travail sur la Biodiversité en Afrique Centrale | 中部アフリカ生物多様性作業グループ |
| GTCCC | Groupe de travail de la Convention sur le Changement Climatique | 気候変動条約作業グループ |
| GTGF | Groupe de travail de la Gestion Forestière | 森林経営作業グループ |
| JCC | Joint Coordination Committee (Comité de pilotage) | 合同調整委員会 |
| JICA | Japan International Cooperation Agency (Agence Japonaise de Coopération Internationale) | 国際協力機構 |
| M/M | Man-month (Homme- mois) | 人月 |
| PDM | Project Design Matrix (Matrice de Concept de Projet) | プロジェクト・デザイン・マトリクス |
| PROGEF | Projet de renforcement des capacités pour la gestion durable de l'écosystème forestier en République du Cameroun | カメルーン国持続的森林エコシステム管理能力強化プロジェクト |
| R/D | Record of Discussions | 合意文書 |
| REDD | Réduction des Emissions dues à la Déforestation et la Dégradation des Forêts | 森林減少および森林劣化に由来する排出の削減 |
| SATREPS-COMECA | Science and Technology Research Partenership for Sustainable Development - Co-création d'une gestion innovante des ressources forestières combinant les méthodes écologiques et les connaissances autochtones | 地球規模課題対応国際科学技術協力 - 在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創 |
| SE COMIFAC | Secrétariat Exécutif de la COMIFAC | COMIFAC 事務局 |
| SGAPFS | Sous Groupe de travail sur les Aires Protégées et la Faune Sauvage | 保護区域野生動物サブグループ |

COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト

| | | |
|-----------------|--|-----------------------|
| TRIDOM | zone de Tri-National Dja, Odzala-Kokoua, Minkébé (TRIDOM) | ジャ、オザラコクア、ミンケベ3ヶ国保護地域 |
| UNFCCC (CCNUCC) | United Nations Framework Convention on Climate Change (Convention-Cadre des Nations-Unis de Changement Climatique) | 国際連合気候変動枠組み条約 |

はじめに

本プロジェクト業務完了報告書は、2015年8月の本プロジェクト開始時から2020年10月31日までをプロジェクト期間、12月25日までを契約期間として実施された『COMIFAC諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト』の完了を報告するものである。

第1章 業務の概要

1.1 プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの背景

コンゴ盆地の森林の役割と現況

アフリカ中部のコンゴ盆地には、アマゾンと並び”地球の片肺”とも言われる熱帯雨林が広がっている。この広大な森林は、REDD+の文脈からいえば、二酸化炭素に代表される温室効果ガスを吸収しそれを貯める貯蔵庫の役割を果たしている。また、この地域の森林は海洋にある水蒸気を大陸へ運ぶポンプの役割を果たしており、水循環という観点からサヘルや赤道アフリカ南部における雨の降り方に大きく影響していることが分かっている¹。つまり、コンゴ盆地の森林は、炭素蓄積だけでなく、中部アフリカ地域ひいてはアフリカ大陸において降雨形成に貢献しており、大きな意味で気候調節機能を果たしているといえる。さらに、コンゴ盆地の森林は固有種も含め多様な生物の生育場所となっており、生物多様性保全の観点からも重要な役割を果たしている。

しかし、世界銀行の報告書²によれば、『現在は、従来からの自給用農地拡大及び木炭生産に加え、鉱山開発、道路整備、アグリビジネスなど様々な増大する圧力にさらされている』とされ、年平均森林減少率は、1990－2000年が0.09%であったのに対し、2000－2005年は0.17%とほぼ2倍に増加している。

COMIFACの成立

中部アフリカ諸国は、コンゴ盆地の森林が果たす役割の重要性を認識し、1999年3月17日にカメルーンのヤウンデで第1回首脳会議を開催し、ここでいわゆる《ヤウンデ宣言》が署名された。ヤウンデ宣言では、『生物多様性の保全と森林生態系の持続的管理の原則及び住民の社会経済発展を支援するために住民が森林資源を利用する権利を尊重すること』が謳われている。

このヤウンデ宣言を具体的に実施するために、2005年2月5日にコンゴ共和国のブラザビルで第2回首脳会議が開催され、中部アフリカ森林生態系の保全と持続的管理に係る条約が採択され、同時に中部アフリカ森林協議会（COMIFAC）が設置されるに至った。

COMIFAC加盟国はブルンジ、カメルーン、コンゴ共和国、ガボン、赤道ギニア、中央アフリカコンゴ民主共和国、ルワンダ、サオトメ・プリンシペ、チャド、の10カ国である。

¹ 出典：<http://blog.cifor.org/> CIFOR ブログ『炭素蓄積を超えて：降雨をもたらすコンゴ盆地の森林』2013年5月、

Denis J. Sonwa CIFOR 研究員

² 出典：『Dynamique de déforestation dans le bassin du Congo』、Novembre 2012、世界銀行等

COMIFACの任務

COMIFACでは10カ年の戦略を収束計画（Plan de Convergence）という形でまとめ、これに則して活動を行っている。2014年8月の臨時大臣会合では、2015年から2025年の第二次収束計画が承認され、現在首脳会議での承認を待っている段階にある。

この第二次収束計画によれば、COMIFACには、“中部アフリカ地域において、中部アフリカ諸国の森林・環境政策の調和を図る”という任務が与えられている。もう少し具体的に言えば、中部アフリカ地域の森林生態系の保全と持続的管理に係る地域レベルでの行動及びイニシアチブの方向付け、調整を行い、意思決定を行うということである。つまり、COMIFACは加盟国の取り組みを尊重しつつも、中部アフリカ全体に共通した森林・環境政策を策定し、同地域の森林や環境の保全とそこに暮らす住民の生活向上を図る地域国際機関と位置づけることができる。

COMIFACの実施体制

重要な決定事項は、執行事務局（以下“事務局”とする）が各加盟国の調査を基礎にとりまとめ、各加盟国の実務者レベルの承認を得た後、大臣会合及び首脳会議による承認を得て正式に決定される。事務局の主導によって実施・作成した調査報告書、各種ガイドライン等は、実務者レベルの承認を得た後、大臣会合による承認を得る。

上位レベルで承認を得た決定事項は、各加盟国に設置されているCOMIFACナショナルコーディネーション（以下、“CNC”とする）を通じて、各加盟国にフィードバックされ、それぞれの国の政策や行政に反映されることになっている。

(2) プロジェクトの概要

本プロジェクトは COMIFAC 事務局からの要請を受けて、2015年3月27日付けで COMIFAC 事務局長と JICA カメルーン事務所長が署名して発効した R/D（Record of Discussion = 協力に係る取り決め）に基づいて、“JICA 専門家が COMIFAC 加盟国に最初に到着した日から 5 年間”を予定プロジェクト期間として開始された。

その後、2018年2月7日に COMIFAC 事務局長、JICA カメルーン事務所長が署名した R/D の修正に係るミニッツにより R/D の変更がなされた。

さらに、2020年8月6日付けの R/D に係る修正についてのミニッツで 2 回目の R/D 変更が行われた。この R/D 変更はプロジェクト期間延長に関するものである。

最初の日本人専門家がカメルーンに到着したのが 2015年8月12日であったので、当初の規定に則して言えばプロジェクト期間は 2020年8月11日に終了ということになる。しかし、2020年3月半ば以降新型コロナウイルス COVID-19 の感染が急激に世界規模で拡大し、3月半ば以降予定されていた日本人専門家派遣が中断され、COMIFAC に係る国際会議も中止され、国際的移動そのものが不可能な事態になった。こうした事態を受け、この 2 回目の R/D 変更によりプロジェクト期間は 2020年10月31日まで延長されることとなった。

2 回目の R/D 変更はプロジェクト期間の延長を対象としたものなので、プロジェクト概要については、1 回目の R/D 変更に従って以下に示す。

(1) プロジェクト名

COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト

(2) 上位目標

COMIFAC 加盟国において森林生態系の保全及び持続的管理が促進される。

(3) プロジェクト目標

COMIFAC の組織能力強化を通じて収束計画の実施が促進される。

(4) 期待される成果

- 1) 気候変動対策ワーキンググループ(Groupe de Travail de la Convention sur le Changement Climatique = GTCCC)および森林ガバナンスワーキンググループ(Groupe de Travail sur la Gouvernance Forestière = GTGF)の活動が強化される。
- 2) 生物多様性保全ワーキンググループ(Groupe de Travail sur la Biodiversité en Afrique Centrale = GTBAC)の活動が強化される。
- 3) COMIFAC 各国調整官の活動が強化される。

(5) 活動

【成果 1 に係る活動】

- 1) GTCCC や気候変動問題に関する会議に対し、技術的支援を行う。
- 2) GTGF や森林ガバナンスに関連する会議に対し、技術的支援を行う。
- 3) 森林資源モニタリングに関する COMIFAC 加盟国の能力強化を行い、収束計画 2 (2015-2025)の実施目標 2.1.2 (森林・野生生物資源に関する質的・量的な知見の向上) あるいは実施目標 4.1.2 (気候変動緩和策の開発と実施) に貢献する。
 - 3)-1 COMIFAC 加盟国の森林資源モニタリングにおける共通ニーズと不足点を明らかにする。
 - 3)-2 関連する JICA 協力の知見・経験、たとえば ALOS-2 の利用可能性や森林インベントリーを活用しつつ、上記 3)-1 の結果に基づき、研修教材を含む研修計画を作成する。
 - 3)-3 中部アフリカ地域の既存の研修体制の活用を通じて上記 3)-2 に基づき、研修を実施する。
 - 3)-4 関連する地域イニシアチブ(森林インベントリー地域ガイドライン作成を含む)に反映させるため、活動 3)-3 の結果をとりまとめる。

【成果 2 に係る活動】

- 1) GTBAC の活動実施を強化する。
 - 1)-1 GTBAC や生物多様性保全に関連する会議に対し、技術的支援を行う。
- 2) COMIFAC 加盟国における名古屋議定書批准を支援するため、Access and Benefit Sharing (ABS)実施に必要な重要な技術に関する知識・スキルを習得するための研修を実施し、収束計画 2 (2015-2025)の実施目標 3.2.1(ABS 戦略の策定・実施)に貢献する。

- 2)-1 本プロジェクトが支援すべき ABS に関する COMIFAC 加盟国の共通ニーズと不足点を明確にする。
- 2)-2 上記の共通ニーズと不足点を満たすために、ABS のラボラトリーワークの分野において技術的支援を提供する
- 3) 越境保護区管理への支援：収束計画 2(2015-2015)の実施目標 3.1.1(すべての代表的な生態系における個別の自然保護区を含む越境保護区の保護エリア網の強化)、3.1.2(保護区と保護区周辺部を含んだ地域の生物多様性モニタリングの確保)、5.1.3(森林地域における雇用・収入の創出の促進)に貢献する。
 - 3)-1 既存の越境保護区について分析を行い、越境保護区管理の改善に向け、パイロット地区と活動を選定する。
 - 3)-2 選定した地区におけるパイロット活動実施計画を作成する（例：可能性のある活動は、生計向上、および、コミュニティの意識向上）。
 - 3)-3 上記 3)-2 パイロットプロジェクト活動実施のための技術的支援を提供する。
 - 3)-4 GTBAC の会合を通じて、パイロット活動から得られた知識ならびにコンゴ盆地内のその他の関連プロジェクトから得られた知識の COMIFAC 加盟国間での共有を支援する。

【成果 3 に係る活動】

- 1) COMIFAC 各国調整官会議及びその他の関連会議に対し技術的支援を提供する。

(6) 対象地域

COMIFAC 加盟 10 カ国が対象地域であり、COMIFAC 事務局本部があるカメルーン国ヤウンデ市を中心としつつ、パイロット活動を実施する。

(7) 関係官庁・機関

中部アフリカ森林協議会（COMIFAC）

(8) 成果品等（成果品等は 2020 年 8 月 28 日の第 3 回変更契約で変更されているので以下に示す）

- 1) 報告書等

表 1 提出すべき報告書等

| レポート名 | 提出時期 | 部数 |
|-------------------------|---------------|---------------------|
| 業務計画書 (共通仕様書の規定に基づく) | 契約締結後 10 日以内 | 和文：4 部 CD-R：1 枚 |
| ワーク・プラン | 業務開始から約 3 ヶ月後 | 仏文：10 部 CD-R：1 枚 |

| | | |
|------------------|---|--|
| Monitoring Sheet | 案件着手後、1 か月後に提出。以後、6 か月ごとに提出。最終のモニタリングシートは、Completion Report として JCC 開催 1 か月前に提出し、JICA の確認を経て、JCC において最終化する。 | 和文および仏文を電子データにて提出 |
| プロジェクト業務進捗報告書 | 2016、2017 年の業務については毎年 12 月 2018、2019 年の業務については翌年 2 月（COMIFAC の年度に合わせて作成） | 各進捗報告書について以下のとおり。 和文：4 部 仏文：10 部 CD-R：1 枚 |
| プロジェクト業務完了報告書（案） | 2020 年 11 月末 | 和文を電子データにて提出 |
| プロジェクト業務完了報告書 | 契約終了時 | 和文：2 部 CD-R：1 枚 |

2) 技術協力成果品等

下記の技術協力成果品等は、プロジェクト業務完了報告書に添付して提出する。

- 1) 森林モニタリングに係る現況調査報告書（仏語の正式タイトルは、“Etude sur l’état des lieux des systèmes de surveillance des ressources forestières des pays de la COMIFAC – Rapport Final”）
- 2) ABS に係る現況調査（Laboratory Work）報告書（仏語の正式タイトルは、“Etude sur l’état des lieux de la bioprospection dans les pays de la COMIFAC – Rapport final”）
- 3) TRIDOM 越境保護区管理現況調査報告書（仏語の正式タイトルは、“Etude sur l’état des lieux de la gestion des aires protégées transfrontalières du TRIDOM”）
- 4) 森林資源モニタリング強化のためのプログラム及び教材（仏語の正式タイトルは、“Supports pédagogiques pour la formation en surveillance des forêts – Volet: Télédétection, Volet: Inventaire forestier, Volet: Rédaction de rapport”）
- 5) ラボラトリ管理強化マニュアル（仏語正式タイトルは、“Guide de bonnes pratiques de gestion des laboratoires des ressources génétiques des pays de l’espace COMIFAC”）
- 6) 越境保護地域協働管理ガイド（仏語正式タイトルは、“Guide de gestion collaborative des aires protégées transfrontalières dans le cadre de la valorisation des produits forestiers non ligneux”）
- 7) 地域森林インベントリー及びモニタリング・ガイド（仏語正式タイトルは、“Guide sous-régional d’inventaire et de surveillance des forêts”）

1.2 本プロジェクトの全体コンセプト

2018 年 2 月 7 日に R/D に修正が加えられた。修正後のプロジェクト概要は上述の通りであるが、主な修正点を以下にまとめておく。

COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト

- 契約期間：当初第1期と第2期の2期分けにしていたが、5年間で1期通期とした。
- 【成果2に関する活動】のラボラトリーワークについて、“ABSに関連するプライベートセクターとの連携強化”を追加した。
- 【成果2に関する活動】のCHM構築につき、全面削除
- 本邦研修の計画・実施につき、全面削除
- 成果品等 1. 報告書等につき、上記修正を受けて関連の成果品等を修正。修正後の成果品等は前節に示したとおり。

この修正は PDM の変更に対応して行われたものであるが、プロジェクトの全体コンセプトに大きな変更は生じていない。すなわち：「支援対象ワーキンググループおよび加盟各国調整官の活動支援強化を通じて、主な具体的成果である“森林資源モニタリング・ガイド”、“ラボラトリーマネジメント・マニュアル”、“越境保護区協働管理ガイド”を産出し、その過程を通じて COMIFAC 関係者の技術および組織運営の能力強化を図る」というものである。

究極的な目標は、COMIFAC 加盟国でそれらの成果を用いた活動が実施され、中部アフリカ地域での生物多様性保全と森林の持続的管理に貢献することあり、この全体コンセプトを図に示すと次図のようになる。

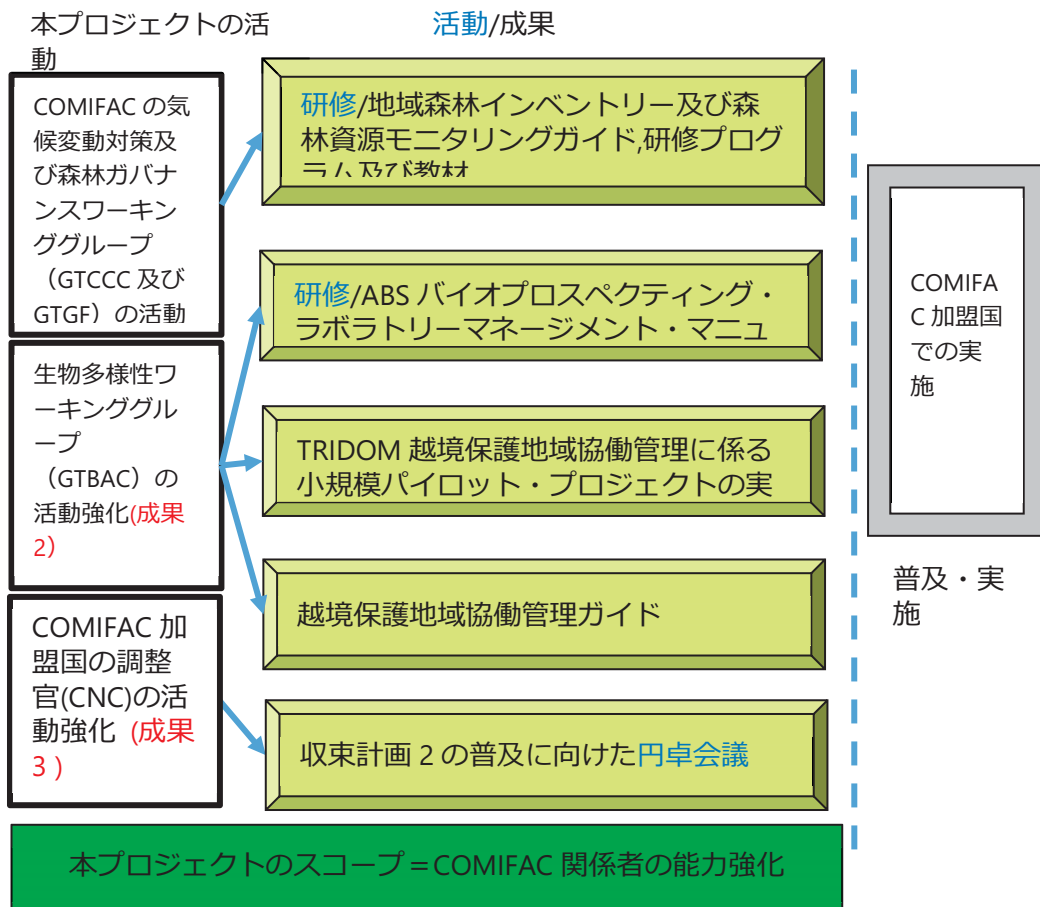


図 1 プロジェクト全体のコンセプト

第2章 活動内容

2.1 業務内容

本プロジェクトは当初、契約期間を2期に分けて実施する予定であったが、2期分けにすると契約更新期間中プロジェクト活動を中断することになる。COMIFAC事務局から係る中断を避けるよう要請があり、JICA本部とも協議のうえ、2期分けをやめ全期を一契約とすることとなった。以下に全期の業務概要を次表に示す。(プロジェクト期間は2015年8月—2020年10月)

なお、当初の特記仕様書で示された下記留意事項への対応は以下のとおりである。

- 現地研修実施に係る現有体制の活用：本プロジェクトでは森林モニタリング研修とABSラボラトリーワーク研修を実施したが、前者についてはCOMIFACの関係機関である森林環境教育ネットワーク(RIFEAC)に加盟するカメルーンおよびガボンの国立水森林学校(ENEF)およびコンゴ共和国の国立農学林学校(ENSAF)を会場として実施した。当初、それらの学校のカリキュラムの利用が要請され、内容を検討したが、内容がすでに時代遅れであることからプロジェクトでカリキュラムを組みこととした。

他方、ABSラボラトリーワークに関しては、RIFEACに係るテーマのコースはなかったため、研究施設の現況調査後にルワンダ大学で実施することを決定した、

- 他ドナーとの連携に留意した活動：特記仕様書で例示されていたGIZのCOMIFAC地域支援プロジェクト、UNDP/GEFのTRIDOM支援プロジェクト、FAOの中部アフリカ国家森林モニタリング構築および地域連携強化プロジェクト、UNEP/GEFのCOMIFAC加盟国のABSに係る名古屋議定書批准と実施支援プロジェクトについていえば、次のようなことが言える。

もっとも連携が緊密にできたのはGIZのCOMIFAC地域支援プロジェクトである。本JICAプロジェクトの事務所が2019年月までGIZの当該プロジェクト事務所の1部屋を借りていたこともあり、当該プロジェクトとは日常的に情報交換をすることができ、各種会合開催支援でも資金的、技術的にお互いのプロジェクトメンバーを招待し、連携することができた。

UNDP/GEFのTRIDOM支援プロジェクトは、むしろ違法ハンティング取締りの要素が強い内容であり、本プロジェクトで目指した地域住民との協働管理をいう考え方と異なる点もあり、連携はしていない。

FAOのプロジェクトの具体的な内容は非木材林産物活用の要素が強く、また、このプロジェクトは本プロジェクト開始後すぐに終了したので連携を図るまでにいかなかった。ただ、本プロジェクトで実施した越境保護地域協働管理パイロットプロジェクトは非木材林産物の活用をテーマにしており、本プロジェクトで作成したガイドでも当該プロジェクトには言及している。

ABSに係るUNEP/GEFのプロジェクトはまさに名古屋議定書のCOMIFAC加盟国での批准促進を目的としたプロジェクトで、そのなかにABSのCHM構築支援が含まれており、重複を避けるため本プロジェクトではCHM構築支援は行わないこととした。

表2 業務内容

| 業務内容 | 備考 |
|------------------------|---------------|
| 《国内準備活動》 | |
| 【1】 ワークプラン・モニタリングシート作成 | モニタリングシート書式確認 |
| 【2】 各種現況調査再委託先検討 | |
| 《プロジェクト全体に係る活動》 | |

| 業務内容 | 備考 |
|--|--|
| 【3】 ワークプランに係る COMIFAC 事務局との協議 | ワークプラン(仏語)に係る協議 |
| 【4】 モニタリングシートに係る COMIFAC 事務局との協議 | |
| 【5】 モニタリングシートの記入と JICA への提出 | 第 1 回モニタリングシートの提出 |
| 【6】 TRIDOM 越境保護区内のパイロットプロジェクトサイトに係る COMIFAC 事務局及び TRIDOM 関係者との協議 | |
| 【7】 キックオフワークショップ開催（関連ドナー招請） | 2016 年 1 月 26 日、カメルーンのドゥアラにて開催 |
| 【8】 世界林業会議参加支援 | ガボンおよび DRC の JICA 案件のカウンターパートによる発表支援 |
| 【9】 UNFCCC COP 参加支援 | COMIFAC 事務局次長および担当専門家参加支援 |
| 【10】 CDB COP 参加支援 | COMIFAC 事務局生物多油性担当専門家参加支援 |
| 【11】 プロジェクト業務進捗報告書作成 | 第 1 回プロジェクト業務進捗報告書 |
| 【12】 プロジェクト業務進捗報告書の COMIFAC 事務局への説明・協議 | 合同調整委員会では、前年の活動報告と当該年の活動計画を提示し、承認を求めるが、ここでは COMIFAC 方式の簡易な業務進捗報告を実施。 |
| 【13】 プロジェクト業務進捗報告書の COMIFAC 事務局への提出 | JCC でのコメントを反映して最終版を送付 |
| 【14】 情報共有会議(合同調整委員会(JCC)を含む) の開催 | 第 1 回 JCC はキックオフワークショップの前日の 2016 年 1 月 25 日にカメルーンのドゥアラで開催。以降、原則として年初の 1 月または 2 月初めに開催。 |
| 【15】 広報活動 | キックオフワークショップや JCC 開催時、TV や新聞媒体で取り上げられたが、記録はほとんど保存されていない。 |
| 【16】 プロジェクト業務完了報告書ドラフト(和文) 作成 | 案件実施途中で、最後のモニタリングシートをプロジェクト・コンプリーション・レポートとして作成することが明確にされ、プロジェクト業務完了報告書は和文のみ作成となった。 |
| 【17】 プロジェクト業務完了報告書仏文ドラフトの COMIFAC 事務局との説明協議 | ここでいうプロジェクト業務完了報告書は Project Completion Report と読み替える。 |

| 業務内容 | 備考 |
|---|---|
| 【18】プロジェクト総括ワークショップ開催 | 2020年3月半ば以降、JICAから日本人専門家の派遣を中断するように指示が出たこと、またカメルーン側も国境を一時閉鎖するなどカメルーンとの往来が難しくなったため、当該ワークショップと最終JCCを2020年10月14日にオンライン形式で実施した。 |
| 【19】プロジェクト業務完了報告書最終化 | Project Completion Reportとは別に、その記述内容を基礎としながらプロジェクト業務完了報告書を作成した。 |
| 【20】プロジェクト業務完了報告書及び技術協力成果品のJICAへの提出 | プロジェクト業務完了報告書を2020年12月7日にJICAへ提出 |
| 《成果1に係る活動》 | |
| 【21】GTCCCの年間活動計画の確認及びプロジェクトの年間支援活動計画確定 | GTCCCの年間活動計画は一応策定されるが、その日程は頻繁に変更されるので【22】の活動とともにこの計画策定活動は実施できなかった。 |
| 【22】プロジェクトの年間支援活動計画に則したGTCCCの年間活動計画実施技術支援 | |
| 【23】GTGFの年間活動計画の確認及びプロジェクトの年間支援活動計画確定 | 事情はGTCCCの計画策定状況と同様であった。また、案件半ば以降、GTGFは担当専門家不在となり活動が実施されなくなった。 |
| 【24】プロジェクトの年間支援活動計画に則したGTGFの年間活動計画実施技術支援 | |
| 【25】森林モニタリング現況調査に係る再委託仕様書案作成 | 現況調査の再委託仕様書はプロジェクトで案を作成した。 |
| 【26】森林モニタリング現況調査再委託仕様書案に係るCOMIFAC事務局との協議 | 上記の案をCOMIFAC事務局の担当者と協議し確定した。 |
| 【27】森林モニタリング現況調査再委託契約、調査実施及び調査監理 | 再委託にてCOMIFACの全加盟国について森林モニタリングの現況を調査し、その報告書は2016年10月のGTCCC会合で承認された。 |
| 【28】森林モニタリング現況調査結果分析（共通ニーズと現地リソース分析） | |
| 【29】森林モニタリング研修計画作成及びCOMIFAC事務局との協議・確定 | 上記報告書に基づいて、森林モニタリング研修の全体コンセプトを構想し、それに合わせて暫定研修計画を作成。 |
| 【30】森林モニタリング研修教材準備 | 全体コンセプトの流れに対応する研修方法を定め、教材は各研修実施時に準備した。 |

| 業務内容 | 備考 |
|--|--|
| 【31】 森林モニタリング研修実施 | 森林モニタリング研修は、開催国をカメルーン、ガボン、コンゴ共和国と分けたので、各国の関係機関との調整に時間を要することから、2017年、2018年、2019年の3か年に渡って実施した。 |
| 【32】 中部アフリカ地域森林インベントリーガイドラインに関する情報収集（随時） | |
| 【33】 研修で得た知見を活かした中部アフリカ地域森林インベントリーおよびモニタリング・ガイド案の作成 | プロジェクトが中部アフリカ地域森林インベントリーおよびモニタリング・ガイド案を作成した。 |
| 【34】 上記ガイドに係る COMIFAC 事務局および加盟国との協議 | 上記案を COMIFAC 事務局の担当専門家と協議しつつ、改良し、最終案を 2020 年 3 月 6 日にカメルーンのドゥアラで開催した承認ワークショップで協議し、そこで得られたコメント対応を条件に承認を受けた。 |
| 【35】 森林モニタリング研修結果の最終とりまとめおよび中部アフリカ地域森林インベントリーおよびモニタリング・ガイドの最終化 | 森林モニタリング研修教材、研修計画および中部アフリカ地域森林インベントリーおよびモニタリング・ガイド作成 |
| 《成果 2 に係る活動》 | |
| 【36】 GTBAC 年間活動計画の確認及びプロジェクトの年間支援活動計画確定 | GTBAC は GTCCC や GTGF に比べて活動が活発で、活動計画も作成されるが、最終的な活動日程は直前にならないと決まらない。 |
| 【37】 プロジェクトの年間支援活動計画に則した GTBAC 年間活動計画実施技術支援 | 上記の理由で支援計画は全体の年次作業計画を年初に作成 |
| 【38】 ABS (Laboratory Work)に係る国内方針会議 | |
| 【39】 ABS (Laboratory Work)に係る概況調査再委託仕様書作成 | 概況調査の再委託仕様書をプロジェクトチームが作成 |
| 【40】 ABS (Laboratory Work)概況調査仕様書案の COMIFAC 事務局との協議 | 作成した仕様書を COMIFAC 事務局担当専門家と協議後確定。 |
| 【41】 ABS (Laboratory Work)概況調査に係る再委託契約 | 2016 年 3 月 22 日に契約 |
| 【42】 ABS (Laboratory Work)概況に係る調査実施及び調査監理 | 概況調査報告書は 2016 年 11 月に開催の GTBAC 会議の 1 セッションで承認 |
| 【43】 概況調査結果を受けての施設詳細調査実施 | 概況調査と並行する形で日本人専門家によるカメルーン、コンゴ共和国、ルワンダでの施設詳細調査実施 |

| 業務内容 | 備考 |
|---|---|
| 【44】 ABS 推進に向けたニーズ分析： ABS(Laboratory Work)現況詳細調査結果分析 | 概況調査および施設詳細調査結果を受けて、多人数の研修生を受け入れられるキャパシティなどを勘案し、研修実施場所をルワンダのルワンダ国立大学フイエキャンパスと決定。 |
| 【45】 Laboratory Work に係る能力強化マニュアル案作成 | 当該マニュアルの基本コンセプトは Laboratory 管理に焦点を合わせると決定 |
| 【46】 Laboratory Work に係る能力強化マニュアル案の COMIFAC 事務局との協議 | 上記コンセプトを COMIFAC 事務局担当専門家と協議し了承を得る。 |
| 【47】 Laboratory Work に係る能力強化研修計画案作成 | プロジェクトで、遺伝子抽出などの技術は短時間で研修はできないので、むしろ研究施設の管理改善に資する管理方法に焦点を合わせた研修コンセプトを COMIFAC 担当専門家へ提案。 |
| 【48】 Laboratory Work に係る能力強化研修計画案の COMIFAC 事務局との協議 | 上記コンセプトについて COMIFAC 担当専門家の了承を得る |
| 【49】 Laboratory Work に係る能力強化研修実施 | 研修はルワンダの国立ルワンダ大学フイエキャンパスで 2017 年、2018 年に実施。 |
| 【50】 Laboratory Work に係る能力強化マニュアルの GTBAC 会議での確定 | 上記 2 回の研修の成果であるチェックリストおよび研究者ネットワークを活用して、Laboratory 管理マニュアル作成 |
| 【51】 Laboratory Work に係る能力強化マニュアル普及ワークショップ | マニュアルの作成自体を 2020 年 2 月にルワンダのキガリで地域研究者主体の 100%参加型で実施。 |
| 【52】 ABS に関連する民間セクターとの連携強化 | 2019 年 9 月 30 日～10 月 1 日にカメルーンのドゥアラで、日本の民間企業関係者 3 名を招請し、中部アフリカ ABS 関係者とのコンタクトフォーラムを実施。 |
| 【53】 TRIDOM 越境保護区管理現況調査に係る再委託仕様書案作成 | 再委託仕様書案をプロジェクトチームで作成。 |
| 【54】 TRIDOM 越境保護区管理現況調査の再委託仕様書案に係る COMIFAC 事務局との協議 | 上記案を COMIFAC 事務局担当専門家と協議、了承を得る。 |
| 【55】 TRIDOM 越境保護区管理現況調査の再委託契約、調査実施及び調査監理 | 現況調査の実施。 |
| 【56】 越境保護区管理現況調査の結果分析 | 調査結果分析から、保護地域管理の最大の課題は管理当局と地域住民との信頼関係がないことであることが明確となる。 |
| 【57】 越境保護区管理体制に関する方針策定： COMIFAC 事務局及び TRIDOM 関係者との協議 | 管理当局と地域住民の信頼関係を醸成するため、非木材林産物を活用して保護地域の協働管理体制の構築を図る方針を決定した。 |

| 業務内容 | 備考 |
|---|--|
| 【58】越境保護区管理に関する調整会議の技術的な支援 | GTBAC の下位グループである保護区域・野生動物サブグループ (SGAPFS) の会合開催 (2017 年 4 月 27 日～29 日) を支援し、上記基本方針を周知。 |
| 【59】越境保護区体制強化のための活動計画 (小規模生計向上パイロットプロジェクトを含む) 策定及び COMIFAC 事務局及び対象国政府関係者との協議・確定 | |
| 【60】小規模生計向上パイロットプロジェクトのプロジェクト直営実施準備 | 当初、パイロットプロジェクト実施は再委託での実施を想定していたが、カメルーンでの対象サイト (グリベ村周辺) については、業務の確実性を担保するためプロジェクト直営での実施へ変更した。 |
| 【61】小規模生計向上パイロットプロジェクトの直営実施及び監理 | |
| 【62】小規模生計向上パイロットプロジェクト中間取り纏め | カメルーン側サイトでのパイロットプロジェクトの結果を取りまとめた。 |
| 【63】小規模生計向上パイロットプロジェクトの再委託先選定 | COMIFAC 事務局からの強い要請を受け、コンゴ共和国側のサイトでもパイロットプロジェクトを実施することとなり、こちらは日本人専門家の現地出張が難しいことから再委託で実施することとした。 |
| 【64】小規模生計向上パイロットプロジェクトの再委託による実施及び再委託先監理 | |
| 【65】パイロットプロジェクト成果の Reference Book への取り纏め | カメルーンおよびコンゴ共和国でのパイロットプロジェクトの結果を基礎に、“非木材林産物の活用を通じた越境保護地域協働管理ガイド”を作成した。 |
| 【66】Reference Book の GTBAC 会議での確定 | 上記ガイドは 2020 年 3 月 6 日、カメルーンのドゥアラで開催された検討・承認ワークショップで承認された。 |
| 《成果 3 に係る活動》 | |

| 業務内容 | 備考 |
|--|---|
| <p>【67】各国調整官(CNC)に係る現況の確認</p> | <p>CNCはCOMIFACのFocal Pointとしてナショナルコーディネータを加盟国が任命することから出発し、その後チームとして機能することを目指している。その主な役割は収束計画の加盟国における実施とそのモニタリング。COMIFAC事務局から資金的支援はなく、CNCの活動は原則として各国政府の予算により実施することとなっているが、予算措置が講じられている加盟国は少なく、資金不足からCNCの活動はそれほど活発ではない。</p> |
| <p>【68】プロジェクトの支援活動計画に則したCNC年間活動計画の実施技術支援</p> | <p>プロジェクト後半にCOMIFAC事務局からの強い要請を受けて、収束計画普及のための円卓会議支援およびCNCの体制強化のためのプラットフォーム開催支援を実施した。</p> |

2.2 本プロジェクトで実施した主な活動

本節では、プロジェクト開始から終了までに実施した主な活動を、Project Completion Report の記述にならって年ごと、またプロジェクト全体に係る事項および各成果別の活動に整理して記載する。

【2015年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- ▶ プロジェクト開始準備として、プロジェクト事務所用物件の賃借、カメルーン人スタッフの傭人、事務機器の調達等を行った。
- ▶ プロジェクトの各活動の方針説明ワークショップを COMIFAC 事務局専門家を対象に実施した（2015年9月3日）。ただし、事務局の執行部の予定が非常にタイトであるとのことで、正式のキックオフワークショップおよび第1回合同調整委員会（JCC）の開催は2016年1月に実施することとなった。
- ▶ ワークプラン及び2016年活動計画の最終化に係る、COMIFAC 事務局との協議を行い（2015年11月、12月）、2016年1月の第1回 JCC で承認することとなった。

《成果1》気候変動ワーキンググループ (GTCCC) および森林ガバナンスワーキンググループ (GTGF) の活動が強化される

- ▶ 世界林業会議（南アフリカ・ダーバン）における COMIFAC のサイド・イベント開催支援（2015年9月7日～11日）。この会議では、この時期、JICA 支援で実施していたガボンおよびコンゴ民主共和国の森林モニタリングシステム強化プロジェクトのカウンターパート機関代表者を招請し、プロジェクトに係る発表を行った。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される

- ▶ ABS 現況調査の一環として、ヤウンデ（カメルーン）における研究機関（ラボ）の視察（2015年9月4日～9日）を実施した。

《成果3》COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- ▶ 2015年に成果3に係る活動は実施していない。

【2016年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- ▶ 第1回合同調整委員会の開催、ドゥアラ、カメルーン（2016年1月25日）。
- ▶ プロジェクト・キックオフ・ワークショップの開催、ドゥアラ、カメルーン（2016年1月26日）。
- ▶ プロジェクト合同調整委員会設置に係る決定第 001/COMIFAC/SE/16 発令(2016年3月22日)

《成果1》気候変動ワーキンググループ (GTCCC) および森林ガバナンスワーキンググループ (GTGF) の活動が強化される

- ▶ COMIFAC 加盟諸国における森林資源モニタリングシステム現況調査の実施。
- ▶ GTCCC 関連会議の開催支援（2016年5月）(COMIFAC 加盟国の COP21 の結果共有)。
- ▶ GTCCC 関連会議の開催支援（2016年9月）(COP22 における COMIFAC 共通スタンス協議)。
- ▶ GTCCC 関連会議の開催支援（2016年10月）(COP22 における COMIFAC の共通スタンス確認)；同会議において現地再委託により作成した森林資源モニタリングシステム現況調査報告書の承認セッ

ションを開催、承認を得る。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される

- ▶ カメルーン国の BUEA 大学及び Dchang 大学における、ABS のための研究機関 (ラボ) の視察 (2016 年 1 月 27 日～30 日)。
- ▶ 第 24 回 GTBAC 会議の開催支援 (2016 年 11 月) (メキシコ、カンクンで開催の生物多様性条約 (CBD)COP13 に係る COMIFAC の共通スタンス確認)。
- ▶ メキシコのカンクンで開催された CBD COP13 への、COMIFAC 事務局生物多様性担当専門家派遣支援 (2016 年 12 月 2 日～7 日)。
- ▶ 現地再委託により作成したバイオプロスペクティング現況調査報告書承認会議の開催し、承認を得る。
- ▶ 現地再委託により作成した TRIDOM 越境保護区管理システム現況調査報告書の承認会議を開催し、承認を得る。

《成果3》COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- ▶ COMIFAC 各国調整官能力強化セミナーの開催支援 (2016 年 6 月) (収束計画の指標および開発されたモニタリングソフトの利用研修)。
- ▶ COMIFAC 各国調整官能力強化セミナーの開催支援 (2016 年 11 月) ((収束計画の指標および開発されたモニタリングソフトの利用研修)。

【2017 年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- ▶ 第 2 回合同調整委員会を 2017 年 1 月 26 日にカメルーンのドゥアラで開催。2016 年の活動進捗及び 2017 年の活動計画を議論し、承認される。

《成果1》気候変動ワーキンググループ (GTCCC) および森林ガバナンスワーキンググループ (GTGF) の活動が強化される

- ▶ カメルーンの前ドゥアラにおける、GTGF 会合の開催 (2017 年 4 月 24 日～26 日)。ニューヨークで開かれる第 12 回国連森林フォーラムへの COMIFAC 加盟諸国の参加準備を目的とした会合。
- ▶ ルワンダのキガリにおける、GTCCC 会合の開催 (2017 年 3 月 9 日～11 日)。この会合の目的は、COP22 で得られた成果の共有、および、今後の UNFCCC の各種会合における COMIFAC 諸国の共通スタンスについて協議すること。
- ▶ 赤道ギニアのマラボにおける GTCCC 会合の開催 (2017 年 6 月 22 日～24 日)。この会合において、COMIFAC 各国が GCF の準備資金調達メカニズムと手続きについて協議し理解を深めた。
- ▶ ガボンのリーブルビルにおける、「Congo Basin MRV Week」の開催 (2017 年 7 月 17 日～21 日)。この会合には加盟各国の MRV 専門家と、地域住民組織、技術支援パートナー機関、財政面パートナー機関の代表らが参加し、COMIFAC 加盟 10 か国における MRV の現状について共通理解を得た。
- ▶ コンゴ共和国のブラザビルにおける、GTCCC 会合の開催 (2017 年 8 月 28 日～30 日)。この会合では、UNFCCC COP23 における COMIFAC 諸国の共通スタンスについて、議論と採択がなされ

た。

- 12月4日から8日にカメルーンのウンバルマヨの水森林学校(ENEF)において、1回目の森林モニタリング研修-リモートセンシング技術を用いた森林モニタリングを開催。

参加者は、チャド、中央アフリカ、コンゴ民主共和国、ガボン、サウトメプリンシペ、コンゴ共和国、ブルンジからリモートセンシング技術者各1名と開催国カメルーンの技術者8名の計15名であった。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される

- カメルーンのドゥアラにおける第25回GTBAC会合の開催(2017年4月24日~26日)支援。この会合でCBD COP13にて得られた成果を加盟国で共有。
- カメルーンのドゥアラにてGTBACの下位作業グループのひとつである保護区域・野生動物サブグループ(SGAPFS)の第6回会合開催(2017年4月27日~29日)支援。
- カメルーンの東部州グリベ村において越境保護地域(TRIDOM)管理に係るパイロットプロジェクトのキックオフ会合を開催した(2017年8月30日)。このパイロットプロジェクトは、これまで取り締まる側と取り締まれる側としていわば対立関係にあった国立公園管理官などの管理当局と地域住民との関係を協力関係へ変えることを目的として、非木材林産物についての地域住民の資源モニタリング能力の向上を図って地域住民の発言権を強め、管理当局との協働を通じて保護地域管理を推進しようとするものである。この会合では、行政関係者や地方オーソリティー、関係村民にこうしたプロジェクトの内容を説明し、その理解を得ることができた。
- ABSラボラトリーワーク研修を、ルワンダ大学とMOUを結び、9月18日から10月6日まで同大学のHuyeキャンパスにおいて実施。今回の研修はラボラトリーマネジメントと基礎解析技術をテーマとして実施し、それぞれの技術者を招請した。
参加者は、ガボンと赤道ギニアを除く8ヶ国から各2名、開催国ルワンダから5名の計21名であった。ガボンと赤道ギニアからの参加がなかったのは、ともにそれぞれの国のABSフォーカルポイントにCOMIFAC事務局から連絡をしていたが、赤道ギニアの場合はそれに対する応答がなかったこと、ガボンの場合は研修開催直前に参加申し込みがあり、チケット手配などを行ったが、結局自己都合で不参加となったためである。

《成果3》COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- 赤道ギニアのバタ市における、収束計画2の普及に向けた円卓会議開催支援(2017年6月17日)。この支援により、赤道ギニアにおいて、COMIFAC収束計画2を関係の中央省庁だけでなく地方出先機関の関係者にも普及することができた。
- コンゴ民主共和国のキンシャサにおける、収束計画2の普及に向けた円卓会議の開催(2017年9月29日)。

【2018年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- カメルーンのドゥアラにおけるプロジェクト活動進捗報告ワークショップの開催(2018年1月26日)。

- カメルーンのドゥアラにおける第3回合同調整委員会（JCC）の開催。（2018年1月27日）。
- コンゴ共和国ブラザビルにおける COMIFAC 臨時閣僚会議の開催支援（2018年3月15日）。
- 上記臨時閣僚会議に先立ち、専門家会合開催（3月13日～14日）。
- 臨時合同調整委員会の開催（2018年5月23日）。ここで改めて2018年の年次作業計画を協議し、承認を得る。

《成果1》気候変動ワーキンググループ(GTCCC)および森林ガバナンスワーキンググループ(GTGF)の活動が強化される

- コンゴ共和国ブラザビルにおける、GTCCC 会合の開催支援（2018年2月13日～14日）。この会合で UNFCCC の COP23 の結果を COMIFAC 加盟国関係者で共有。また COMIFAC 臨時会議の資料を作成。
- ガボンの水森林学校(ENEF)において森林モニタリング研修－森林インベントリ編－を実施（2018年6月4～8日）。
参加者は、チャド、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、ブルンジ、カメルーン、サントメプリンシペ、中央アフリカから各1名、開催国であるガボンから3名の計11名であった。
- カメルーンのクリビにおいて GTCCC の開催支援（2018年10月16日～18日）。これは、ポーランドの UNFCCC COP24（カトヴィツェにて2018年12月に開催）の準備を行い、同時に本プロジェクトで作成予定の森林モニタリングガイドについての協議を行った。
- ポーランドのカトヴィツェで開かれた COP24 への COMIFAC 担当専門家の参加支援（2018年12月3日～14日）。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される

- カメルーンのドゥアラにおける、第26回 GTBAC 会合の開催（2018年1月22日）。
- ドゥアラにおける、第27回 GTBAC 会合の開催（2018年6月13日～16日）。この会合で、ドイツのボンで実施される生物多様性条約実施補助機関会合(SBI)での COMIFAC としての共通スタンスを確認した。
- 第2回 ABS ラボラトリー研修の実施：第2回ラボラトリーワーク研修は、ルワンダ大学と MOU を結び、COMIFAC 事務局専門家の出席を得て、2018年7月30日～8月3日にルワンダ大学 Huye キャンパスにおいて実施。
参加者は、ブルンジ2名、カメルーン2名、チャド2名、コンゴ共和国2名、コンゴ民主共和国2名、ガボン1名、サントメプリンシペ2名、開催国ルワンダ19名の計32名であった。
- 越境保護地域管理パイロットプロジェクトサイトのカメルーンのグリベ村で、スポーツハンティング業者と住民間の利害調整を目的として、第3回大規模対話集会を開催（2018年3月15日）。関係者間の協議において、企業と住民を仲介する COVAREF（動物資源開発委員会）の能力強化とコミュニティへの公正な利益配分の必要性が強調された。
- カメルーンのドゥアラにて、パイロットプロジェクトから得られた教訓・知見をまとめた リファレンスブックの概要についての検討会議を開催（2018年5月24日）。同リファレンスブックは、多様なステークホルダー間の協働関係を構築し、住民生活と森林保全の両立を推し進めることを中心課

題に据えて作成することとなった。

- ▶ 赤道ギニアのバタにおける、第 28 回 GTBAC 会合の開催（2018 年 10 月 15 日～19 日）。これは、CBD COP14（エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催）への COMIFAC 加盟諸国の参加準備を目的とする重要な会合。
- ▶ CBD COP14 は、エジプトのシャルム・エル・シェイクにて 11 月 17 日～29 日に開催された。同会議への COMIFAC 担当専門家派遣支援を実施した。

《成果 3》COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- ▶ COMIFAC 収束計画普及円卓会議の開催（2018 年 5 月 29 日、ルワンダのキガリにて）。この会議では、ルワンダの土地・森林省大臣が議長を務め、JICA ルワンダ事務所代表者が開会式で挨拶。
- ▶ ガボンのリーブルビルにおける円卓会議の開催（2018 年 11 月 22 日）。この会議にはガボン森林省部局職員など約 100 人の関係者が参加。COMIFAC 収束計画 2 の普及を図ることができた。

【2019 年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- ▶ 2018 年活動報告 WS（2019 年 1 月 31 日）と第 4 回合同調整委員会（2019 年 2 月 1 日）を開催。JICA 本部ミッションが両日の会合に出席。
- ▶ COMIFAC2019 年年間活動計画策定会議の開催（2019 年 2 月 27 日～3 月 1 日。於「サントル・トゥーリストティック・ドゥ・ンコルアンドム」会議室）。
- ▶ 支援ドナーとりわけ GIZ および JICA の支援を得て、第 10 回 COMIFAC 加盟国閣僚会議が開催された（2019 年 7 月 9 日～11 日。於「ホテル モンフェベ」カメルーン・ヤウンデ）。同会議において議長国がルワンダからカメルーンへ交代。
- ▶ アフリカ開発銀行と JICA がコートジボワールのアビジャンにて REDD+関連ワークショップ“Workshop for the Design of REDD+ Projects in Africa : Lessons learned and perspectives”を共同開催（2019 年 8 月 13 日～16 日）。本プロジェクトでは同会合への COMIFAC 次長の参加を支援。

《成果 1》気候変動ワーキンググループ(GTCCC)および森林ガバナンスワーキンググループ(GTGF)の活動が強化される

- ▶ カメルーンのドゥアラで開催した 2018 年活動報告ワークショップにて、第 2 回森林モニタリング研修の結果を報告（2019 年 1 月 31 日）。
- ▶ コンゴ共和国ブラザビルにて、第 3 回森林モニタリング研修（リポーティング編）を実施（2019 年 3 月 4 日～8 日）。今回の研修は第 1 回および第 2 回研修参加者と UNFCCC へのリポーティング担当者を含め、原則として各国 3 名を招請した。結果として、ガボン 3 名、コンゴ民主共和国 3 名、中央アフリカ 3 名、カメルーン 4 名、赤道ギニア 1 名、チャド 2 名、サオトメプリンシペ 3 名、開催国コンゴ共和国 4 名の計 23 名であった。ブルンジからも 3 名を招請していたが、コンゴ共和国の入国ビザ取得が間に合わず不参加となった。
- ▶ 気候変動ワーキンググループ(GTCCC)会合開催を支援（2019 年 3 月 5 日～7 日。於マラボ（赤道ギニア））。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される

- COMIFAC 諸国の研究者と日本の民間企業を招聘して行う ABS コンタクトフォーラム開催について、日本人専門家と COMIFAC 生物多様性担当専門家が協議した結果、当初は 2019 年 9 月 30 日、10 月 1 日にルワンダのキガリで開催すると計画した。しかし、その後、ルワンダに近い DRC のゴマ市でエボラ患者の発生が報告された。これにより日本企業関係者をルワンダに送ることが難しくなったため、プロジェクトチームは改めて COMIFAC 事務局担当専門家と協議を行い、日程は変更せず、開催場所をカメルーンのドゥアラに変更してコンタクトフォーラムを実施することとなり、実施の運びとなった。日本企業関係者は 3 名が参加し、日本の研究経験や研修生受け入れ態勢などをプレゼンテーションし、中部アフリカ研究者との間で相互理解を深めることができた。係る機会を増やすことで相互理解が一層促進されることが望まれる。

参加者の国別内訳は、カメルーン 11 名、ブルンジ 1 名、コンゴ共和国 3 名、赤道ギニア 3 名、コンゴ民主共和国 2 名、中央アフリカ 3 名、ルワンダ 3 名、サントメプリンシペ 3 名、チャド 3 名、JICA カメルーン事務所 2 名、GIZ 関係者 2 名、COMIFAC 事務局関係者 5 名、日本の民間企業関係者 3 名、プロジェクトチーム 7 名の計 51 名であった。

- TRIDOM のコンゴ共和国側エリアにおける越境保護地域協働管理に係るマイクロパイロットプロジェクトのキックオフミーティングの開催（2019 年 4 月 25 日。於コンゴ共和国・センベ）。このマイクロパイロットプロジェクトは 2019 年 12 月に終了し、カメルーンおよびコンゴ共和国でのマイクロパイロットプロジェクトの経験を活かして越境保護地域協働管理ガイドブックを作成することができた。

《成果3》COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- COMIFAC ナショナルコーディネーション（CNC）プラットフォーム（加盟各国の CNC と各種 COMIFAC 作業グループのフォーカルポイントで構成されている会議体）の実践力強化に向けたワークショップの開催（2019 年 6 月 7 日～8 日。於コンゴ共和国ブラザビル）。このワークショップは、コンゴ盆地における森林生態系の保全および持続可能な経営イニシアティブの実施について、モニタリングと調整を行うための地域レベルの能力強化の一環として COMIFAC が開催し、本プロジェクトはその開催を支援。

【2020 年】

《プロジェクト全体に係る活動》

- 最終 JCC および最終総括セミナーを 2020 年 4 月に開催予定であったが、COVID-19 の影響で日本人専門家の派遣が中断され、カメルーン国内も外出制限など各種制限が発動されたため、2020 年 10 月 14 日に Web 会議の形で最終 JCC と最終総括セミナーを実施し、Project Completion Report 仏語版の承認を受けた。

《成果1》気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される

- 2020 年 3 月 6 日、カメルーンのカメルーンのドゥアラで森林インベントリ・モニタリングガイド承認ワークショップを開催し、そこで出されたコメントを反映することを条件に承認された。

《成果2》生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される

- 2020年2月12日～14日、ルワンダのキガリでABSラボラトリー管理ガイド検討・承認WS開催。本ワークショップでのコメント反映を条件としてガイドが承認された。本ガイドは外部コンサルタントではなくCOMIFAC加盟国研究者自身により作成されたCOMIFAC域内初のガイドといふことができ、その意味できわめて画期的なガイドである。
- 2020年3月6日、カメルーンのドゥアラで越境保護地域協働管理ガイド検討・承認ワークショップ開催。本ワークショップにおいても本ワークショップでのコメント反映を条件としてガイドが承認された。

《成果3》COMIFAC各国調整官の活動が強化される

- 2020年2月17日～18日、ルワンダのキガリでルワンダCNCプラットフォームの開催を支援した。CNCプラットフォーム開催支援はコンゴ共和国に次いで2ヶ国目である。

第3章 プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓

3.1 業務実施方法の課題・工夫・教訓

本プロジェクトは、中部アフリカの地域国際機関である“中部アフリカ森林協議会 (Commission des Forêts d'Afrique Centrale=COMIFAC)”を協力対象機関として JICA の地域アプローチを実践する実質的に初めての技術協力プロジェクトであるとされていた。

その意味で第一に挙げることのできるプロジェクト実施運営上の課題は、JICA にせよその受託機関である JAFTA にせよ従来の二国間協力アプローチには慣れているが、こうした多数国で構成される地域国際機関を対象とする技術協力には不慣れであったということである。

たとえば、COMIFAC には加盟国の取り扱いが平等でなければならないという原則がある。この原則を具体的に示すとプロジェクトがなんらかの活動を実施する場合、全加盟国を対象とする必要がある、あるいは全加盟国に諮ってその同意を得る必要がある、ということである。この原則を厳密に適用しようとすると、実施可能な活動は全加盟国が参加する国際会議の開催支援や全加盟国からの参加者を対象とする研修の実施などに限られることになる。

かかる COMIFAC の原則を最大限尊重して実施した本プロジェクトの主な活動は、COMIFAC の気候変動作業グループや生物多様性作業グループなどの会議開催や COMIFAC のナショナルコーディネーションの会議開催支援であり、さらに COMIFAC 事務局専門家の国際会議参加支援など会議に係る支援であった。COMIFAC の任務が気候変動対策や生物多様性保全などのテーマとする国際会議での中部アフリカの共通スタンスを促進するということから見て、COMIFAC の活動の主体が会議開催を通じた加盟国間の調整であるというのは十分理解できるところである。

さらに、本プロジェクトでは全加盟国を対象として、気候変動枠組み条約との関連で森林インベントリ・モニタリングに係る研修を、また生物多様性条約名古屋議定書との関連で遺伝資源活用のラボラトリー管理に係る研修を実施した。

他方、本プロジェクトではある加盟国でパイロットプロジェクトを実施し、その結果をまとめる形で“ガイドブック”を作成するアプローチをカメルーン、コンゴ共和国、ガボンの3ヶ国にまたがる越境保護地域管理のテーマについて採用した。このアプローチは加盟国すべてを対象とすべきとの COMIFAC の原則には必ずしも則していないが、何らかのパイロット活動を実施するとなるとそれを全加盟国対象として進めるのは資金的にもまたロジスティック的にも極めて難しい。そこで、COMIFAC 支援の主要ドナーである GIZ も会議支援や研修は全加盟国を対象とし、パイロットプロジェクトは幾つかの加盟国を選んで実施するというアプローチをとっており、COMIFAC 側もこれを受け入れている。本プロジェクトの越境保護地域 TRIDOM の管理に係るパイロットプロジェクト実施はまさにそうした枠組みに則したものであった。ただ、当初はメルーン国内のサイトだけでパイロットプロジェクトを実施し、その結果を受けて“Reference Book”の作成を想定したが COMIFAC 側から加盟国1ヶ国における活動に係る文書を作成しても、それは加盟国に共通の参照文献にはなり得ないとの指摘があり、協議の結果 TRIDOM のコンゴ共和国側サイトでもパイロットプロジェクトを実施し、それらの結果をまとめる形で“越境保護地域協働管理ガイド”を作成することになった。

以下に、本プロジェクトの主要な活動である各種会議開催支援、森林モニタリングおよび ABS ラボラトリーに係る研修、越境保護地域管理に係るパイロットプロジェクトの実施についてより詳しく実施上の工夫・教訓を示す。

a. 各種会議開催支援

上述のとおり、各種会議の開催は COMIFAC の活動としてきわめて重要である。本プロジェクトでは気候変動対策ワーキンググループ、森林ガバナンスワーキンググループおよび生物多様性保全ワーキンググループの会議、COMIFAC 加盟各国のナショナルコーディネーション(CNC)の会議(収束計画普及円卓会議、ナショナルコーディネーションプラットフォーム)の開催を支援する一方、世界林業会議、気候変動枠組み条約締約国会議、生物多様性条約締約国会議などの国際会議への COMIFAC 事務局専門家の派遣支援を行った。

これらの会議開催支援の具体的内容は、原則として日本人専門家がかかる会議に参加し技術的なインプットを行う一方、その会議費用を他のドナーと分担し、かつ会議開催のロジスティック業務も COMIFAC 事務局担当者とはドナーと分担で行うということであった。COMIFAC ではこうした会議開催費用の分担はドナー連携のひとつの形となっており、プロジェクト側からすれば同じ会議に参加することで他ドナーどのような活動を行っているのかを理解する機会でもあったという意味で有益ではあった。本プロジェクト開始時は FAO、世界銀行などの支援によるプロジェクトも実施されていたが、プロジェクト中盤以降これらのドナー支援プロジェクトが終了したため、本プロジェクトは主に GIZ と連携して COMIFAC の会議開催を支えたことになる。会議開催支援は具体的な成果がなかなか見えにくいので、評価しにくい側面がある。ただ、上述のように COMIFAC の使命はまさに加盟国の異なる理解や意向を調整し、共通のスタンスを作るということなので、会議がその主要な手段であることは間違いなく、現に会議を重ねるごとに参加者の気候変動枠組み条約や生物多様性保全条約に対する理解はより深くなっていった。

各種会議開催および参加支援で難しかった点は、会議開催日程がなかなか決まらず、ロジスティック業務が常に直前にならないとできなかったということである。当初、その原因は COMIFAC 事務局の事務方の能力不足ではないかと考えたが、実はロジスティック業務担当者が一人しか配置されておらず、いかにその担当者が優秀であろうとも一時に発生するロジスティック業務をこなすのは難しいということが分かってきた。むしろ問題は日程確定までの調整に時間を要するという点である。加盟国 10 カ国のワーキンググループのフォーカルポイントやナショナルコーディネータとの調整が必要とされるが、メール連絡が主体となるため、その応答に相当の時間を要するというのが実情であった。ただこの点も各ワーキンググループを担当する COMIFAC 専門家の能力不足が原因とはいえ、むしろ加盟国側の意思決定手順に時間を要することが原因であった。この問題は本プロジェクトの開始から発生していたことで、プロジェクト側から事務局に対して何度も改善を求め、事務局専門家も各加盟国担当者に働きかけを行ったが、各国の連絡手順の煩雑さなど国の制度そのものの改善が必要であることから現実的にはなかなか改善を図ることが難しかった。

COMIFAC の会議は通常、年のはじめに策定される年次作業計画で一応開催時期が予定される。ただし、実際の開催時期の確定には上記のとおりの問題がある。他方、もうひとつの問題はこの予定に入ってい

ない会議の開催が突然決まり、そのための支援を求められることであった。例えば、2019年7月に第10回閣僚会議が開催されたが、この会議は本来なら、2018年11月に次期議長国候補であったサントメプリンシペで開催される予定であったが、サントメプリンシペが議長国を辞退したため、その次の順番であるカメルーンが議長国になったことで2019年に急遽開催されることになったものである。プロジェクトとしては他の主要ドナーであるGIZや議長国カメルーン森林省とも連絡を取りつつ、年次計画で予定していた予算の割り振りを見直すなど柔軟に対応して費用分担を行い、1999年のヤウンデ宣言から20周年にあたる節目の年の閣僚会議開催に貢献することができた。

会議開催を主体とする地域国際機関への協力について教訓があるとするれば、会議開催の準備期間を通常の2倍から3倍予定しておくこと、また、予算も十分な予備費を見込んでおき、突然の会議開催支援に柔軟に対応できるようにしておくことが必要であるということになる。

b. 森林モニタリング研修

森林モニタリングにおけるCOMIFACの課題は、加盟国間に森林モニタリングシステム構築の進度において格差が生じているということである。コンゴ民主共和国、カメルーン、コンゴ共和国、ガボンなどJICAや他の複数ドナーの支援で森林モニタリングシステムの構築が進んでいる国もあるが、それ以外の国ではそうしたシステムは構築されておらず、加盟国間の格差はむしろ拡大しているのではないかとの懸念がある。

こうした懸念を少しでも解消するためにCOMIFACのような地域協力機関を活用して共通の研修を実施して加盟国間の格差の緩和を図ることは地球全体の気候変動対策を進めるうえで有効である。

森林モニタリングは、気候変動対策やREDD+の実施において基礎となる技術でIPCCガイドライン2006年に則していえば、その構成要素は森林減少の動態(Activity Data)をリモートセンシング技術を活用してとらえること、および森林のEmission Factorを算定するための森林インベントリーを実施することということになる。2017年は衛星画像の取得手法などリモートセンシング技術の活用に焦点を合わせて、カメルーンのMbalmayoにあるカメルーン国立水森林学校(ENEF)で研修を実施、2018年は森林インベントリー手法に焦点を合わせて、今度はガボンのCap Esteriasにあるガボン国立水森林学校(ENEF)で研修を実施した。これらの技術は5日間の研修だけで完全に習得できるものではないが、研修全体でいけば、それらの技術を駆使して得られるデータがUNFCCCへの報告に必要なものだということを理解することが重要と言える。2019年3月4日～8日に第3回研修ではコンゴ共和国のBrazzavilleにある国立農学林学校(ENSAF)でReportingに焦点を合わせた研修を実施し、予定された3回の研修を完了した。

工夫として挙げられるのは、2019年に実施したReporting編の研修では、加盟国のUNFCCCへのReporting担当者だけでなく、第1回および第2回の研修参加者も招請したことである。というのも、途上国でも行政組織の縦割りの弊害は存在しており、衛星画像を活用した地図作成担当者および森林インベントリー担当者は往々にして自分たちの業務成果がどのように活用されてUNFCCCへの報告に活用されているのかを知る機会がほとんどない。また、Reporting担当者はそれらのデータがどのように集められたのかを知ることもほとんどない。データを提供する側とそれをまとめる側が一堂に会することで、お互い

の業務の難しさを理解するとともに、データ精度の重要性を理解することにもなるので、業務へ取り組む姿勢の改善が期待できる。

2018年の森林インベントリー編でのもう一つの工夫は、JICA 案件の森林インベントリー業務を経験したコンゴ民およびガボンの参加者にも積極的にその経験を活かしてリーダーシップを発揮して他の参加者のサポートをしてもらったという点がある。こうすることですでに一定の経験を有する参加者も自分が学んだ技術を“教える”ことで自分の技術をより確かなものにすることができた。

教訓としては、森林モニタリングシステムの重要な構成要素であるリモートセンシング技術の活用方法、森林インベントリー手法の習得、それらの要素がどのように UNFCCC に対する報告に活かされるのかについての理解が必要であることが研修によって再確認されたことから、COMIFAC 加盟国全体の能力の底上げを図るには、係る研修を今後も継続的に実施することが望ましいということが挙げられる。

c. ABS ラボワーク研修

本プロジェクトにおける ABS ラボワーク研修の究極的な目標は、COMIFAC 加盟国の研究機関が海外の民間企業との間で自然資源由来の遺伝資源を活用する共同研究を実施できるようにすることである。そのために前提として必要なことは実はこれらの研究機関が高度な研究設備を備えていることではなく、あるいはそうした設備の整備をプロジェクトが支援することでもなく、旧式の設備であってもそれをきちんと維持管理しているなどごく基本的な管理体制が整っているかどうかである。

2017年にはルワンダの国立ルワンダ大学 Huye キャンパスで基礎的な解析技術に関する研修も実施したが、同時に研究施設の管理に係る研修も実施した。その結果、むしろ課題は研究施設の管理の改善であることが明確になった。研修参加者もそのことは十分に理解し、結果として参加者が主体となって研究施設管理のチェックリストを作成し、研修後自国に帰った時にそれを活用してそれぞれの研究施設の改善を図ることとなった。

2018年の第2回研修は第1回研修と同じく、ルワンダの国立ルワンダ大学 Huye キャンパスで研究施設管理の向上に焦点を合わせ、上記チェックリストの活動状況を参加者に発表してもらった。

ABS ラボラトリー研修での工夫は、研修をこのように参加者の自発性を尊重して実施したということに尽きる。第1回研修ではドナーからの資機材支援の要望も多かったが、日本人専門家が民間企業にとって魅力ある研究施設とは掃除や機器の保守など行き届いた管理が行われている施設であることを繰り返し説明したことによって、参加者自らがチェックリストを作成し、同時に研究者間の情報交換を行おうとネットワーク構築を提案するに至った。上述のように2018年の第2回研修ではチェックリストの活用事例が発表されたが、こうした活用はプロジェクトからの示唆はあったものの、その実践は各国の参加者が自主的に取り組んだ成果である。

本研修で得た教訓は、本当の意味での能力向上は参加者が率先して取り組まなければ実現しないということである。本プロジェクトでは、ABS ラボラトリー研修の成果品として“COMIFAC 加盟国における

遺伝資源ラボラトリー管理グッドプラクティスガイド”を作成したが、これも研究者ネットワークを活用し、加盟国の研究者自身がまさに参加型で作成したガイドである。

d. TRIDOM 越境保護地域のコンゴ共和国側での小規模パイロットプロジェクトの再委託による実施
カメルーン、コンゴ共和国、ガボンの3ヶ国にまたがる TRIDOM 越境保護地域の管理能力向上に関しては、2016年の現況調査および2017年前半の各種準備作業を経て、2017年8月から2018年5月にかけてカメルーン東部州のグリベ村を中心として、地域住民と管理機関との“協働管理”を目的とした小規模パイロットプロジェクトを実施した。

このパイロットプロジェクトの目標は、地域住民と保護地域管理機関との関係性を改善し、保護地帯の“協働管理”を促進することにある。そのために、具体的な活動として、非木材林産物の活用による地域住民の生計向上、係る自然資源についての住民自身のモニタリング活動、地域住民と保護地域管理機関を含む関係者間の協議の場の設定を行った。また、これらの活動を基礎にその手法に係る中間とりまとめを文書としてまとめ、2018年5月にCOMIFACのGTBACの下に置かれる“COMIFAC 保護地域・野生動物作業下位グループ”(SGTAPFS) 会合において検討を行い、これを基礎に越境保護地域協働管理マニュアルをまとめることとなった。

当初はカメルーン国だけでパイロットプロジェクトを行うことになっていたが、COMIFAC 事務局から2016年1月に開催した第1回JCCにおいて、コンゴ共和国またはガボンでのパイロットプロジェクトの実施を強く求められたことからこの要請を受け入れてコンゴ共和国で同様のパイロットプロジェクトを実施することになった。

パイロットプロジェクトはカメルーン国のサイトではプロジェクト直営で行ったが、コンゴ共和国サイトでパイロットプロジェクトを実施するには安全管理上の問題もあることから現地事情に詳しい現地コンサルタントに再委託で実施することとなった。

再委託による活動の実施における課題は再委託手続きをJICA 規定に則して実施することにつき、COMIFAC 事務局側の了解を取り付けるということであった。

再委託の場合、本来はCOMIFAC 側の調達手続きに則して再委託先を調達することが原則である。しかし、この原則を適用すると契約締結までに長期期間を要することが想定されたため、今回の再委託先調達についてはJICAの「コンサルタント等契約における現地再委託契約ガイドライン」に準拠して実施することについて予めCOMIFAC 側の手承を取り付けることとし、2018年10月27日付けで事務局長の同意書簡を取り付けた。これが一つの工夫である。

TRIDOM のコンゴ共和国側で実施した小規模パイロットプロジェクトは、コンゴ共和国森林経済省からの出張命令書の発出に2ヶ月もの時間を要したため、活動進捗が計画通りに進まず、現地での関係者を集めた最後の総括ワークショップの開催を割愛せざるを得なかった。

今回の経験で得られる教訓としては、COMIFAC のような地域協力機関の枠組みで越境保護地域管理を支援する場合、関連のJICA 事務所の支援は不可欠で、そのためにはJICA と加盟各国との2国間協力協

定を締結しておく必要があったと推測される。というのも、2 国間協力協定が結ばれていないと管轄の JICA 事務所もプロジェクト活動への踏み込んだ支援は難しいと思われる。

3.2 運営体制の課題・工夫・教訓

運営体制の最大の課題は、COMIFAC 事務局とプロジェクト間の情報連絡が必ずしも十分な時間的余裕をもって行われなかったという点である。

この課題は案件開始前からの懸念事項であり、何回も COMIFAC 事務局側と協議を行って改善に努めてきたが、残念ながら最後まで改善されたとは言えなかった。

それでも本プロジェクトの開始当初の COMIFAC 事務局執行部は現在の執行部に比較するとまだよかったと言える。異なるドナー支援で実施されているプログラムやプロジェクトの調整は技術ダイレクターとして位置づけられている事務局次長の役割で、前執行部時代はほぼ月 1 度の頻度で、事務局とドナー関係者の打合せ会合が開催され、情報共有が行われていた。それが 2017 年 1 月に現執行部に交代して以来、ほとんど開催されず、COMIFAC 事務局側ドナー側との協議が大きく停滞した。GIZ の COMIFAC 支援プロジェクトの責任者と意見交換し、GIZ もかかる事態の改善を COMIFAC 事務局側に求めているがなかなか改善されないとのことであった。現執行部も現在の議長国のカメルーン森林省大臣の指示により、その任期は 2020 年 12 月末までとされ、現在新執行部の公募が行われている。

今後、新執行部選出により COMIFAC 事務局とドナーとのコミュニケーションが改善されることを強く望む。

ただ、COMIFAC 事務局と本プロジェクトとのコミュニケーション不足の問題は事務局側に上記のような点があったとしても事務局側を一方的に批判してすむ話ではない。本プロジェクトは GIZ などのやり方と異なり、日本人専門家が駐在する形をとらず、短期出張ベースで業務に従事する形で、その派遣期間も限度がある。事務局担当専門家も非常に忙しく出張も多いため、短期滞在しかない日本人専門家と事務局が置かれているヤウンデで直接意見交換をする機会はきわめて限られてしまう。

C/P 側とプロジェクト専門家のコミュニケーションの問題を少しでも改善するため、今後、類似の案件を形成する際の教訓としては、案件形成の段階で同じチームではあるが、長期に業務に張り付く要員と短期の要員を予め分けて人月配置を想定することを提案したい。

第4章 モニタリングシート

プロジェクト開始以来、現在までにモニタリングシートは8回作成し、9回目のモニタリングシートはProject Completion Reportとして作成し、その仏語版を2020年10月17日に実施したオンラインでの最終JCCで発表し、承認を受けた。本章では、Project Completion Reportを基礎に成果達成状況及びプロジェクト活動の評価を以下に示す。

4.1 成果の達成状況

プロジェクト終了時の成果ごとの達成度は以下のとおりであり、その数値を基礎に全体をまとめると成果の達成度は82%となる。

1) 成果1の達成状況

表3 成果1の達成状況

| 成果1：気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される | | | |
|--|---|----------|----|
| 指標 | 指標入手手段 | 指標達成度 | 備考 |
| 指標 1-1： COMIFAC 加盟国における森林資源モニタリングシステムの共通ニーズや不足事項に関する報告書が準備される | COMIFAC 加盟国森林資源モニタリングシステム現況報告書の現物確認 | 1/1=100% | |
| 指標 1-2： 3タイプの研修プログラムや教材が開発される | 3タイプ（RS活用、森林インベントリー、レポートの研修教材の現物確認 | 3/3=100% | |
| 指標 1-3： 森林モニタリング研修参加者の少なくとも80%が自分たちの知識やスキルが強化されたと認める | 第1回研修時のアンケート結果は平均 17/20(=85%)の参加者から、満足のいく効果があったとの回答。 第2回研修時のアンケート結果は、17/20(=85%)。 第3回研修時のアンケート結果は、16.4/20(=82%)。 実施された3回のアンケート結果がいずれも80%以上なので、本指標は100%達成された。 | 100% | |

| | | | |
|--|--------------|--------------------------|---|
| 指標 1-4: 気候変動 COP を含む国際会議の場で、気候変動及び持続可能な森林経営の政策や対策が、3 回以上発表される | 国際会議 3 回の記録。 | 3/3=100% | 3 回の国際会議：--世界林業会議 2015 (南アフリカ・ダーバン) ; -COP 24 (ポーランド・カトヴィツェ) -COP 25 (2019 年 12 月スペイン・マドリッド)。 |
| 成果 1 の達成度 | | (100+100+100+100)/4=100% | |

2) 成果 2 の達成状況

表 4 成果 2 の達成状況

| 成果 2: 生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される | | | |
|---|--|----------|--|
| 指標 | 指標入手手段 | 指標達成度 | 備考 |
| 指標 2-1: COMIFAC 加盟国における ABS の技術面の共通ニーズや不足事項に関する報告書が準備される | COMIFAC 加盟国における ABS の技術面の共通ニーズや不足事項に関する報告書の現物確認。 | 1/1=100% | |
| 指標 2-2: 3 タイプの研修プログラムや教材が開発される | -2 タイプの研修プログラムおよび1タイプのワークショッププログラム (日本の民間企業と地域内の研究者を招聘)。 - ラボマネジメントに係るチェックリストおよびガイドブック。 | 100% | |
| 指標 2-3: ABS ラボラトリーワーク研修参加者の少なくとも 80%が自分たちの知識やスキルが強化されたと認める | 第 1 回研修のアンケート調査結果: ラボ管理研修: 13 人中 13 人が知識強化ありと回答。 基礎技術関連研修: 9 人中 9 人が知識強化ありと回答。 | 50% | 1 回目の研修時のアンケート調査では達成率は 100%だが、2 回目の研修時のアンケート調査結果がないので、2 回の研修達成度は 50%とする。 |
| 指標 2-4: 越境保護区におけるパイロットプロジェクトの活動から得 | カメルーン国内およびコンゴ国内に位置する越境保護区での小規模パイロットプロジェ | 100% | |

| | | | |
|---|---|-----------------------------------|--|
| <p>られたグッド・プラクティスや教訓が COMIFAC 加盟国に共有され、パイロットプロジェクトの技術マニュアルを含むパイロットプロジェクト報告書の中にまとめられる</p> | <p>クトの実施と報告書。また、それら2カ国のパイロットプロジェクトの報告書を基礎とする越境保護地域協働管理ガイドの現物確認。</p> | | |
| <p>指標 2-5: 生物多様性条約 COP を含む国際会議の場で、生物多様性の政策や対策が、2 回以上発表される</p> | <p>関連報告書の確認。</p> | <p>2/2=100%</p> | <p>2 回の国際会議: - CBD COP 13 (2016 年 於メキシコ・カンクン) - CBD COP 14 (2018 年 於エジプト・シャルム エル シェイク)</p> |
| <p>成果 2 の達成度</p> | | <p>(100+100+50+100+100)/5=90%</p> | |

3) 成果 3 の達成状況

表 5 成果 3 の達成状況

| 成果 3:COMIFAC 各国調整官の活動が強化される | | | |
|--|-----------------------------------|---|---|
| 指標 | 指標入手手段 | 指標達成度 | 備考 |
| <p>指標 3-1: 収束計画の実施に係るモニタリング評価システム及び COMIFAC の活動が円滑に実施される</p> | <p>当該システム開発の検討に係る会議の参加記録による確認</p> | <p>主に GIZ 支援により収束計画の指標評価システムはすでに完成し、COMIFAC の WEB サイトで運用されている。 係る評価システム開発に対する JICA プロジェクトの貢献を定量的に評価することは困難なので本指標達成率は 0 とする。</p> | <p>JICA プロジェクトに期待されたのは関連会議における技術的インプットをおこなうことであり、いくつかのインプットは行った。ただ、この技術的インプットがかかるシステム構築にどの程度貢献したかを定量評価することは難しい。</p> |

| | | | |
|--|-----------------|------------------|--|
| 指標 3-2: COMIFAC 収束計画普及円卓会議が COMIFAC 加盟国の少なくとも 4 カ国で開催される | 円卓会議の報告書 | 4/4=100% | 開催国は下記 4 か国: -コンゴ民主共和国 -ガボン -赤道ギニア -ルワンダ |
| 指標 3-3: COMIFAC 国家調整室プラットフォームの運営能力が COMIFAC 加盟国の少なくとも 3 カ国で強化される | CNC プラットフォーム報告書 | 2/3=67% | 開催国は以下の 2 か国: -コンゴ共和国 -ルワンダ |
| 成果 3 の達成度 | | (0+100+67)/3=56% | |

4.2 プロジェクト目標と指標

プロジェクト目標の各指標の達成度を以下に定性的に示す。

表 6 プロジェクト目標各指標の定性的達成度

| プロジェクト目標: COMIFAC の組織能力強化を通じて収束計画の実施が促進される | | |
|---|---|---|
| 指標 | 指標達成度 | 備考 |
| 指標 1 : COMIFAC 加盟国の少なくとも 8ヶ国において森林資源モニタリングシステムが改善される | この指標は、本プロジェクト開始時に COMIFAC 加盟 10ヶ国すべてが森林資源モニタリングシステムを装備していることが前提となっている。しかし、本プロジェクト開始時に森林資源モニタリングシステムを装備している国はなかった。従って、この指標について直接的かつ定量的に達成度を評価することは難しい。 | 本プロジェクトの場合、能力強化研修で森林資源モニタリングに関する最新の知識・能力を習得した人材を育成することはできた。従って、加盟国の森林資源モニタリングシステムの開発や改善に資する基礎を作ることはできたと言える。 |

| | | |
|---|--|---|
| <p>指標 2 : ABS 国家戦略の推進に貢献する、ABS に関する課題に対する知識及び技術力強化戦略が、COMIFAC 加盟国において開発される</p> | <p>本プロジェクトでは、以下の成果が得られた：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 域内の研究者が集うプラットフォーム（ネットワーク）が結成され、これにより、地域内の研究者同士の情報交換や経験共有が促進されることになった。 - 上記研究者一同が、参加型で、主体性を持って、ABS ラボラトリー管理ガイド作成を行い、加盟国が合意に基づいて COMIFAC 域内の独自のツールを作成・所有することとなった。 | <p>これまでアフリカ中部地域のラボラトリー管理に特化した管理ガイドが作成されたことはなかった。 しかもそれが外部コンサルタントではなく、域内研究者自身により作成されたことの意義は極めて大きい。</p> |
| <p>指標 3 : 越境保護区におけるパイロットプロジェクトの活動から得られたグッド・プラクティスや教訓が COMIFAC 加盟国の越境保護区管理計画に反映される</p> | <p>本プロジェクトでは、カメルーン、コンゴ共和国でのマイクロパイロットプロジェクトの成果を基礎に、越境保護地域の非木材林産物を活用した協働管理ガイドを作成した。</p> | <p>当該ガイドで示した協働管理の考え方を他の越境保護地域管理にも活かすことが望まれる。</p> |
| <p>指標 4 : 少なくとも5種類のコミュニケーション媒体が作成され、COMIFAC 加盟国の少なくとも8カ国で使用される</p> | <p>プロジェクト活動の可視性の向上と、COMIFAC 域内におけるプロジェクト成果の共有を目指して以下の媒体を活用した：</p> <ul style="list-style-type: none"> - COMIFAC 事務局が毎年発行する『Rapport Annuel COMIFAC』 - COMIFAC 事務局が随時発行する『COMIFAC News』 - 円卓会議や閣僚会議で作成されたビデオ - プロジェクトが広報資料として作成したパンフレット『S' unir pour la gestion durable des forêts en Afrique centrale : Commission des Forêts d'Afrique Centrale ➤ (COMIFAC) et l' appui du Japon』 | <p>-JCC 開催時には、必ず TV、新聞の取材があり、関連記事が放映、掲載された。 -ビデオ映像の例として、ルワンダで開催支援を行った円卓会議記録『Round Table Workshop-New policies for the conservation and sustainable forest ecosystems management in Central Africa -revised COMIFAC Convergence Plan』、およびガボンの円卓会議支援時に作成したビデオ『Plan de convergence, Bilan et Défi – Gabon』がある。</p> |

プロジェクト目標はプロジェクト終了時に達成されるべきものである。しかし、本プロジェクトの場合、その達成状況を分析すると、上記のようにプロジェクト目標の指標が、指標 4 を除き、必ずしも完全に達成されていないことからプロジェクト目標がプロジェクト終了時に完全に達成されたとは言い難い。とはいえ、本プロジェクトが期待される成果の達成を通じて、プロジェクト目標達成の基盤を構築したということはできよう。

プロジェクトの評価に関しては、添付の **Project Completion Report** において、もともと本プロジェクトでは予定されていなかった **DAC 5 項目** 対応評価を示した。

評価結果概要を示すと以下の通りとなる。

- ▶ 妥当性：プロジェクトにおける活動はどれも、収束計画の優先事項に沿った活動であり、またそれらの実現に大きく貢献するものであった。よって、本プロジェクトの妥当性は比較的高い。
- ▶ 有効性：活動の結果が効果発現につながっているものの、プロジェクト目標の達成が不十分であったこと、ならびにプロジェクト目標がプロジェクト期間中に達成できなかったことから、有効性は低いと言える。ただし、これは **PDM** のロジックに飛躍があり、プロジェクト目標の設定が現実的ではなかったことに起因する。
- ▶ 効率性：プロジェクトの適切な時期および量・質でのインプットにより、期待に則した成果品が生み出されており、効率性は比較的高い。
- ▶ インパクト：波及効果を考慮するとインパクトは中程度。特記すべきは、**ABS** ラボマネジメント研修に参加した研究者たちがとった自発的な行動である。彼らは自らの意思で、地域の研究者間プラットフォーム（ネットワーク）を立ち上げた。案件終了後も、**JICA** はこのプラットフォームを活用し、同地域の研究者たちにとって有益な遺伝資源の利用に関する本邦研修を開催することができるはずである。
- ▶ 持続性：持続性の最も重要な判断基準は財政的安定性である。他の側面の持続性もすべてこの安定性にかかっている。**COMIFAC** のもっとも大きな問題はその財政基盤が不安定ということである。従って、プロジェクトで導入した活動の持続性は、**COMIFAC** の財政基盤の改善がなければ低いと言わざるを得ない。

第5章 上位目標の達成に向けての提言

上位目標達成に向けての提言を記すにあたって、前提的に以下の点を明確にしておく。

どの活動を行うにせよそのための資金は必要である。前節で示したように COMIFAC の財政基盤はきわめて脆弱で、事務局スタッフの給与などの運営資金すら不足している状況である。また、上位目標達成には加盟国での CNC の働きも重要になるが、加盟各国も財政的には脆弱で CNC に対して独自予算をつけている国はほとんどない。

つまり、上位目標達成の阻害要因はまさにこうした財政基盤の脆弱性であるという点は十分理解する必要がある。こうした事情を考慮したうえで以下に上位目標達成に向けて少なくとも実施可能な活動を提言する。

5.1 上位目標達成の見込み

本プロジェクトの上位目標は、「COMIFAC 加盟国において森林生態系の保全と持続的管理が促進される」となっている。

2018年1月27日に開催された第3回 JCC で協議された PDM では上位計画に係る指標を次のように定めている。

『下記指標はプロジェクト完了後5年以内に達成されることが期待される。』

- 1) COMIFAC 加盟国（10ヶ国）のうち8ヶ国で森林資源インベントリー・データベースが利用可能となる；
- 2) すべての COMIFAC 加盟国で森林被覆に係る国家モニタリングシステムが設置され、運用される；
- 3) 保護地域に係る地域アクションプランおよび管理・開発国家戦略の期待される成果の少なくとも50%が2025年までに達成される』

上記の上位目標の指標 1)森林資源インベントリー・データベースと指標 2)は相互に密接に関連している。つまり、森林被覆国家モニタリングシステムには加盟国各国における全国森林インベントリの実施とデータ整備ならびに森林資源に係る地図情報の整備が必要で、これらのデータをデータベースの形で整備することが必要である。

従って、上位目標の達成には、まず森林資源インベントリー・モニタリング・システムの構築が必要になる。COMIFAC 加盟国のなかにはすでに係るシステムの構築を進めている国もあるが、進めることが難しい国もある。共通して言えるのは、かかるシステム整備のために各国政府が相当規模の資金を投じる必要があるということである。また、係るシステム構築を担う人材の育成が十分ではないということもある。

本プロジェクトでは、森林モニタリング研修を衛星画像利用、森林インベントリの基礎技術および Reporting をテーマとして実施し、これらの経験を活かして『中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド』を作成した。従ってプロジェクト終了後はこのガイドを活用して、これら3要素をテーマとした一連の研修を COMIFAC 事務局が関係ドナーに働きかけることで活動資金を獲得し、その資金を活用してかかる研修を繰り返し行い、その対象人数を増やして人材育成をさらに強化していけば上記の上位目標達成に近づくことは可能である。

指標 3)に関しては、2019年未までに TRIDOM 越境保護地域のカメルーン側サイトおよびコンゴ共和国側サイトでの実施を終了し、これも『非木材林産物の活用を通じた越境保護地域協働管理ガイド』としてまとめた。このガイドは他の越境保護地域だけでなく加盟各国内の保護地域でも一定程度援用可能で

ある。重要なのは“協働管理”という概念を理解することで、あとはそれをベースにしてそれぞれの地域に適した協働管理活動計画を各保護地域で作成することである。従って、この場合も、ガイド普及に係る活動に対する今後 COMIFAC 事務局が中心となって、関係国の越境保護地域管理当局に積極的に働きかけることで、上位目標の達成に近づくことができる。

5.2 上位目標実現に向けた COMIFAC のオペレーションプランおよび実施体制

上位目標達成の鍵は、『中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド』、『COMIFAC 諸国における遺伝資源研究所の管理に係るグッド・プラクティス・ガイド』および『非木材林産物の活用を通じた越境保護地域の協働管理ガイド』という本プロジェクトで作成したガイドの活用をいかにして図るかということにある。

そのためには、COMIFAC 事務局と加盟各国のナショナルコーディネーション(CNC)の果たす役割は非常に大きい。

COMIFAC 事務局と CNC ができる活動 (Project Completion Report で掲載済み) :

- COMIFAC 事務局は上記 3 種類のガイドを COMIFAC の Web サイトに掲示する (2020 年 10 月末時点で掲示済み)
- COMIFAC 事務局は、係るガイド普及計画策定活動を 2021 年および 2022 年の COMIFAC 年次活動計画に組み込む。
- COMIFAC 専門家が関係の作業グループ会合時に各 CNC に対して、ガイド普及計画を策定することを強く要請する。
- 各 CNC はガイド普及ワークショップ開催を計画し、同時に支援を依頼する技術・資金パートナーを探す。
- 特に『COMIFAC 域内遺伝資源ラボマネジメント・グッドプラクティスガイド』に関しては、COMIFAC と地域研究者プラットフォームおよび日本を含む先進国の公立および民間の研究機関との共同研究推進に関する作業が必要となる。JICA では 2021 年度以降に遺伝資源の活用をテーマとした課題別研修を計画している。研修生の選定にあたっては、各国の研修担当窓口だけでなく、COMIFAC 事務局の生物多様性専門家を介して、加盟国の ABS フォーカルポイントや地域研究者プラットフォームのメンバーにも連絡し、当該研究者プラットフォーム参加者から選定することが望ましい。

5.3 プロジェクト終了時から事後評価実施時までのモニタリング計画

COMIFAC 事務局の拠点がカメルーンのヤウンデにあるため、同事務局による上記のアクション実施のモニタリングは主として JICA カメルーン事務所が行う。

具体的には以下の形でのモニタリングを行う。

- COMIFAC の Web サイトに 3 種類のガイドが掲載されていることを確認する
- 毎年 COMIFAC の年次作業計画策定が終了する 2 月後半に COMIFAC 担当専門家と連絡を取り、CNC への働きかけをいつ行ったか、その際の CNC 側の反応について確認し、ガイド普及計画作成状況を確認結果につき、本部へ報告する。

こうした働きかけの必要性については、COVID-19 以降の遠隔での連絡ではプロジェクトチームから COMIFAC 事務局、CNC とともに説明はできていない。従って、JICA カメルーン事務所によるモニタリングは COMIFAC 事務局への係る説明からお願いしたい。

添付資料

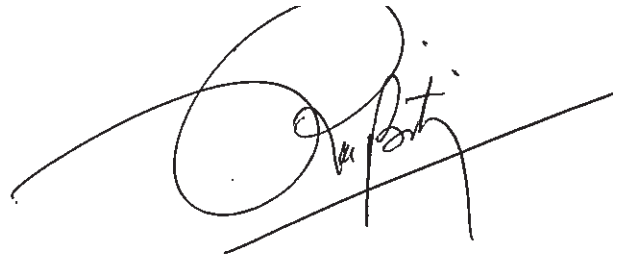
1. PDM（関連 MM を含む）
2. 業務フローチャート
3. 詳細活動計画
4. 専門家派遣実績（要員計画）
5. 機材リスト
6. 研修実績（国ごとの参加者数）
7. 研修および会合リスト
8. Project Completion Report 和訳版
9. Project Completion Report 仏語版

RECORD OF DISCUSSIONS
ON
THE PROJECT FOR PROMOTION OF CONSERVATION,
SUSTAINABLE USE OF BIODIVERSITY AND CLIMATE CHANGE
ISSUES
IN COMIFAC COUNTRIES
AGREED UPON BETWEEN
CENTRAL AFRICAN FORESTS COMMISSION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

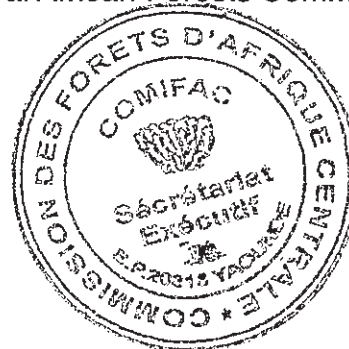
Yaoundé, 27th March 2015



Mr. Shinji UMEMOTO
Chief Representative
Cameroon Office,
Japan International Cooperation
Agency



H.E. Mr. Raymond MBITIKON
Executive Secretary,
Central African Forests Commission



Based on the minutes of meetings on the Detailed Planning Survey on the project for Promotion of Conservation, Sustainable Use of Biodiversity and Climate Change Issues in COMIFAC Countries (hereinafter referred to as "the Project") signed on 18 December 2014 between the Central African Forests Commission (hereinafter referred to as "COMIFAC") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with COMIFAC and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and the main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2 respectively.

Both parties also agreed that COMIFAC, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of the COMIFAC member countries.

The Project will be implemented within the framework of the relevant Agreements on Technical Cooperation and the Note Verbales.

Appendix 1: Project Description

Appendix 2: Main Points Discussed

Appendix 3: Minutes of Meetings on the detailed planning survey.

PROJECT DESCRIPTION

1. BACKGROUND

The Congo Basin forest is the second largest tropical rainforest in the world after the Amazon forests and has rich biodiversity. However, deforestation and forest degradation have been progressing due to several causes, such as over exploitation of forests, illegal loggings and expansion of subsistence agricultural land and populated areas.

In order to address these issues, the Central African Forests Commission (COMIFAC), which is comprised of ten Central African countries: namely, Burundi, Cameroon, Central African Republic, Chad, Congo, Democratic Republic of Congo, Equatorial Guinea, Gabon, Rwanda and Sao Tome & Principe was institutionalized in 2005 based on "the Yaoundé Declaration" for the purpose of directing, harmonizing and monitoring forest and environmental policies in the Central Africa.

In 2005, the Convergence Plan (2005-2015) was adopted as a common platform for COMIFAC member countries and 10 priority actions were identified. Since 2011, JICA has been providing technical supports to the Executive Secretariat of COMIFAC to promote the Convergence Plan through dispatching Japanese experts.

Currently, the revision of the Convergence Plan for next 10 years (2015-2025) for enhancing actions in COMIFAC member countries to correspond to emerging issues and international trend is in progress. In order to promote the revised Convergence Plan through the enhancement of 4 thematic Working Groups in COMIFAC, i.e. the Biodiversity Working Group (GTBAC), the Climate Change Working Group (GTCCC), the Land Degradation and Desertification Working Group (GTCCD) and Forest Governance Working Group (GTGF), COMIFAC requested a technical cooperation project to the Government of Japan.

II. OUTLINE OF THE PROJECT

Details of the Project are described in the [Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex 1) and the tentative Plan of Operation (Annex 2).]

1. Title of the Project

Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries

2. Project Purpose

Implementation of the Convergence Plan is promoted through institutional capacity enhancement of COMIFAC

3. Overall Goal

Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.

4. Outputs

Output 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced

Output 2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.

Output 3. The capacity of the COMIFAC National Coordinations is enhanced.

5. Activities

[Output 1]

1-1 Enhance negotiation capacities of COMIFAC on the issues related to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC).

1-1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change.

1-2 Provide technical support to GTFG meetings and other relevant meetings.

1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015–2025).

1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries.

1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory.

1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion.

1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest inventory.

[Output 2]

2-1 Enhance implementation of GTBAC activities.

2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant meetings.

2-2 Support activities related to the implementation of the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through utilization of existing training framework in the subregion, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015 - 2025).

2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.

2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps (e.g. Collection of materials in the field, preparatory actions for bioprospecting, data handling).

2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the

Convergence Plan (2015-2025).

- 2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.
- 2-3-2 Prepare an implement plan of pilot activities in the selected area. (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities, monitoring of land use change in the pilot area using satellite images and biodiversity monitoring)
- 2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.
- 2-3-4 Share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries through utilization of existing framework in the subregion.

[Output 3]

- 3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.

6. Input

(1) Input by JICA

- (a) Dispatch of JICA Experts in the field of Biodiversity, Sustainable Forest Management, Forest Inventory, Remote Sensing, Administrative coordinator, etc.
- (b) Training
 - Training in specific fields in Japan, and/or
 - Third countries, and/or
 - COMIFAC member countries
- (c) Machinery and Equipment
- (d) Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate

(2) Input by COMIFAC

COMIFAC will take necessary measures to provide at its own expense:

- (a) Services of COMIFAC's counterpart personnel and administrative personnel as referred to in 11-7;
- (b) Suitable office space with necessary equipment;
- (c) Information as well as support in obtaining medical service for JICA Experts;
- (d) Facilitate administrative formalities for JICA Experts;
- (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project; and
- (f) Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate.

7. Implementation Structure

The Project implementation structure is given in the Annex 3. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) COMIFAC

- a) Deputy Executive Secretary of COMIFAC, as the Project Manager, will



be responsible for overall administration and implementation of the Project.

b) COMIFAC Experts in charge of the Biodiversity Working Group (GTBAC), the Climate Change Working Group (GTCCC), Forest Governance Working Group (GTGF) and National COMIFAC Coordinators will be assigned to carry out project activities under the guidance of the Project Manager.

(2) JICA Experts

The JICA Experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to COMIFAC on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and whenever deems it necessary. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in the Annex 4.

8. Project Site(s) and Beneficiaries

(1) Project Sites: COMIFAC member countries

(2) Beneficiaries

(a) Direct: COMIFAC Executive Secretariat including WGs and COMIFAC National Coordinations

(b) Indirect: COMIFAC member countries

9. Duration

Five (5) years from the arrival date of the first JICA expert in COMIFAC member countries unless sooner terminated based upon the mutual agreement by both parties.

10. Reports

COMIFAC and JICA experts will jointly prepare the following reports in French.

(1) Progress Report on semiannual basis until the project completion

(2) Project Completion Report at the time of project completion

11. Environmental and Social Considerations

COMIFAC agreed to abide by 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations' in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

III. UNDERTAKINGS OF COMIFAC

1. COMIFAC will take necessary measures based on the treaty of COMIFAC to:

(1) ensure that the technologies and knowledge acquired by its member countries as a result of Japanese technical cooperation contributes to the

economic and social development of these countries, and that the knowledge and experience acquired by the expert of its member countries from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project; and

(2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in 11-6 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Cameroon.

IV. MONITORING AND EVALUATION

JICA and COMIFAC will jointly and regularly monitor the progress of the Project through the Monitoring Sheets based on the Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO). The Monitoring Sheets shall be reviewed every six (6) months.

Also, Project Completion Report shall be drawn up one (1) month before the termination of the Project.

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify sustainability and impact of the Project and draw lessons. COMIFAC is required to provide necessary support for them.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, COMIFAC will take appropriate measures to make the Project widely known in its member countries.

VI. MISCONDUCT

If JICA receives information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project, COMIFAC shall provide JICA with such information as JICA may reasonably request, including information related to any concerned official of the government and/or public organizations of its member countries.

COMIFAC shall not, unfairly or unfavorably treat the person and/or company which provided the information related to suspected corrupt or fraudulent practices in the implementation of the Project.

VII. MUTUAL CONSULTATION

JICA and COMIFAC will consult each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VIII. SETTLEMENT OF DISPUTES

In the event of a dispute between parties concerning the Project, the parties

concerned shall seek solution by mutual agreement.

IX. AMENDMENTS

The record of discussions may be amended by the minutes of meetings between JICA and COMIFAC.

The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.

- Annex 1 Logical Framework (Project Design Matrix:PDM)
- Annex 2 Tentative Plan of Operation
- Annex 3 Project Implementation Structure
- Annex 4 A List of Members of the Joint Coordinating Committee

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries
 Version: 0
 Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission)
 Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations
 Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries
 Project Site: COMIFAC member countries
 Project Period: 5 years

Dated: 18 December 2014

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|---|--|--|--|-------------|---------|
| <p>Overall Goal Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Database on forest resource inventory is available in 7 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025). | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose Implementation of the Convergence Plan is promoted through institutional capacity enhancement of COMIFAC</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Forest resource monitoring system is improved in all COMIFAC member countries (concrete target for each COMIFAC member countries will be decided). 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. Communication supports become operational in XXX COMIFAC member countries. | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member countries 3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries | 1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed. | | |
| <p>Outputs 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared. 1-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed. 1-3 More than XXX persons have strengthened their knowledge and skills on forest resource monitoring. 1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCC-COP at least XXX times. | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries 1-2 Training plans and training materials 1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 1-4 Progress report of the project | 1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly. 2) Political situation and public security are not changed significantly. | | |

| | | | |
|--|--|--|---|
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared.</p> <p>2-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed.</p> <p>2-3 More than XXX persons have strengthened their technical knowledge and skills related to specific issues on ABS.</p> <p>2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project.</p> <p>2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBD-COP at least XXX times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues</p> <p>2-2 Training plans and training materials</p> <p>2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants</p> <p>2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops</p> <p>2-5 Progress report of the project</p> | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinations is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning.</p> <p>3-2 Platforms of actors on the COMIFAC National Coordination are created and functioning well.</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country</p> <p>3-2 Reports on Platforms meetings and COMIFAC National Coordination meetings.</p> | |
| Activities | | Innputs | |
| <p>1-1 Enhance negotiation capacities of COMIFAC on the issues related to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC).</p> <p>1-1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change.</p> <p>1-2 Provide technical support to GTFG meetings and other relevant meetings.</p> <p>1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries.</p> <p>1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant TICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory.</p> <p>1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion.</p> <p>1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest inventory.</p> <p>2-1 Enhance implementation of GTBAC activities</p> <p>2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant</p> | <p><u>The Japanese Side</u></p> <p>1. Dispatch of JICA Experts</p> <p>1) Climate Change/ Sustainable Forest Management</p> <p>2) Biodiversity Conservation</p> <p>3) Administrative Coordinator</p> <p>4) Other specific fields as needed</p> <p>2. Training</p> <p>Trainings in specific fields in Japan, and/or third countries, /and/or COMIFAC member countries</p> <p>3. Provision of machinery and equipment</p> <p>4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate</p> <p>5. Local operational expenses (Expenses for holding meetings,</p> | <p><u>The COMIFAC Side</u></p> <p>1. Assignment of counterpart personnel</p> <p>1) Project Manager</p> <p>2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators</p> <p>2. Provision of office space for JICA Experts</p> <p>3. Local operational expenses</p> <p>1) Running expenses</p> | <p>Pre-condition</p> <p><Issues and countermeasures></p> |

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the implementation of the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through utilization of existing training framework in the subregion, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps (e.g. Collection of materials in the field, preparatory actions for bioprospecting, data handling).</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities, monitoring of land use change in the pilot area using satellite images and biodiversity monitoring).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-4 Share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries, through utilization of existing framework in the subregion.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | workshops, trainings, and pilot project etc.) | | |
|---|---|--|--|

Notes: There are objectively verifiable Indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.

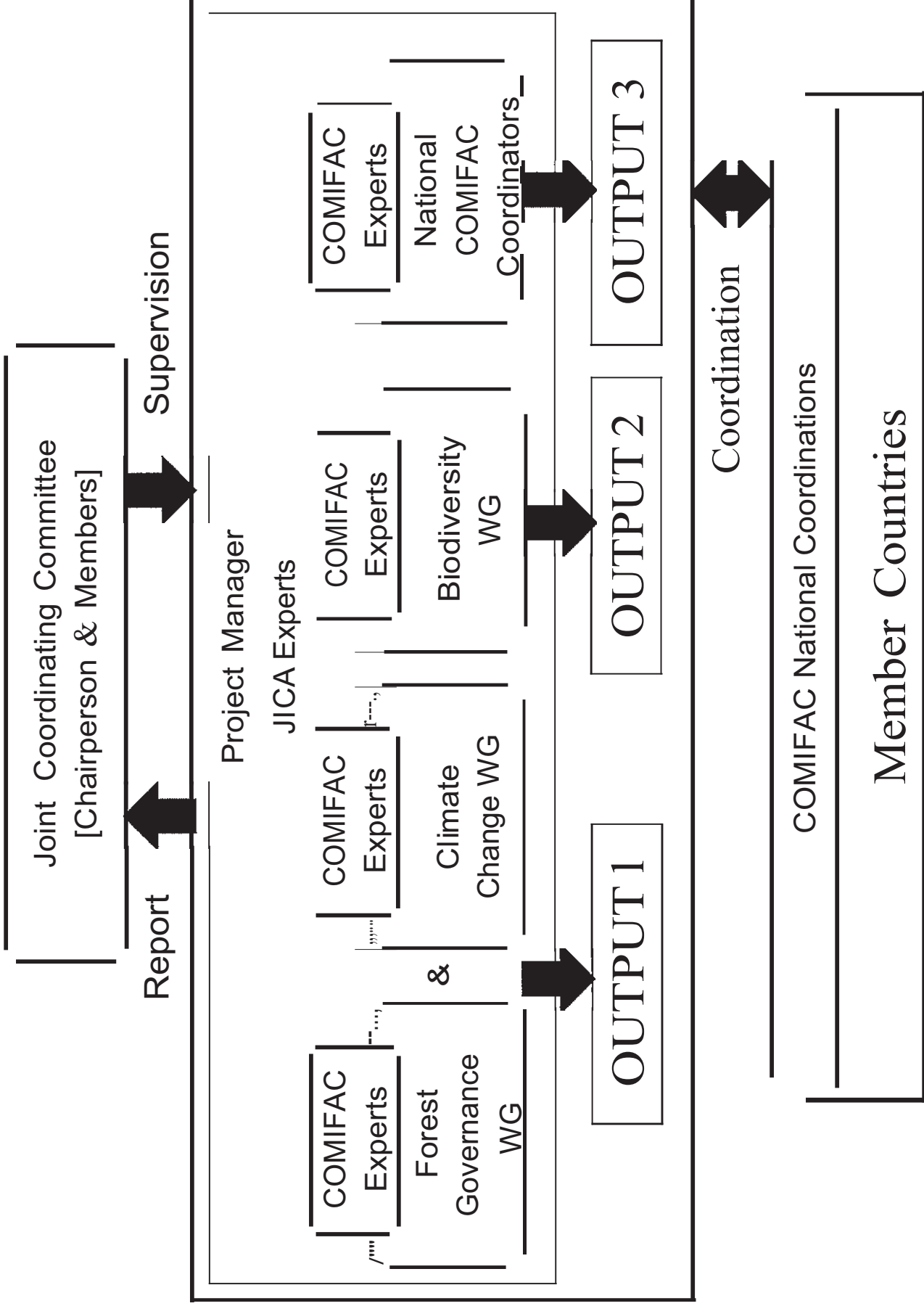
2-3-2 Prepare implementation plan of pilot activities in the selected area. (e.g. Potential activities include livelihood improvement and



| Activities | Year | 1st Year | 2nd Year | 3rd Year | 4th Year | 5th Year | Responsible Organization | Achievements | Issue & Counter-measures |
|---|--------|----------|----------|----------|----------|----------|--------------------------|--------------|--------------------------|
| | Actual | Plan | Actual | Plan | Actual | Plan | | | |
| Sub-Activities awareness-raising of communities, monitoring of land use change in the pilot area using satellite images and biodiversity monitoring) | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | COMIFAC | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| 2-3-3 Provide technical support to implement the action plan. | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | COMIFAC | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| 2-3-4 Share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries through utilization of existing framework in the sub-region. | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | COMIFAC | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Output 3: The capacity of the COMIFAC National Coordinating Committee has been enhanced. | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| 3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings. | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |

| Monitoring / Phasing | Year | 1st Year | 2nd Year | 3rd Year | 4th Year | 5th Year | Remarks | Issue | Solution |
|--|--------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|-------|----------|
| | Actual | Plan | Actual | Plan | Actual | Plan | | | |
| Monitoring Joint Coordinating Committee | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Set-up the Detailed Plan of Operation | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Submission of Monitoring Sheet | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Monitoring Mission from Japan | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Joint Monitoring | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Post Monitoring | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Reports/Documents Reception Report | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Progress Report | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Project Completion Report | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| Public Relations | Actual | .. | .. | .. | .. | .. | | | |
| | Plan | .. | .. | .. | .. | .. | | | |

Project Implementation Structure



List of Members of Joint Coordinating Committee

1. Function

The Joint Coordinating Committee (JCC) will meet at least once a year or whenever necessity arises.

The main functions of JCC are:

- (1) To approve the Plan of Operation and the annual work plan based on the available budget of the Project.
- (2) To review the overall progress of the Project activities as well as the achievement of the above-mentioned annual plan; and
- (3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the Project, and to recommend corrective measures.

2. Members

- (1) Chairperson: Executive Secretary of COMIFAC
- (2) Co-chairperson: Chief Representative, JICA Cameroon Office
- (3) COMIFAC side:
 - ./ Project Manager, Deputy Executive Secretary of COMIFAC
 - ./ Representative of:
 - i) Biodiversity Working Group (GTBAC)
 - ii) Climate Change Working Group (GTCCC)
 - iii) Forest Governance Working Group (GTGF)
 - ./ Two (2) National Coordinators of COMIFAC member countries
 - ./ Other officials mutually agreed upon
- (4) Japanese side:
 - ./ Representative of JICA Cameroon Office
 - ./ JICA Expert(s) of the Project
 - ./ Other relevant personnel mutually agreed upon

Note: Official(s) of the Embassy of Japan may attend the JCC as observer(s)

MAIN POINTS DISCUSSED

The Project is expected to contribute to mitigation of and/or adaptation to climate change and biodiversity conservation.


MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE EXECUTIVE SECRETARIAT OF THE CENTRAL AFRICAN
FORESTS COMMISSION (COMIFAC)
ON
THE PROJECT FOR PROMOTION OF CONSERVATION,
SUSTAINABLE USE OF BIODIVERSITY AND CLIMATE CHANGE
ISSUES
IN COMIFAC COUNTRIES

The Japanese Project Consultation Mission (hereinafter referred to as "the Mission"), dispatched by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), visited the Republic of Cameroon from 22 Jan to 27 Jan. 2018. The purpose of its visit is to monitor the progress of the Project for Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries (hereinafter referred to as "the Project") and consult about the plan of the latter half of the Project.

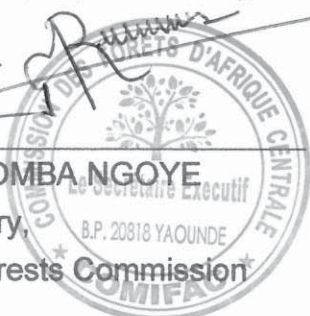

During its stay, the Mission and JICA Cameroon Office had a series of meetings with the COMIFAC Executive Secretariat and the third Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as "JCC") members together with Japanese experts.

As a result of the discussions, both sides agreed on the points attached hereto.

Douala, 27, Jan. 2018



Ms. Junko MASUDA
Chief Representative
Cameroon Office
Japan International Cooperation
Agency (JICA)



Mr. Raymond NDOMBA NGOYE
Executive Secretary,
Central African Forests Commission
(COMIFAC)

Attachment

THE MAIN POINTS DISCUSSED

1. Progress of the Project

Both sides confirmed the progress of the Project as follows;

Output 1: In order to increase capacity of forest monitoring of member countries, training for forest monitoring on remote sensing part based on needs study has been implemented and 11 participants from 8 countries gained basic knowledge ;

Output 2: The Project focuses on Access and Benefit Sharing (hereinafter referred to as "ABS") laboratory work which is the basis of utilization of genetic resources and training based on needs study was conducted with the participation from 8 countries. In addition, pilot project of management for transboundary protected area (TRIDOM) has been implemented to explore management methods;

Output 3: In order to promote COMIFAC Convergence Plan 2, the Project supported the organization of Round Table.

In addition to the above, technical and financial supports for the participation to international conferences such as UNFCCC COP, UNCBD COP, World Forestry Congress have been conducted.

2. Expected Outcomes and Prioritized Activities

The Project reaches its midway point. It is a good time to reconfirm expected outcomes and prioritized activities of each Output in the Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") based on the progress so far, and to promote the Project activities to achieve concrete results. Both sides agreed on expected outcomes and prioritized activities as follows;

Output 1: Forest Monitoring Guide for COMIFAC which helps each country to implement basic forest monitoring will be elaborated, and validation process of the Guide will be conducted through the discussion of relevant meetings of GTCCC and/or GTGF. In addition, basic forest monitoring training on inventory and reporting will be conducted to improve capacity of member countries;

Output 2: In order to support ABS in practical level, technical manual for ABS



Laboratory Work will be produced. To support them, ABS Laboratory Work follow-up workshop and bridge making between researchers of COMIFAC member countries and private sector will be implemented. As for transboundary protected area management, the Reference Book based on the experiences of at least 2 pilot projects at TRIDOM will be validated through the discussion of relevant meetings of GTBAC;

Output 3: The organization of Round Table will be supported (in two member countries) for strengthening of CNC capacities in terms of promotion of Convergence Plan 2.

Meetings/workshops related to above outcomes and activities will be supported by the Project. In regards to international conferences such as UNFCCC COP and UNCBD COP, the Project will provide technical support and partial financial support for the participation if the above outcomes and other related results from other JICA's project with COMIFAC and its countries are presented.

3. Revision of the PDM

Based on the discussion above, tentatively both sides agreed on the draft of Revised PDM in Annex. After internal procedure of JICA to confirm the revision of the PDM, Minutes of Meeting for amendment of Record of Discussion (R/D) including the Revised PDM should be signed.

Annex: Draft of Revised PDM

(end)



Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries

Version: 1

Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission)

Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations

Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries

Project Site: COMIFAC member countries

Project Period: 5 years

Dated: 27 January 2018

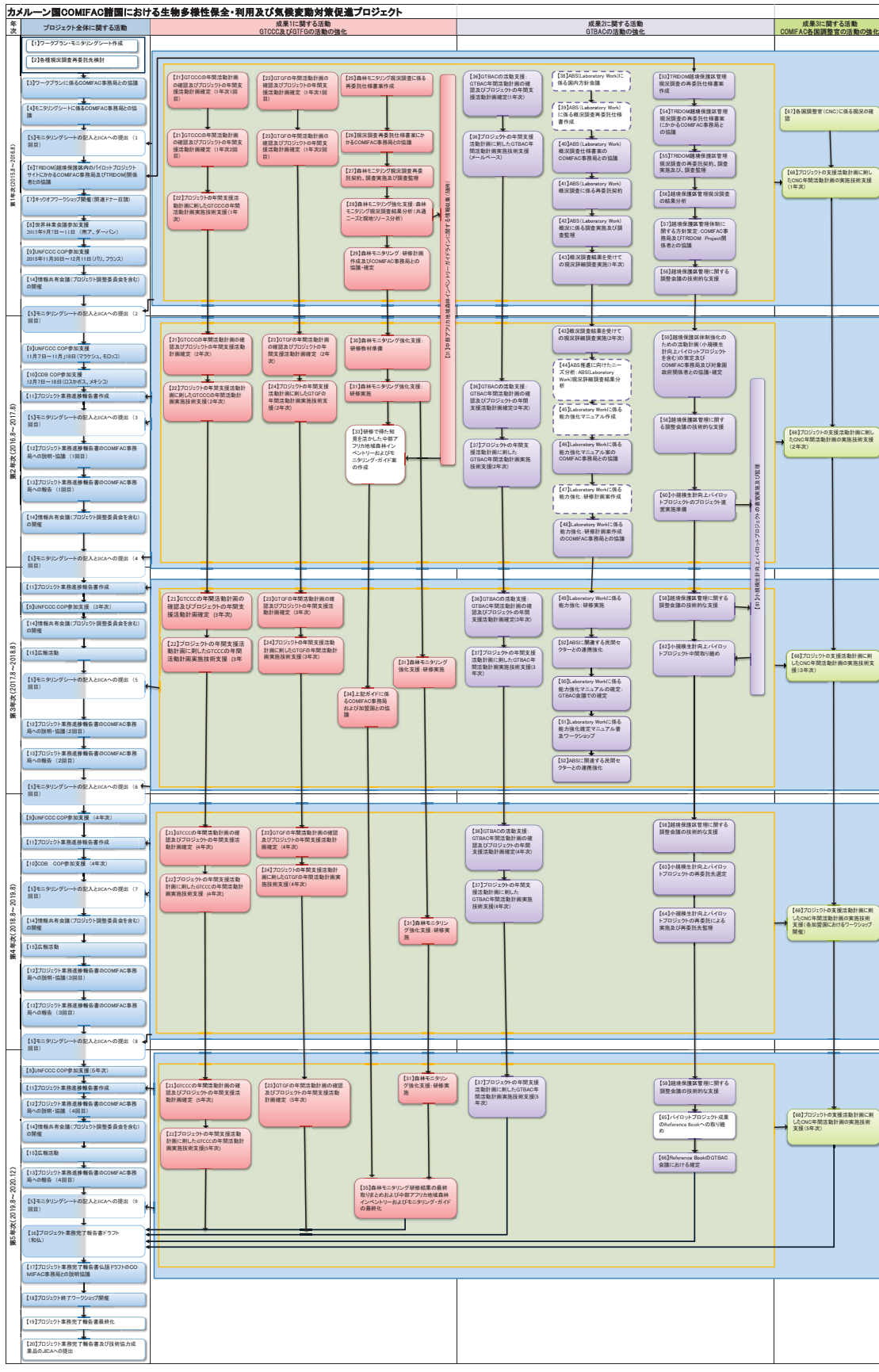
| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|---|--|--|--|-------------|---------|
| <p>Overall Goal Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Database on forest resource inventory is available in 8 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025). | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose Implementation of the Convergence Plan is promoted through institutional capacity enhancement of COMIFAC</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Forest resource monitoring system is improved in at least eight COMIFAC member countries. 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. At least 5 communication supports are produced and well used in at least 8 COMIFAC countries. | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member countries 3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries | <p>1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed.</p> | | |
| <p>Outputs 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared. 1-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed. 1-3 More than eighty percent of participants for forest monitoring training have recognized their knowledge and skills strengthened. 1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCCC-COP at least three times. | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries 1-2 Training plans and training materials 1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 1-4 Progress report of the project | <ol style="list-style-type: none"> 1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly. 2) Political situation and public security are not changed significantly. | | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared. 2-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed. 2-3 More than eighty percent of participants for ABS Laboratory Work training have recognized their knowledge and skills strengthened. 2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project. 2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBD-COP at least two times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues 2-2 Training plans and training materials 2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops 2-5 Progress report of the project</p> | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinators is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning. 3-2 Round Table for COMIFAC Convergence Plan Vulgarization is organized in at least four member countries 3-3 The operational capacities of the the COMIFAC National Coordination platforms are strengthened in at least three countries.</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country 3-2 Reports on Round Tables and COMIFAC National Coordination meetings. 3-3 Reports on Platform meetings and COMIFAC National Coordination meetings.</p> | |
| Activities | | Inputs | |
| <p>1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change. 1-2 Provide technical support to GTGF meetings and other relevant meetings. 1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025). 1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries. 1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory. 1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion. 1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest monitoring including forest inventory.</p> | <p><u>The Japanese Side</u></p> <p>1. Dispatch of JICA Experts 1) Climate Change/ Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed</p> <p>2. Training Trainings in specific fields in third countries and/or COMIFAC member countries</p> <p>3. Provision of machinery and equipment 4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate 5. Local operational expenses</p> | <p><u>The COMIFAC Side</u></p> <p>1. Assignment of counterpart personnel 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators 2. Provision of office space for JICA Experts 3. Local operational expenses 1) Running expenses</p> | <p style="text-align: center;">Pre-condition</p> <p><Issues and countermeasures></p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>2-1 Enhance implementation of GTBAC activities</p> <p>2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through laboratory work training, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps in the field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-2-3 Supporting a bridge making between researchers of COMIFAC member countries and private sector in the field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-4 Implement a pilot project at least in two countries and share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries through GTBAC meetings.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | <p>(Expenses for holding meetings, workshops, trainings, and pilot project etc.)</p> | | |
|---|--|--|--|

Notes: There are objectively verifiable indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.

添付資料 2 業務フローチャート



注1) 白抜きは国内作業
注2) は全体に関する活動
注3) は成果1に関する活動
注4) は成果2に関する活動
注5) は成果3に関する活動

注6) は現地及び国内業務を合わせて実施
注7) は部分的に投資する国内作業
注8) は成果1及び成果2に関する活動
注9) は成果1~3に関する活動

業務従事者の従事計画・実績表

契約名：COMIFAC諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第1年次(2015-2016) | | | | | | | | | | | | 第2年次(2016-2017) | | | | |
|--------|----------------|----|------|-----------------|------------------------------------|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|-----------------|------------------------------------|----|----|----|
| | | | | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 水品 修 | 総括/気候変動対策(1) | 2 | 計画 | 18 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 18 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 松本 淳一郎 | 副総括/気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 3 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 3 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 水品 修 | 気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 0 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 笹川 裕史 | 副総括/森林モニタリング | 3 | 計画 | 13 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 13 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 二村 聡 | 生物多様性保全(1) | 3 | 計画 | 10 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 10 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 沼田 恵一 | 生物多様性保全(2) | 3 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 0 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 柴原聖至 | 生物多様性保全(2) | 3 | 計画 | 1 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 佐藤 向陽 | 業務調整/生計向上(1) | 4 | 計画 | 9 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 9 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 堀 麻耶 | 業務調整/気候変動対策(3) | 6 | 計画 | 8 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 8 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 平井將公 | 業務調整/生計向上(2) | 5 | 計画 | 6 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 6 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第1年次(2015-2016) | | | | | | | | | | | | 第2年次(2016-2017) | | | | |
|--------|-------|----|------|-----------------|------------------------------------|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|-----------------|------------------------------------|----|----|----|
| | | | | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 小山 朋宏 | 通訳 | 5 | 計画 | 12 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 8 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 鈴木 源太郎 | 通訳(4) | 5 | 計画 | 2 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 4 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 大島 美保 | 通訳(2) | 5 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 芹澤 紀青 | 通訳(3) | 5 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第1年次(2015-2016) | | | | | | | | | | | | 第2年次(2016-2017) | | | | |
|--------|----------------|----|------|-----------------|------------------------------------|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|-----------------|------------------------------------|----|----|----|
| | | | | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 水品 修 | 総括/気候変動対策(1) | 2 | 計画 | 18 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 18 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 松本 淳一郎 | 副総括/気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 3 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 3 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 水品 修 | 気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 0 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 笹川 裕史 | 副総括/森林モニタリング | 3 | 計画 | 13 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 13 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 二村 聡 | 生物多様性保全(1) | 3 | 計画 | 10 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 10 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 堀 麻耶 | 業務調整/気候変動対策(3) | 6 | 計画 | 8 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 8 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |
| 平井將公 | 業務調整/生計向上(2) | 5 | 計画 | 6 | [Gantt chart showing planned days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing planned days] | | | |
| | | | 実績 | 6 | [Gantt chart showing actual days] | | | | | | | | | | | | [Gantt chart showing actual days] | | | |

- 凡例：
- 業務従事計画
 - 渡航回数増加分
 - メキシコ
 - 他案件に従事
 - カメルーン
 - ルワンダ
 - 南アフリカ
 - ガボン
 - 自社負担
 - コンゴ民
 - コンゴ共
 - エジプト
 - ポーランド
 - 6月格

| | | | | | | | | |
|------|---|--------|---|-----------|---|-----------|---|---------|
| 報告書等 | △ | ワークプラン | △ | モニタリングシート | △ | モニタリングシート | △ | 業務進捗報告書 |
|------|---|--------|---|-----------|---|-----------|---|---------|

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第3年次(2017-2018) | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----------------|----|------|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 水品 修 | 総括/気候変動対策(1) | 2 | 計画 | 18 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 18 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 松本 淳一郎 | 副総括/気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 3 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 3 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 水品 修 | 気候変動対策(2) | 3 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 0 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 笹川 裕史 | 副総括/森林モニタリング | 3 | 計画 | 13 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 13 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 二村 聡 | 生物多様性保全(1) | 3 | 計画 | 10 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 10 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 沼田 恵一 | 生物多様性保全(2) | 3 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 0 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 柴原聖至 | 生物多様性保全(2)2 | 3 | 計画 | 1 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐藤 向陽 | 業務調整/生計向上(1) | 4 | 計画 | 9 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 9 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 堀 麻耶 | 業務調整/気候変動対策(3) | 6 | 計画 | 8 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 8 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 平井將公 | 業務調整/生計向上(2) | 5 | 計画 | 6 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 6 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第3年次(2017-2018) | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|----|------|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 小山 朋宏 | 通訳 | 5 | 計画 | 12 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 8 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 鈴木 源太郎 | 通訳(4) | 5 | 計画 | 2 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 4 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 大島 美保 | 通訳(2) | 5 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 芹澤 紀青 | 通訳(3) | 5 | 計画 | 0 | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | 1 | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |

| 氏名 | 担当業務 | 格付 | 渡航回数 | 第3年次(2017-2018) | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----------------|----|------|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 水品 修 | 総括/気候変動対策(1) | 2 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 松本 淳一郎 | 副総括/気候変動対策(2) | 3 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 水品 修 | 気候変動対策(2) | 3 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 笹川 裕史 | 副総括/森林モニタリング | 3 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 二村 聡 | 生物多様性保全(1) | 3 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 堀 麻耶 | 業務調整/気候変動対策(3) | 6 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| 平井將公 | 業務調整/生計向上(2) | 5 | 計画 | | [Gantt chart showing planned flight days] | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実績 | | [Gantt chart showing actual flight days] | | | | | | | | | | | | | | |

- 凡例:
- 業務従事計画
 - 渡航回数増加分
 - メキシコ
 - 他案件に従事
 - カメルーン
 - ルワンダ
 - 南アフリカ
 - ガボン
 - 自社負担
 - コンゴ民
 - コンゴ共
 - エジプト
 - ポーランド
 - 6号格

| | | | | |
|------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 報告書等 | △ | △ | △ | △ |
| | モニタリングシート | モニタリングシート | 業務進捗報告書 | モニタリングシート |

貸与物品リスト

業務名称：COMIFAC諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト
対象国：カメルーン

(2020年10月現在)

| 物品名称 | 規格・品番 | 個数 | 取得価格 | | 取得日 | 配置場所 | 現況 | 備考 | 事業終了後の 取扱い |
|------------------------------|----------------------------------|----|---------|------|------------|-----------|-----|--|--------------------------|
| | | | 取得価格 | 通貨 | | | | | |
| プロジェクター | SONY XGA VPL-DX102・7019278 442 S | 1 | 335,000 | FCFA | 2015/12/15 | プロジェクト事務所 | 稼働中 | | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| A3プリンター | HP Officejet 7612・QN6823R0ZZ | 1 | 190,000 | FCFA | 2017/04/19 | プロジェクト事務所 | 故障 | 後継として2020/2/25にHP Officejet 7740を新規購入 | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| トウルーパルス360 | Laser Technol ogy, Inc・098532 | 1 | 269,000 | 円 | 2017/05/18 | プロジェクト事務所 | その他 | カメルーンのハイロケットプロジェクト終了につき、他のTRUDOM国で実施するハイロケットプロジェクト再委託先に買与の予定 | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| トウルーパルス360 | Laser Technol ogy, Inc・098536 | 1 | 269,000 | 円 | 2017/05/18 | プロジェクト事務所 | その他 | カメルーンのハイロケットプロジェクト終了につき、他のTRUDOM国で実施するハイロケットプロジェクト再委託先に買与の予定 | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| 衛星通信用モデム | Modem VSAT HUGHES HX90 | 1 | 357,750 | FCFA | 2017/02/10 | JICA事務所 | その他 | カメルーンのハイロケットプロジェクト終了後、JICA事務所に返却。Comcepプロジェクトサイトで利用とのこと | JICA事務所へ返却 済み |
| ノートパソコン | HP INTEL DUAL CORE HP—CND6376V6C | 1 | 240,000 | FCFA | 2017/07/07 | JICA事務所 | その他 | カメルーンのハイロケットプロジェクト終了後、JICA事務所に返却。Comcepプロジェクトサイトで利用とのこと | JICA事務所へ返却 済み |
| A3プリンター | HP Officejet 7740 | 1 | 185,000 | FCFA | 2020/02/25 | プロジェクト事務所 | 稼働中 | | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 【以下、JICAから貸与されている物品】 | | | | | | | | | |
| プロジェクター車面①Land Cruiser 76DSL | HZJ76L—RKMRS03 | 1 | | | 2016/03/28 | JICA事務所 | その他 | カメルーンでのハイロケットプロジェクト終了に伴いJICA事務所へ返還 | JICA事務所へ返却 済み |
| プロジェクター車面②TOYOTA FORTUNER | LAN155L—SNMSEN34 | 1 | | | 2017/03/16 | JICA事務所 | その他 | 新型コロナウイルスの影響により、当面の渡航が困難であることから、プロジェクト車両はJICA事務所に一時的に返却。 | JICA対カメルーン2国間協 力案件に譲与 |
| ハイロケットプロジェクト用バイク | YAMAHA AG100 | 1 | | | 2017/03/27 | JICA事務所 | その他 | カメルーンでのハイロケットプロジェクト終了に伴いJICA事務所へ返還 | JICA事務所へ返却 済み |

添付資料 6 研修実績 (国ごとの参加者数)

| 研修名 | 期間 | 場所 | 参加者人数 |
|----------------------------|----------------|----------------------------------|--|
| 第1回森林モニタリング研修 (リモートセンシング編) | 2017/12/4-8 | Mbalmayo, Cameroun | チャド、中央アフリカ、コンゴ民主共和国、ガボン、サントメプリンシペ、コンゴ共和国、ブルンジ各1名、カメルーン8名の計15名 |
| 第2回森林モニタリング研修 | 2018/6/4-8 | Libreville, Gabon | チャド、中央アフリカ、コンゴ民主共和国、サントメプリンシペ、コンゴ共和国、ブルンジ、カメルーン各1名、ガボン13名の計21名 |
| 第3回森林モニタリング研修 | 2019/3/4-8 | Brazzaville, République du Congo | チャド2、ガボン3、コンゴ民主共和国3、中央アフリカ3、カメルーン4、赤道ギニア1、サントメプリンシペ3、コンゴ共和国4名の計23名 |
| 第1回 ABS ラボラトリーワーク研修 | 2017/9/18-23 | Kigali (Huye), Rwanda | 中央アフリカ2、カメルーン2、コンゴ共和国2、コンゴ民主共和国2、ブルンジ2、サントメプリンシペ2、チャド2、ルワンダ5の計21名 |
| 第2回ラボワーク研修 | 2018/7/30-8/3 | Huye, Rwanda | ブルンジ、カメルーン、チャド、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメプリンシペ各2名、ガボン1名、ルワンダ24名の計37名 |
| ABS 民間コンタクトフォーラム | 2019/9/30-10/1 | Douala, Cameroun | カメルーン11名、ブルンジ1名、コンゴ共和国3名、赤道ギニア3名、コンゴ民主共和国2名、中央アフリカ3名、ルワンダ3名、サントメプリンシペ3名、チャド3名、JICA カメルーン事務所2名、GIZ 関係者2名、COMIFAC 事務局関係者5名、日本の民間企業関係者3名、プロジェクトチーム7名の計51名 |

添付資料 7 研修および会合リスト (Project Completion Report 仏語版からの訂正箇所あり)

| No | 活動名 | 日付 | 開催場所 | 参加者数 |
|----|---|------------------------|--|------|
| 1 | プロジェクト概要説明 セミナー | 2015/9/3 | Yaoundé, Cameroun | 5 |
| 2 | 世界林業会議 | 2015/9/7-11 参加セッション | Durban, Afrique du Sud | 140 |
| 3 | 気候変動ワーキング・ グループ会議(GTCCC) | 2015/9/16-18 | Douala, Cameroun | 40 |
| 4 | GTBAC | 2015/11/14-15 | Bangui, Centre Africaine | 40 |
| 5 | COMIFAC 閣僚会合 | 2015/11/28-30 | Kigali, Rwanda | 120 |
| 6 | 第1回合同調整会議 (JCC) | 2016/1/25 | Douala, Cameroun | 40 |
| 7 | キックオフワークショ ップ | 2016/1/26 | Douala, Cameroun | 46 |
| 8 | GTGF 関連会議「国際 森林フォーラムに係る 準備会合」第12回 FNUF | 2016/4/11-12 | Douala, Cameroun | 32 |
| 9 | 気候変動ワーキンググ ループ (GTCCC) 会合 | 2016/5/2-4 | Douala, Cameroun | 44 |
| 10 | COMIFAC 収束計画 2 普及セミナー | 2016/5/7 | Yaoundé, Cameroun | 50 |
| 11 | COMIFAC 各国調整官 (CNC)の能力強化セ ミナー | 2016/5/30-6/3 | Douala, Cameroun | 52 |
| 12 | 気候資金に係る能力強 化セミナー | 2016/9/26-27 | Douala, Cameroun | 40 |
| 13 | 各国調整官能力強化セ ミナー | 2016/10/31-11/2 | Douala, Cameroun | 53 |
| 14 | 収束計画 2 の指標基礎 データ検討に係る会議 | 2016/11/3-5 | Douala, Cameroun | 51 |
| 15 | 第24回 GTBAC 24eme Reunion du GTBAC | 2016/11/14-17 | Brazzaville, République du Congo | 40 |
| 16 | COMIFAC 閣僚級会合 | 2016/11/27-29 | Kigali, Rwanda | 53 |
| 17 | COP12 | 2016/12/4-17 | Cancún, Mexique | 50 |

| | | | | |
|----|--|---------------|--|-----|
| 18 | TRIDOM 管理状況報告書の承認会議 | 2017/1/25 | Douala, Cameroun | 23 |
| 19 | 第2回合同調整会議 (JCC) | 2017/1/26 | Douala, Cameroun | 18 |
| 20 | GTCCC 会合 | 2017/3/9-11 | Kigali, Rwanda | 36 |
| 21 | 国連森林フォーラムに係る準備会合 | 2017/4/10-11 | Douala, Cameroun | 50 |
| 22 | 第25回中部アフリカ生物多様性作業グループ会合 | 2017/4/24-26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 23 | 第6回 SGTAPFS「保護区と野生動物に係るサブグループ会合」(GTBAC 内サブグループによる会議) | 2017/4/27-29 | Douala, Cameroun | 20 |
| 24 | COMIFAC 収束計画2普及のための円卓会議 | 2017/6/17 | Bata, Guinée équatoriale | 120 |
| 25 | GTCCC ワークショップ | 2017/6/22-24 | Malabo, Guinée équatoriale | 50 |
| 26 | コンゴ盆地諸国における FREL、MRV システムおよびセーフガード実施現状に係る地域ワークショップ | 2017/7/17-21 | Libreville, Gabon | 80 |
| 27 | GTCCC 会合 | 2017/8/28-30 | Brazzaville, République du Congo | 60 |
| 28 | TRIDOM パイロットプロジェクトのキックオフ会合 | 2017/8/30 | Gribé, Cameroun | 150 |
| 29 | ABS ラボラトリーワーク研修 | 2017/9/18-23 | Kigali, Rwanda | 21 |
| 30 | COMIFAC 収束計画2普及のための円卓会議 | 2017/9/29 | Kinshasa, Democratic Republic of the Congo | 120 |
| 31 | コンゴ盆地森林パートナーシップ会合 | 2017/10/24-27 | Douala, Cameroun | 50 |
| 32 | JICA 森林ガバナンスイニシアチブ国際セミナー | 2017/10/24-25 | Tokyo, Japan | 40 |

| | | | | |
|----|--|-------------------------|--|-----|
| 33 | 第23回気候変動枠組条約締約国会議 | 2017/11/6-17 参加セッション | Bonne, Allemagne | 60 |
| 34 | TRIDOM 対話集会 | 2017/11/28-29 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 35 | 森林モニタリング研修 | 2017/12/4-8 | Mbalmayo, Cameroun | 15 |
| 36 | GTBAC サブグループ 会合 | 2017/12/4-8 | Libreville, Gabon | 29 |
| 37 | パイロットプロジェクト、定期市開催回と NTFP 販売促進に関する集会 | 2017/12/30 | Gribé, Cameroun | 160 |
| 38 | 第26回 GTBAC 会議 | 2018/1/15-18 | Douala, Cameroun | 40 |
| 39 | 2017年成果報告ワーク ショップ | 2018/1/26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 40 | 第3回合同調整会議 (JCC) | 2018/1/27 | Douala, Cameroun | 30 |
| 41 | COMIFAC2018 年年間 作業計画策定 WS | 2018/1/29-30 | Kribi, Cameroun | 30 |
| 42 | TRIDOM パイロットプ ロジェクト第2回大規 模対話集会 | 2018/2/8 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 43 | TRIDOM パイロットプ ロジェクト第2回大規 模対話集会 | 2018/2/9 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 44 | COP23 結果分析に係る 中部アフリカワークシ ョップ | 2018/2/13-14 | Brazzaville, République du Congo | 50 |
| 45 | COMIFAC 臨時閣僚会 議 | 2018/3/13-15 | Brazzaville, République du Congo | 122 |
| 46 | TRIDOM パイロットプ ロジェクト第3回大規 模対話集会 | 2018/3/15 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 47 | 臨時 JCC | 2018/5/23 | Douala, Cameroun | 13 |
| 48 | TRIDOM における森林 管理に関する参考書検 討会議 | 2018/5/24 | Douala, Cameroun | 5 |
| 49 | 収束計画普及円卓会議 | 2018/5/29 | Kigari, Rwanda | 100 |
| 50 | 第2回森林モニタリン グ研修 | 2018/6/4-8 | Libreville, Gabon | 21 |
| 51 | 第27回 GTBAC | 2018/6/13-16 | Douala, Cameroun | 42 |

| | | | | |
|----|---|-------------------------|--|-----|
| 52 | 第2回ラボワーク研修 | 2018/7/30-8/3 | Huye, Rwanda | 37 |
| 53 | 第28回 GTBAC | 2018/10/15-19 | Bata, Guinée équatoriale | 79 |
| 54 | GTCCC | 2018/10/16-18 | Kribi, Cameroun | 30 |
| 55 | CBD COP14 | 2018/11/13-29 | Sharm El Sheikh | 4 |
| 56 | 収束計画普及円卓会議 | 2018/11/22 | Libreville, Gabon | 100 |
| 57 | 第24回気候変動枠組条 約締約国会議 | 2018/12/3-14 参加セッション | Katowice, Poland | 80 |
| 58 | 2018年成果報告ワーク ショップ | 2019/1/31 | Douala, Cameroun | 32 |
| 59 | 第4回合同調整会議 (JCC) | 2019/2/1 | Douala, Cameroun | 22 |
| 60 | 2019年年間活動策定会 議 | 2019/2/27-3/1 | Nlokandom, Cameroun | 30 |
| 61 | 第3回森林モニタリン グ研修 | 2019/3/4-8 | Brazzaville, République du Congo | 23 |
| 62 | 気候変動作業グループ GTCCC 会合 | 2019/3/5-7 | Malabo - Guinée Equatoriale | 40 |
| 63 | 越境保護地域協働管理 に係るパイロットプロ ジェクトキックオフミ ーティング | 2019/4/25 | Sembé, Cameroun | 70 |
| 64 | 収束計画普及円卓会議 | 2019/6/7-8 | Brazzaville, République du Congo | 27 |
| 65 | SBSTA50 | 2019/6/17-27 | Bonn, Allemagne | 2 |
| 66 | 第10回 COMIFAC 閣僚 会議 | 2019/7/9-11 | Yaoundé, Cameroun | 82 |
| 67 | REDD+研修 | 2019/8/13-16 | Abidjan, Côte d'Ivoire | 1 |
| 68 | ABS 民間コンタクトフ ォーラム | 2019/9/30-10/1 | Douala, Cameroun | 51 |
| 69 | 気候変動作業グループ 会合 | 2019/10/28-29 | Douala, Cameroun | 31 |
| 70 | 第25回気候変動枠組条 約締約国会議 | 2019/12/2-13 | Madrid, Espagne | 2 |
| 71 | ABS ラボラトリーマニ ュアル承認会議 | 2020/2/12-14 | Kigali, Rwanda | 25 |
| 72 | CNC プラットフォーム 会議 | 2020/2/17-18 | Kigali, Rwanda | 19 |

| | | | | |
|----|------------------|----------|------------------|----|
| 73 | 森林モニタリングガイド承認会議 | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 19 |
| 74 | 越境保護区管理ガイド検討承認会議 | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 11 |



カメルーン国
COMIFAC諸国における
生物多様性保全・利用および気候変動対策促進
プロジェクト

Project Completion Report

2020年9月

一般社団法人日本森林技術協会

Project Completion Report

**Project Title : Project for Promotion of Conservation,
Sustainable Use of Biodiversity and Climate Change
Issues in COMIFAC Countries**

Name: Gervais Ludovic ITSOUA MADZOUS

Title: Project Director

Name: Shu MIZUSHINA

Title: Chief Advisor

Submission Date:

目次

| | |
|--|---|
| I. プロジェクト基本情報 | 1 |
| 1. 国名：カメルーン共和国 | 1 |
| 2. プロジェクト名：COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および 気候変動対策促進プロジェクト | 1 |
| 3. プロジェクト期間：2015年8月～2020年10月 | 1 |
| 4. プロジェクトの背景（合意文書（R/D）より） | 1 |
| 5. 上位目標とプロジェクト目標（合意文書（R/D）より） | 2 |
| 6. 実施機関 | 2 |
| II. プロジェクトの成果 | 2 |
| 1. プロジェクトの成果 | 2 |
| 1-1 日本側の投入（計画と実績） | 2 |
| 1-2 COMIFAC 側の投入（計画と実績） | 4 |
| 1-3 実施済み活動（実績） | 5 |
| [2015年] | 5 |
| [2016年] | 6 |
| [2017年] | 7 |
| [2018年] | 8 |

| | |
|--|----|
| [2019年]..... | 10 |
| [2020年]..... | 11 |
| 2. プロジェクトの達成状況 | 12 |
| 2-1 期待される成果と指標 | 12 |
| 2-2 プロジェクト目標と指標..... | 15 |
| 3. プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）修正履歴 | 17 |
| 4. その他 | 18 |
| 4-1 環境・社会配慮 | 18 |
| 4-2 ジェンダー／平和構築／貧困削減における配慮 | 18 |
| III. 合同事業評価の結果 | 18 |
| 1. 本プロジェクトの評価手順 | 18 |
| 2. 評価結果（DAC 評価 5 項目に対応） | 19 |
| (1) 妥当性 | 19 |
| (2) 有効性 | 19 |
| (3) 効率性 | 20 |
| (4) インパクト | 21 |
| (5) 持続性 | 22 |
| 3. プロジェクトの実施を阻害する主な要因 | 23 |
| 4. プロジェクトのリスク管理に係る評価 | 24 |
| 5. 教訓 | 25 |
| IV. プロジェクト終了後の上位目標達成に向けて | 26 |
| 1. 上位目標達成の見込み | 26 |
| 2. 上位計画実現に向けた COMIFAC のオペレーションプランおよび実施体制 | 27 |
| 3. プロジェクト終了時から事後評価実施時までのモニタリング計画 | 28 |

略語表

| 略語 | 英語／仏語 | 日本語 |
|----------------|--|-------------------------------|
| ABS (APA) | Acces and Benefit-Sharing (Accès et Partage des Avantages) | 遺伝資源へのアクセスと利益配分 |
| CBD (CDB) | Convention on Biological Diversity (Convention sur la Diversité Biologique) | 国際連合生物多様性条約 |
| CNC | Coordination Nationale de la COMIFAC | COMIFAC 国家調整官 |
| COMIFAC | Commission des Forêts d'Afrique Centrale | 中部アフリカ森林協議会 |
| COP | Conference of Parties (Conférence des Parties) | 締約国会議 |
| DAC | Development Assistance Committee (Comité d'Aide au Développement) | OECD 開発援助委員会 |
| GIZ | Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit | ドイツ国際協力公社 |
| GTBAC | Groupe de Travail sur la Biodiversité en Afrique Centrale | 中部アフリカ生物多様性作業グループ |
| GTCCC | Groupe de travail de la Convention sur le Changement Climatique | 気候変動条約作業グループ |
| GTGF | Groupe de travail de la Gestion Forestière | 森林経営作業グループ |
| JCC | Joint Coordination Committee (Comité de pilotage) | 合同調整委員会 |
| JICA | Japan International Cooperation Agency (Agence Japonaise de Coopération Internationale) | 国際協力機構 |
| M/M | Man-month (Homme- mois) | 人月 |
| PDM | Project Design Matrix (Matrice de Concept de Projet) | プロジェクト・デザイン・マトリクス |
| PROGEF | Projet de renforcement des capacités pour la gestion durable de l'écosystème forestier en République du Cameroun | カメルーン国持続的森林エコシステム管理能力強化プロジェクト |
| R/D | Record of Discussions | 合意文書 |
| SATREPS-COMECA | Science and Technology | 地球規模課題対応国際科学 |

| | | |
|-----------------|---|--|
| | Research Partnership for Sustainable Development - Co-création d'une gestion innovante des ressources forestières combinant les méthodes écologiques et les connaissances autochtones | 技術協力 - 在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創 |
| SE COMIFAC | Secrétariat Exécutif de la COMIFAC | COMIFAC 事務局 |
| SGAPFS | Sous Groupe de travail sur les Aires Protégées et la Faune Sauvage | 保護区域野生動物サブグループ |
| TRIDOM | zone de Tri-National Dja, Odzala-Kokoua, Minkébé (TRIDOM) | ジャ、オザラコクア、ミンケベ3ヶ国保護地域 |
| UNFCCC (CCNUCC) | United Nations Framework Convention on Climate Change (Convention-Cadre des Nations-Unis de Changement Climatique) | 国際連合気候変動枠組み条約 |

I. プロジェクト基本情報

1. **国名** : COMIFAC 加盟国
2. **プロジェクト名**: COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト
英文タイトル : Project for Promotion of Conservation, Sustainable Use of Biodiversity and Climate Change Issues in COMIFAC Countries
3. **プロジェクト期間** :2015 年 8 月～2020 年 10 月
4. **プロジェクトの背景 (合意文書 (R/D)より)** :

コンゴ盆地に広がる森林は、アマゾンに次ぐ世界第2の森林面積を誇る熱帯雨林であり、豊かな生物多様性を擁している。しかし一方で、過剰な利用や違法伐採、森林の農地への転換や市街地化などさまざまな理由から、森林の減少と劣化が加速している。

これに対処するため、地域内における森林と環境に係る政策の方向づけと調整、監視を担うべく、『ヤウンデ宣言』に基づき、中部アフリカ森林協議会 (COMIFAC) が 2005 年に設立された。加盟国は、ブルンジ、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、赤道ギニア、ガボン、ルワンダ、サオトメ・プリンシペの 10 か国である。

2005 年、COMIFAC 加盟 10 か国が活動を行う上での共通プラットフォームとして、収束計画 (Plan de convergence 2005-2015) が採択され、10 の優先課題が定められた。JICA では 2011 年以來、この収束計画の推進に向けて、専門家を派遣し COMIFAC 事務局に対する技術支援を行っている。

現在は、次の 10 か年 (2015-2025) に向け新たな課題と国際動向に対応すべく策定された、収束計画改訂版が実施中である。生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) 気候変動ワーキンググループ (GTCCC)、森林ガバナンスワーキンググループ (GTGF)

という3つのワーキンググループの活動強化を図り、収束計画の実施を促進すべく、COMIFAC は日本国政府に、技術協カプロジェクトの実施を要請したものである。

5. 上位目標とプロジェクト目標 (合意文書 (R/D)より) :

上位目標

COMIFAC 加盟国において森林生態系の保全及び持続的管理が促進される。

プロジェクト目標

COMIFAC の組織能力強化を通じて収束計画の実施が促進される。

6. 実施機関

COMIFAC (中部アフリカ森林協議会)

II. プロジェクトの成果

1. プロジェクトの成果

1-1 日本側の投入 (計画と実績)

(1) プロジェクト費用合計

計画 (年次作業計画提示予算額) : 980,859,100 XAF (¥187.859.100)

実績 : 965,858,000 XAF (¥184.788.000)

(2020年9月 JICA 為替レート : 1XAF=0.19132)

(2) 専門家派遣

| JICA 専門家 | プロジェクト開始からプロジェクト終了迄 (M/M) | |
|--------------|---------------------------|-------|
| | 計画 | 実績 |
| 総括/気候変動対策(1) | 17.00 | 17.00 |

| | | |
|-----------------|-------|-------|
| 副総括／気候変動対策(2) | 1.30 | 1.30 |
| 副総括／森林モニタリング | 11.03 | 11.03 |
| 生物多様性保全(1) | 5.63 | 5.63 |
| 生物多様性保全(2) | 1.10 | 1.10 |
| 業務調整／生計向上(1) | 14.00 | 14.00 |
| 業務調整／生計向上(2) | 13.60 | 13.60 |
| 業務調整／気候変動対策(3) | 9.33 | 9.33 |
| 日仏通訳（1） | 223 日 | 132 日 |
| 日仏通訳（2） | 0 日 | 24 日 |
| 日仏通訳（3） | 0 日 | 18 日 |
| 日仏通訳（4） | 18 日 | 67 日 |
| M/M 合計（日仏通訳を除く） | 72.99 | 72.99 |

(3) プロジェクトで実施した研修参加者人数

| 研修 | 人数 |
|--------------|-----|
| 森林モニタリング研修 | 75 |
| ABS ラボラトリー研修 | 137 |
| 合計 | 212 |

本邦研修は案件開始時には実施を想定していたが、日本政府の外交上の措置で COMIFAC 加盟国のなかに日本への渡航が認められない国があるため、COMIFAC 加盟国平等の原則を担保することができず、結果として本邦研修は行わないこととなった。

(4) 資機材調達

資機材はプロジェクト事務所用として、プロジェクター1台、プリンター1台、プロジェクト車両2台を調達した。また、カメルーンのグリベ村を中心として実施した TRIDOM 協働管理マイクロパイロットプロジェクト用として衛星通信用モデム1台、ラップトップパソコン1台、トゥルーパルス（測樹器械）2台、バイク1台を購入した。

本案件終了後、購入したプロジェクト事務所用資機材はカメルーン国との 2 国間協力案件である PROGEF の事務所で引き続き使用することとしている。また、衛星通信用モデム、ラップトップパソコン、バイク 1 台はグリベ村を中心として実施している SATREPS-COMECA へ譲渡し、現在当該プロジェクトが管理している。トゥルーパルスは PROGEF 事務所で保管している。

以上のことから COMIFAC 事務局へ委譲予定の資機材はない。

(5) 在外事業強化費

1-2 COMIFAC 側の投入 (計画と実績)

| | |
|-------------|--|
| カウンターパートの配置 | 合意文書 (R/D) に記載の計画通り、プロジェクトの全期間中、COMIFAC 事務局が、本プロジェクトのプロジェクトマネージャーと、気候変動対策、生物多様性、モニタリング評価それぞれの担当専門家計 3 名、および加盟各国の COMIFAC 国家調整官 (10 名) を配置した。 |
| 施設の提供 | R/D に添付された PDM に明記されているプロジェクト事務所用の部屋は提供されていない。これは COMIFAC 事務局が入る建物に十分なスペースがなく、事務局側もスペース確保に向けた努力を行ったがそれができなかったためである。JICA プロジェクトは自らの負担にて、プロジェクト開始当初から 2019 年 8 月迄、GIZ の COMIFAC 支援プロジェクトが入る建物内に一部屋を借り受けた。また、2019 年 9 月からプロジェクト終了時迄の期間は、再度自らの負担にて、別の物件を借りて使用した。 |
| 予算 | 本 JICA プロジェクトの事業に係る年間予算は JICA プロジェクト年間作業計画に記載され、JCC 会議の折に COMIFAC 事務局の承認を得る。これらの金額は COMIFAC の年間作業計画策定会合の折に、公表され確定する。 |

| | |
|--|---|
| | COMIFACはその事務局役員およびスタッフの person 費は負担するが、移動交通費、日当・宿泊といった出張旅費は技術・資金パートナーの負担となっている。 |
|--|---|

1-3 実施済み活動 (実績)

以下、各成果の達成に向け実施した活動の内容を、年度別に要約する。

前提として理解すべき点は、中部アフリカの地域機関である COMIFAC の任務は、COMIFAC の資金支援で収束計画に係る活動を加盟各国で実施することではなく、技術支援・財務支援パートナーの協力を得て、中部アフリカの森林・環境政策の調和を図り、活動実施を調整する一方、気候変動枠組み条約、生物多様性条約など国際条約に係る国際会議において中部アフリカとしての共通スタンスを主張することである。つまり、COMIFAC のメインの活動はそうした共通スタンスを構築するために加盟国内で各種の会議を開催することだといえる。

[2015 年]

| 実施内容 |
|--|
| プロジェクト全体に係る事項 |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ プロジェクト事務所用物件の賃借、カメルーン人スタッフの傭人、事務機器の調達等。 ➤ プロジェクトの各活動の方針説明ワークショップの開催（2015 年 9 月 3 日）。 ➤ ワークプラン及び 2016 年活動計画の最終化に係る、COMIFAC 事務局との協議（2015 年 11 月、12 月）。 |
| 成果 1：気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 世界林業会議（南アフリカ・ダーバン）における COMIFAC のサイド・イベント開催支援（2015 年 9 月 7 日～11 日）。この会議では、この時期、JICA 支援で実施していたガボンおよびコンゴ民主共和国の森林モニタリングシステム強化プロジェクトのカウンターパート機関代表者を招請し、プロジェクトに係る発表を行った。 |
| 成果 2：生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ ABS 現況調査の一環として、ヤウンデ（カメルーン）における研究機関（ラボ）の視察（2015 年 9 月 4 日～9 日）を実施。 |
| 成果 3：COMIFAC 各国調整官の活動が強化される |

該当事項なし

[2016 年]

| |
|--|
| 実施内容 |
| プロジェクト全体に係る事項 |
| <ul style="list-style-type: none">➤ 第 1 回合同調整委員会の開催、ドゥアラ、カメルーン（2016 年 1 月 25 日）。➤ プロジェクト・キックオフ・ワークショップの開催、ドゥアラ、カメルーン（2016 年 1 月 26 日）。➤ プロジェクト合同調整委員会設置に係る決定第 001/COMIFAC/SE/16 発令（2016 年 3 月 22 日） |
| 成果 1：気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される。 |
| <ul style="list-style-type: none">➤ COMIFAC 加盟諸国における森林資源モニタリングシステム現況調査の実施。➤ GTCCC 関連ワークショップの開催支援（2016 年 5 月）（COMIFAC 加盟国の COP21 の結果共有）。➤ GTCCC 関連会議の開催支援（2016 年 9 月）（COP22 における COMIFAC 共通スタンス協議）。➤ GTCCC 関連会議の開催支援（2016 年 10 月）（COP22 における COMIFAC の共通スタンス確認）；同会議において現地再委託により作成した森林資源モニタリングシステム現況調査報告書の承認セッションを開催、承認を得る。 |
| 成果 2：生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none">➤ カメルーン国の BUEA 大学及び Dchang 大学における、ABS のための研究機関（ラボ）の視察（2016 年 1 月 27 日～30 日）。➤ 第 24 回 GTBAC 会議の開催支援（2016 年 11 月）（メキシコ、カンクンで開催の生物多様性条約（CBD）COP13 に係る COMIFAC の共通スタンス確認）。➤ メキシコのカンクンで開催された CBD COP13 への、COMIFAC 事務局生物多様性担当専門家派遣支援（2016 年 12 月 2 日～7 日）。➤ 現地再委託により作成したバイオプロスペクティング現況調査報告書承認会議の開催し、承認を得る。➤ 現地再委託により作成した TRIDOM 越境保護区管理システム現況調査報告書の承認会議を開催し、承認を得る。 |
| 成果 3：COMIFAC 各国調整官の活動が強化される。 |
| <ul style="list-style-type: none">➤ COMIFAC 各国調整官能力強化セミナーの開催支援（2016 年 6 月）（収束計画の指標および開発されたモニタリングソフトの利用研修）。 |

- COMIFAC 各国調整官能力強化セミナーの開催支援（2016年11月）（収束計画の指標および開発されたモニタリングソフトの利用研修）。

[2017年]

| |
|---|
| 実施内容 |
| プロジェクト全体に係る事項 |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 第2回合同調整委員会を2017年1月26日にカメルーンのドゥアラで開催。2016年の活動進捗及び2017年の活動計画を議論し、承認される。 |
| 成果 1：気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ カメルーンのドゥアラにおける、GTGF 会合の開催（2017年4月24日～26日）。ニューヨークで開かれる第12回国連森林フォーラムへのCOMIFAC加盟諸国の参加準備会合。 ➤ ルワンダのキガリにおける、GTCCC 会合の開催（2017年3月9日～11日）。この会合の目的は、COP22で得られた成果の共有、および、今後のUNFCCCの各種会合におけるCOMIFAC諸国の共通スタンスについて協議。 ➤ 赤道ギニアのマラボにおける、GTCCC 会合の開催（2017年6月22日～24日）。この会合において、COMIFAC各国がGCFの準備資金調達メカニズムと手続きについて協議し理解を深めた。 ➤ ガボンのリーブルビルにおける、「Congo Basin MRV Week」の開催（2017年7月17日～21日）。この会合には加盟各国のMRV専門家と、地域住民組織、技術支援パートナー機関、財政面パートナー機関の代表らが参加し、COMIFAC加盟10か国におけるMRVの現状について共通理解を得た。 ➤ コンゴ共和国のブラザビルにおける、GTCCC 会合の開催（2017年8月28日～30日）。この会合では、UNFCCC COP23におけるCOMIFAC諸国の共通スタンスについて、議論と採択がなされた。 ➤ 12月4日から8日にカメルーンのウンバルマヨの水森林学校(ENEF)において、1回目の森林モニタリング研修-リモートセンシング技術を用いた森林モニタリングを開催。 |
| 成果 2：生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ カメルーンのドゥアラにおける、第25回GTBAC会合の開催（2017年4月24日～26日）。この会合でCBD COP13にて得られた成果を加盟国で共有。 ➤ カメルーンのドゥアラにて、GTBACの下位作業グループのひとつである保護区域・野生動物サブグループ（SGAPFS）の第6回会合開催（2017年4月27日～29日）。 |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ カメルーンの東部州グリベ村における、TRIDOMパイロットプロジェクトのキックオフ会合の開催（2017年8月30日）。この会合では、行政関係者や地方オーソリティー、関係村民にプロジェクトの内容を説明し、その理解を得た。 ➤ ABSラボラトリーワーク研修を、ルワンダ大学とMOUを結び、9月18日から10月6日まで同大学のHuyeキャンパスにおいて実施。 |
| <p>成果 3：COMIFAC 各国調整官の活動が強化される</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 赤道ギニアのバタ市における、収束計画2の普及に向けた円卓会議開催支援（2017年6月17日）。この支援により、赤道ギニアにおいて、COMIFAC 収束計画2を関係の中央省庁だけでなく地方出先機関の関係者にも普及することができた。 ➤ コンゴ民主共和国のキンシャサにおける、収束計画2の普及に向けた円卓会議の開催（2017年9月29日）。 |

[2018年]

| |
|--|
| <p>実施内容</p> |
| <p>プロジェクト全体に係る事項</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ カメルーンのドゥアラにおける、活動進捗報告ワークショップの開催（2018年1月26日）。 ➤ カメルーンのドゥアラにおける、第3回合同調整委員会（JCC）の開催。（2018年1月27日）。 ➤ コンゴ共和国ブラザビルにおける、COMIFAC 臨時閣僚会議の開催（2018年3月15日）。 ➤ 上記臨時閣僚会議に先立ち、専門家会合開催（3月13日～14日）。 ➤ 臨時 合同調整委員会の開催（2018年5月23日）。ここで改めて2018年の年次作業計画を協議し、承認を得る。 |
| <p>成果 1：気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ コンゴ共和国ブラザビルにおける、GTCCC 会合の開催（2018年2月13日～14日）。この会合でUNFCCCのCOP23の結果をCOMIFAC加盟国関係者で共有。またCOMIFAC臨時会議の資料を作成。 ➤ ガボンの水森林学校(ENEF)において森林モニタリング研修－森林インベントリ編－を実施（2018年6月4～8日）。 ➤ カメルーンのクリビにおいてGTCCCの開催支援（2018年10月16日～18日）。これは、ポーランドのUNFCCC COP24（カトヴィツェにて2018年12月に開催）の準備を行い、同時に本プロジェクトで作成予定の森林モニタリングガイドについての協議 |

を行った。

- ポーランドのカトヴィツェで開かれた COP24 への COMIFAC 担当専門家の参加支援（2018 年 12 月 3 日～14 日）。

成果 2：生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAC）の活動が強化される

- カメルーンのドゥアラにおける、第 26 回 GTBAC 会合の開催（2018 年 1 月 22 日）。
- ドゥアラにおける、第 27 回 GTBAC 会合の開催（2018 年 6 月 13 日～16 日）。この会合で、ドイツのボンで実施される生物多様性条約実施補助機関会合（SBI）での COMIFAC としての共通スタンスを確認した。
- 第 2 回 ABS ラボラトリー研修の実施：第 2 回ラボラトリーワーク研修は、ルワンダ大学と MOU を結び、COMIFAC 事務局専門家の出席を得て、2018 年 7 月 30 日～8 月 3 日にルワンダ大学 Huye キャンパスにおいて実施。
- 越境保護地域管理パイロットプロジェクトサイトのカメルーンのグリベ村で、スポーツハンティング業者と住民間の利害調整を目的として、第 3 回大規模対話集会を開催（2018 年 3 月 15 日）。関係者間の協議において、企業と住民を仲介する COVAREF（動物資源開発委員会）の能力強化とコミュニティへの公正な利益配分の必要性が強調された。
- カメルーンのドゥアラにて、パイロットプロジェクトから得られた教訓・知見をまとめた リファレンスブックの概要についての検討会議を開催（2018 年 5 月 24 日）。同リファレンスブックは、多様なステークホルダー間の協働関係を構築し、住民生活と森林保全の両立を推し進めることを中心課題に据えて作成することとなった。
- 赤道ギニアのバタにおける、第 28 回 GTBAC 会合の開催（2018 年 10 月 15 日～19 日）。これは、CBD COP14（エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催）への COMIFAC 加盟諸国の参加準備を目的とする重要な会合。
- CBD COP14 は、エジプトのシャルム・エル・シェイクにて 11 月 17 日～29 日に開催された。同会議への COMIFAC 担当専門家派遣支援を実施した。

成果 3：COMIFAC 各国調整官の活動が強化される

- COMIFAC 収束計画普及円卓会議の開催（2018 年 5 月 29 日、ルワンダのキガリにて）。この会議では、ルワンダの土地・森林省大臣が議長を務め、JICA ルワンダ事務所代表者が開会式で挨拶。
- ガボンのリーブルビルにおける円卓会議の開催（2018 年 11 月 22 日）。この会議には、約 100 人の関係者が参加。

[2019 年]

| |
|---|
| 実施内容 |
| プロジェクト全体に係る事項 |
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2018 年活動報告 WS（2019 年 1 月 31 日）と第 4 回合同調整委員会（2019 年 2 月 1 日）を開催。JICA 本部ミッションが両日の会合に出席。 ➢ COMIFAC2019 年年間活動計画策定会議の開催（2019 年 2 月 27 日～3 月 1 日。於「サントル・トゥーリスティック・ドゥ・ンコルアンドム」会議室）。 ➢ 支援ドナーとりわけ GIZ および JICA の支援を得て、第 10 回 COMIFAC 加盟国閣僚会議が開催された（2019 年 7 月 9 日～11 日。於「ホテル モンフェベ」カメルーン・ヤウンデ）。同会議において議長国がルワンダからカメルーンへ交代。 ➢ アフリカ開発銀行と JICA が、コートジボワールのアビジャンにて REDD+ 関連ワークショップ “Workshop for the Design of REDD+ Projects in Africa : Lessons learned and perspectives” を共同開催（2019 年 8 月 13 日～16 日）。同会合への COMIFAC 次長の参加支援。 |
| 成果 1： 気候変動ワーキンググループ（GTCCC） および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ カメルーンのドゥアラで開催した 2018 年活動報告ワークショップにて、第 2 回森林モニタリング研修の結果を報告（2019 年 1 月 31 日）。 ➢ コンゴ共和国ブラザビルにて、第 3 回森林モニタリング研修（リポーティング編）を実施（2019 年 3 月 4 日～8 日）。 ➢ 気候変動作業グループ（GTCCC）会合開催支援（2019 年 3 月 5 日～7 日。於マラボ（赤道ギニア））。 |
| 成果 2： 生物多様性保全ワーキンググループ（GTBAG）の活動が強化される |
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 当初、COMIFAC 諸国の研究者と日本の民間企業を招いての ABS コンタクトフォーラム開催について、日本人専門家と COMIFAC 生物多様性担当専門家が協議した結果、2019 年 9 月 30 日、10 月 1 日にルワンダのキガリで開催すると決定した。しかし、その後、ルワンダに近い DRG のゴマ市でエボラ患者の発生が報告された。これにより日本企業関係者をルワンダに送ることが難しくなったため、改めて COMIFAC 事務局担当専門家と協議を行い、日程は変更せず、開催場所をカメルーンのドゥアラに変更してコンタクトフォーラムを実施することとなり、実施の運びとなった。日本企業関係者は 3 名が参加し、日本の研究経験や研修生受け入れ態勢などをプレゼンテーションし、研究者との間で相互理解を深めることができた。係る機会を増やすことで相互理解が一層促進されることが望まれる。 ➢ TRIDOM のコンゴ共和国側の越境保護地域協働管理に係るパイロットプロジェクトキックオフミーティングの開催（2019 年 4 月 25 日。於コンゴ共和国・センベ）。 |

| |
|---|
| <p>このパイロットプロジェクトは2019年12月に終了し、カメルーンおよびコンゴ共和国でのパイロットプロジェクトの経験を活かしつつ、越境保護地域協働管理ガイドブックを作成した。</p> |
| <p>成果 3 : COMIFAC 各国調整官の活動が強化される</p> |
| <p>➤ COMIFAC ナショナルコーディネーション (CNC) プラットフォーム (加盟各国の CNC と各種 COMIFAC 作業グループのフォーカルポイントで構成されている会議体) の実践力強化に向けたワークショップの開催 (2019年6月7日~8日。於コンゴ共和国ブラザビル)。このワークショップは、コンゴ盆地における森林生態系の保全および持続可能な経営イニシアティブの実施について、モニタリングと調整を行うための地域レベルの能力強化の一環として開催。</p> |

[2020年]

| |
|---|
| <p>実施内容</p> |
| <p>プロジェクト全体に係る事項</p> |
| <p>➤ 最終 JCC および最終総括セミナーを2020年4月に開催予定であったが、COVID-19の影響で日本人専門家の派遣が中断され、カメルーン国内も外出制限など各種制限が発動されたため、2020年10月半ばに Web 会議の形で最終 JCC と最終総括セミナーを実施。</p> |
| <p>成果 1 : 気候変動ワーキンググループ (GTCCC) および森林ガバナンスワーキンググループ (GTGF) の活動が強化される</p> |
| <p>➤ 2020年3月6日、カメルーンのドゥアラで森林インベントリ・モニタリングガイド承認ワークショップ開催。</p> |
| <p>成果 2 : 生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される</p> |
| <p>➤ 2020年2月12日~14日、ルワンダのキガリで ABS ラボラトリー管理ガイド検討・承認 WS 開催。このガイドは COMIFAC 加盟国研究者により作成された初のガイドといえる。</p> <p>➤ 2020年3月6日、カメルーンのドゥアラで越境保護地域協働管理ガイド検討・承認ワークショップ開催。</p> |
| <p>成果 3 : COMIFAC 各国調整官の活動が強化される</p> |
| <p>➤ 2020年2月17日~18日、ルワンダのキガリでルワンダ CNC プラットフォーム開催支援。</p> |

2. プロジェクトの達成状況

プロジェクトの達成状況は、2018年1月27日付け PDM Version1 に示された個別の活動についてではなく、《期待される成果》および《プロジェクト目標》につき、それぞれの指標に対して達成状況を確認した。

2-1 期待される成果と指標

| 成果 1： 気候変動ワーキンググループ（GTCCC）および森林ガバナンスワーキンググループ（GTGF）の活動が強化される | | | |
|--|--|----------|--|
| 指標 | 指標入手手段 | 指標達成度 | 備考 |
| 指標 1-1： COMIFAC 加盟国における森林資源モニタリングシステムの共通ニーズや不足事項に関する報告書が準備される | COMIFAC 加盟国森林資源モニタリングシステム現況報告書の現物確認 | 1/1=100% | |
| 指標 1-2： 3 タイプの研修プログラムや教材が開発される | 3 タイプ（RS 活用、森林インベントリ、レポーティング）の研修教材の現物確認 | 3/3=100% | |
| 指標 1-3： 森林モニタリング研修参加者の少なくとも 80%が自分たちの知識やスキルが強化されたと認める | 第 1 回研修時に行ったアンケート（研修時にアンケートを実施し、平均 17/20 (=85%) の参加者から、満足のいく効果があったとの回答）。 | 33% | 第 1 回研修時のアンケート調査の指標達成率は 100%だが、記録が未整理の残り 2 回の研修をゼロとし達成率は3分の1とする。 |

| | | | |
|---|--|--------------------------|--|
| 指標 1-4 : 気候変動 COP を含む 国際会議の場で、気 候変動及び持続可能 な森林経営の政策や 対策が、3 回以上発 表される | 国際会議 3 回の記 録。 | 3/3=100% | 3 回の国際会議 : --世界林業会議 2015 (南アフリ カ・ダーバ ン) ; -COP 24 (ポーラ ンド・カトヴィ ツェ) -COP 25 (2019 年 12 月スペイン・ マドリッド)。 |
| 成果 1 の達成度 | | (100+100+33+100) / 4=83% | |
| 成果 2 : 生物多様性保全ワーキンググループ (GTBAC) の活動が強化される | | | |
| 指標 2-1 : COMIFAC 加盟国にお ける ABS の技術面の 共通ニーズや不足事 項に関する報告書が 準備される | COMIFAC 加盟国に おける ABS の技術 面の共通ニーズや 不足事項に関する 報告書の現物確 認。 | 1/1=100% | |
| 指標 2-2 : 3 タイプの研修プロ グラムや教材が開発 される | -2 タイプの研修プ ログラムおよび 1 タイプのワークシ ョッププログラム (日本の民間企業 と地域内の研究者 を招聘)。 - ラボマネジメン トに係るチェック リストおよびガイ ドブック。 | 100% | |

| | | | |
|---|--|---------------------------------|---|
| 指標 2-3 : ABS ラボラトリーワー ーク研修参加者の少 なくとも 80%が自分 たちの知識やスキル が強化されたと認め る | 第 1 回研修のアン ケート調査結果 : ラボ管理研修 : 13 人中 13 人が知識 強化ありと回答。 基礎技術関連研 修 : 9 人中 9 人が 知識強化ありと回 答。 | 50% | 1 回目の研修時の アンケート調査 では達成率は 100%だが、2 回 目の研修時のア ンケート調査結 果がないので、2 回の研修達成度 は 50%とする。 |
| 指標 2-4 : 越境保護区における パイロットプロジェ クトの活動から得ら れたグッド・プラク ティスや教訓が COMIFAC 加盟国に共 有され、パイロット プロジェクトの技術 マニュアルを含むパ イロットプロジェク ト報告書の中にまと められる | カメルーン国内お よびコンゴ国内に 位置する越境保護 区での小規模パイ ロットプロジェクト の実施と報告 書。また、それら 2 カ国のパイロット プロジェクトの報 告書を基礎とする 越境保護地域協働 管理ガイドの現物 確認。 | 100% | |
| 指標 2-5 : 生物多様性条約 COP を含む国際会議の場 で、生物多様性の政 策や対策が、2 回以 上発表される | 関連報告書の確 認。 | 2/2=100% | 2 回の国際会議 : - CBD COP 13 (2016 年 於メ キシコ・カンク ン) - CBD COP 14 (2018 年 於エジ プト・シャルム エル シェイク) |
| 成果 2 の達成度 | | (100+100+50+100+100) / 5 = 90% | |
| 成果 3 : COMIFAC 各国調整官の活動が強化される | | | |
| 指標 3-1 : 収束計画の実施に係 | 当該システム開発 の検討に係る会議 | 主に GIZ 支援により収束計 画の指標評価システムはす | JICA プロジェク トに期待された |

| | | | |
|--|-----------------|---|---|
| るモニタリング評価システム及びCOMIFACの活動が円滑に実施される | の参加記録による確認 | でに完成し、COMIFACのWEBサイトで運用されている。係る評価システム開発に対するJICAプロジェクトの貢献を定量的に評価することは困難なので本指標達成率は0とする。 | のは関連会議における技術的インプットをおこなうことであり、いくつかのインプットは行った。ただ、この技術的インプットがかかるシステム構築にどの程度貢献したかを定量評価することは難しい。 |
| 指標 3-2 : COMIFAC 収束計画普及円卓会議がCOMIFAC 加盟国の少なくとも4カ国で開催される | 円卓会議の報告書 | 4/4=100% | 開催国は下記4か国： -コンゴ民主共和国 -ガボン -赤道ギニア -ルワンダ |
| 指標 3-3 : COMIFAC 国家調整室プラットフォームの運営能力がCOMIFAC 加盟国の少なくとも3カ国で強化される | CNC プラットフォーム報告書 | 2/3=67% | 開催国は以下の2か国： -コンゴ共和国 -ルワンダ |
| 成果3の達成度 | | (0+100+67)/3=56% | |
| 成果全体の達成度 | | (83+90+56)/3=76% | |

2-2 プロジェクト目標と指標

プロジェクト目標の各指標の達成度を以下に定性的に示すものとする。

| プロジェクト目標：COMIFACの組織能力強化を通じて収束計画の実施が促進される | | |
|---|---|---|
| 指標 | 指標達成度 | 備考 |
| 指標 1： COMIFAC 加盟国の少なくとも8ヶ国において森林資源モニタリングシステムが改善される | この指標は、本プロジェクト開始時にCOMIFAC加盟10ヶ国すべてが森林資源モニタリングシステムを装備していることが前提となっている。しかし、本プロジェクト開始時に森林資源モニタリングシステムを装備している国はなかった。 従って、この指標について直接的に達成度を評価することは難しい。 | 本プロジェクトの場合、能力強化研修で森林資源モニタリングに関する最新の知識・能力を習得した人材を育成することはできた。従って、加盟国の森林資源モニタリングシステムの開発や改善に資する基礎を作ることはできたと言える。 |
| 指標 2： ABS 国家戦略の推進に貢献する、ABSに関する課題に対する知識及び技術力強化戦略が、COMIFAC 加盟国において開発される | 本プロジェクトでは、以下の成果が得られた： - 域内の研究者が集うプラットフォーム（ネットワーク）が結成され、これにより、地域内の研究者同士の情報交換や経験共有が促進されることになった。 - 上記研究者一同が、参加型で、主体性を持って、ABS ラボラトリー管理ガイド作成を行い、加盟国が合意に基づいて COMIFAC 域内の独自のツールを作成・所有することとなった。 | これまでアフリカ中部地域のラボラトリー管理に特化した管理ガイドが作成されたことはなかった。 しかもそれが外部コンサルタントではなく、域内研究者自身により作成されたことの意義は極めて大きい。 |
| 指標 3： 越境保護区におけるパイロットプロジェクトの活動から得られたグッド・プラクティスや教訓がCOMIFAC 加盟国の越境保護区管理計画に反映される | 本プロジェクトでは、カメルーン、コンゴ共和国でのマイクロパイロットプロジェクトの成果を基礎に、越境保護地域の非木材林産物を活用した協働管理ガイドを作成した。 | 当該ガイドで示した協働管理の考え方を他の越境保護地域管理にも活かすことが望まれる。 |
| 指標 4： 少なくとも5種類のコミュ | プロジェクト活動の可視性の向上と、COMIFAC 域内におけるプロジェクト | -JCC 開催時には、必ずTV、新聞の取材があり、 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>ニケーション媒体が作成され、COMIFAC 加盟国の少なくとも8カ国で使用される</p> | <p>成果の共有を目指して以下の媒体を活用した：</p> <ul style="list-style-type: none"> - COMIFAC 事務局が毎年発行する『Rapport Annuel COMIFAC』 - COMIFAC 事務局が随時発行する『COMIFAC News』 - 円卓会議や閣僚会議で作成されたビデオ - プロジェクトが広報資料として作成したパンフレット『S'unir pour la gestion durable des forêts en Afrique centrale : Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC) et l'appui du Japon』 | <p>関連記事が放映、掲載された。</p> <p>-ビデオ映像の例として、ルワンダで開催支援を行った円卓会議記録『Round Table Workshop-New policies for the conservation and sustainable forest ecosystems management in Central Africa - revised COMIFAC Convergence Plan』、およびガボンの円卓会議支援時に作成したビデオ『Plan de convergence, Bilan et Défi - Gabon』がある。</p> |
|---|---|---|

通常、プロジェクト目標はプロジェクト終了時に達成されるべきものである。しかし、本プロジェクトの場合、その達成状況を分析すると、プロジェクト目標の指標が、指標 4 を除き、必ずしも完全に達成されていないことからプロジェクト目標がプロジェクト終了時に達成されたとは言い難い。しかし、本プロジェクトが期待される成果の達成を通じて、プロジェクト目標の部分的な達成に貢献したことを否定することもまたできない。

3. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 修正履歴

PDM はプロジェクト期間中、2018 年 1 月 27 日に 1 度だけ修正が行われた。PDM のバージョン 0 は 2014 年 12 月 18 日付け、バージョン 1 は 2018 年 1 月 27 日付けである。

主な変更点は、当初 2 期分けとしていたプロジェクト期間を融合し、プロジェクト開始から終了までを通期とした。また業務内容については ABS のクリアリング・ハウス・メカニズム推進支援を削除し、ABS に係る日本の民間セクターと

地域研究者とのコンタクト・フォーラム開催の追加した。クリアリング・ハウス・メカニズムは他のドナーが同様の活動を行っていることが明確になったため削除して重複を避けることとし、コンタクト・フォーラム開催の追加は ABS ラボラトリー管理研修の成果をより発展させる契機を生み出すため必要と判断したためである。

4. その他

4-1 環境・社会配慮

該当なし。

4-2 ジェンダー／平和構築／貧困削減における配慮

該当なし。

III. 合同事業評価の結果

1. 本プロジェクトの評価手順

本プロジェクトにおいては、JICA、COMIFAC 事務局、プロジェクトチームの3者で協議した結果、終了時に DAC 評価5項目に基づかない、事業の達成度の確認を目的とする簡易な『プロジェクト達成度確認』を合同で実施することとし、そのため、2020年2月にカメルーン人コンサルタントによる達成度確認予備調査を実施した。

その後、2020年3月半ば以降の新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大を受けて、カメルーン現地での日本人専門家と COMIFAC 事務局専門家の対面による合同達成度確認の実施が困難となった。そこで、簡易達成度確認は上記の予備調査報告書をベースに日本人専門家がこれに追記する形で達成度確認文書案を作成し、それに対する COMIFAC 事務局からのコメントを受け取って当該文書を最終化することとなった。その結果は上述の「2 プロジェクトの達成状況」で示した通りである。

しかし、本 Project Completion Report 作成につき JICA では、妥当性、有効性、インパクト、効率性、持続性の DAC 5項目に対応した評価を求めていることから、プロジェクトチームとしては日本人専門家が DAC 評価項目に従った評価原案を作成し、それに対して COMIFAC 事務局専門家のコメントを求める形をとることとした。

2. 評価結果（DAC 評価 5 項目に対応）

評価結果を以下に示す。

(1) 妥当性

| | |
|---|--|
| 評価の視点：開発政策や開発ニーズとの整合性 | |
| 本プロジェクトの対象機関は、10 の加盟国からなる中部アフリカの地域国際機関『中部アフリカ森林協議会（COMIFAC）』である。COMIFAC の使命は、中部アフリカ地域における森林生態系の保全と持続的な管理に関する政策やイニシアティブの調整・調和であり、その使命を全うする上での上位計画に『収束計画』がある。本プロジェクトは、下表に記す通り、同収束計画に示された複数の優先事項に対応している。 | |
| 収束計画に示された優先事項 | プロジェクトにおける実施事項 |
| 収束計画の普及 | 加盟 4 か国における、円卓会議の開催支援。 |
| COMIFAC 域内におけるモニタリング評価システムの運用化 | 加盟 2 か国での CNC プラットフォーム開催支援。 |
| サブリージョンレベルでの協議と、関係者の能力強化 | 気候変動対策作業グループ（GTCCC）および生物多様性保全作業グループ（GTBAC）の、様々な会議の開催支援。 |
| 諸プログラム・プロジェクトの実施調整 | 森林インベントリー、森林モニタリングおよび ABS 研究ラボマネジメントに関する研修と、越境保護区協働管理パイロットプロジェクトの実施。 |
| 国際会議や地域レベルの会合への参加 | UNFCCC COP、CBD COP など、様々な国際会議への参加支援 |
| 定款に基づく会議の開催 | 第 10 回 COMIFAC 加盟国閣僚会議の開催支援（2019 年 7 月） |
| 妥当性のレベル： | プロジェクトにおける上記の活動はどれも、収束計画の優先事項に沿った活動であり、またそれらの実現に大きく貢献するものであった。よって、本プロジェクトの妥当性は比較的高い。 |

(2) 有効性

| |
|--|
| 評価の視点 1： 産出された成果がプロジェクト目標の達成につながったか |
|--|

| | |
|---|---|
| <p>本プロジェクトでは能力強化を図る活動が実施され、その結果が特に 3 種類のガイドとして産出された。一方、プロジェクト目標は加盟国における政策レベルへの反映の有無がその指標となっている。しかし、係るガイドが作成されたとしてもそれがすぐに加盟国の政策レベルへ反映されるには時間的距離がある。</p> <p>従って、産出された成果がプロジェクト目標の達成につながったとは必ずしも言えない。ただ、プロジェクト目標達成の基礎はできた。</p> | |
| <p>評価の視点 2 :</p> <p>プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成されたか</p> | |
| <p>上述のとおり、成果産出とプロジェクト目標達成の間に時間的距離があるため、プロジェクト目標がプロジェクト終了までに達成されなかった。</p> | |
| <p>有効性のレベル</p> | <p>上述のとおり、活動の結果が効果発現につながっているものの、プロジェクト目標の達成が不十分であったこと、ならびにプロジェクト目標がプロジェクト期間中に達成できなかったということから、有効性は低いと言える。ただし、これは PDM のロジックに飛躍があり、プロジェクト目標の設定が現実的ではなかったことに起因する。</p> |

(3) 効率性

| | |
|---|--|
| <p>評価の視点 1 :</p> <p>事業費：日本側のプロジェクト費は計画以内であったか。</p> | |
| <p>計画（年次作業計画提示予算額）：980,859,100 XAF (¥187,859,100)</p> <p>実績：965,858,000 XAF (¥184,788,000)</p> <p>(2020年9月 JICA 為替レート：1XAF=0.19132)</p> | |
| <p>評価の視点 2 :</p> <p>プロジェクト期間は変更されなかったか。</p> | |
| <p>当初予定のプロジェクト期間は最初の日本人専門家の現地到着日（2015年8月12日）から起算して5年間であった。</p> <p>しかし、プロジェクトが当初の終了を迎える時期（2020年3月～8月）に、新型コロナウイルスの影響により、日本人専門家は日本国外への派遣中断、カメルーン人スタッフは外出制限により在宅勤務を余儀なくされるなど現地活動の継続が難しくなった。その結果、案件の評価、総括セミナーおよび最終 JCC 開催などの残された業務を遠隔で実施することとなり、プロジェクト期間を2020年10月31日まで延期した（R/D 変更日は2020年8月6日）。</p> | |
| <p>評価の視点 3 :</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>因果関係：成果を産出するために必要な活動、適時・適切な量・質の投入であったか</p> <p>本プロジェクトの主な成果品は、以下の3点である。</p> <p>1) 中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド</p> <p>2) COMIFAC 諸国における遺伝資源研究所の管理に係るグッド・プラクティス ガイド</p> <p>3) 非木材林産物の活用を通じた越境保護地域の協働管理ガイド</p> <p>上記1) および2)のガイドについては、その作成に先立ち、係る分野における COMIFAC 加盟国の現況を調査し、その結果に基づいて研修内容を定め、研修を実施した。</p> <p>ガイド1)は3回の森林モニタリング研修(リモートセンシング技術活用編、森林インベントリー編、UNFCCC への報告編)の成果である。上記2)のガイドは、ルワンダにおける2度の研修実施と、カメルーンのドウアラにおける、日本の民間企業と地域の研究者らが一堂に会するコンタクト・フォーラムの開催を経て作成したものである。</p> <p>また、3)に関しては TRIDOM のカメルーン側とコンゴ共和国側でマイクロパイロットプロジェクトを実施して作成した。</p> <p>かかるステップは適切な成果を生み出すために不可欠であり、現況調査の報告書承認まで約1年、また異なる研修を異なる加盟国で実施したため、準備に毎回3～4か月をかける必要があった。</p> | |
| <p>効率性のレベル</p> | <p>プロジェクトの適切な時期および量・質でのインプットにより、期待に則した成果品が生み出されており、効率性は比較的高い。</p> |

(4) インパクト

| |
|---|
| <p>評価の視点1： 上位目標達成の見込み</p> |
| <p>通常、上位目標はプロジェクト終了後3年～5年で達成すべきものである。本プロジェクトにおける上位目標は、「COMIFAC 加盟国において森林生態系の保全及び持続的管理が促進される」である。</p> <p>詳細な分析を第4章にて行うが、簡単に言えば、加盟国の CNC が本プロジェクトで作成したガイドの普及計画を策定し、普及を促進することができれば上位目標達成の可能性はある。</p> |
| <p>評価の視点2： 上位目標とプロジェクト目標の因果関係</p> |
| <p>プロジェクト目標は、「COMIFAC の組織能力強化を通じて収束計画の実施が促進される」である。プロジェクト目標はプロジェクト終了時に達成されるべきとされている。しかし、プロジェクト目標の達成指標を注意深く見ていくと、これらはむしろ、上位目標に紐づく指標であるように思える。</p> |
| <p>評価の視点2： 波及効果</p> |
| <p>4つあるプロジェクト目標達成指標のうち、現時点で完全には達成されているのは指標4だけで、その他は達成されていない。だが既に、達成するための基礎は固まっている。COMIFAC が本プロジェクトの成果品である諸々のガイドを活用すればプロジェクト目標</p> |

| | |
|--|----------------------|
| <p>は達成できると見込まれる。 特記すべきは、ABS ラボマネジメント研修に参加した研究者たちがとった、自発的な行動である。彼らは自らの意思で、地域の研究者間プラットフォーム（ネットワーク）を立ち上げた。案件終了後も、JICA はこのプラットフォームを活用し、同地域の研究者たちにとって有益な遺伝資源の利用に関する本邦研修を開催することができよう。</p> | |
| インパクトのレベル | 波及効果を考慮するとインパクトは中程度。 |

(5) 持続性

| | |
|--|------------------------|
| <p>評価の視点 1： 政治的・制度的観点から見た今後の展望</p> | |
| <p>COMIFAC は、関係各国の元首の意志の表れである 1999 年の『ヤウンデ宣言』に基づいて設立された組織である。COMIFAC 収束計画は、同組織がその運営にあたって進むべき方向性を定めた上位計画である。実際、COMIFAC のとるべき方策は非常に明確に定義されている。あとは、収束計画を実行に移すのみである。従って、加盟国分担金支払いにかかる加盟各国の一層の努力が求められる。</p> | |
| 評価の視点 1 からみた持続性 | 中程度 |
| <p>評価の視点 2： 組織体制の観点から見た今後の展望</p> | |
| <p>収束計画の実施体制はよく設計されたものである。ただ、この体制を実際に機能させるためには、何よりもまず、加盟各国による十分かつ安定した資金の拠出が必要である。一方で、行うべき仕事の量に対して、専門家やロジ担当スタッフ、事務職員の数が少ないため、今後機能をより充実するためには、業務の効率化や職員の増員などの対応が望まれる。</p> | |
| 評価の視点 2 から見た持続性 | 不安定な財政状況と人員不足を鑑みると、中程度 |
| <p>評価の視点 3： 技術的観点から見た COMIFAC 事務局の今後の展望</p> | |
| <p>現在 COMIFAC 事務局で仕事をしている専門家たちは、それぞれの担当分野において、高いレベルの技術的能力を有している。従って、引き続き彼らが業務を継続できるなら、COMIFAC 事務局の技術レベルは維持されるはずである。但し、技術の継承を確実にするためには、各分野での専門家の増員が望まれる。</p> | |
| 評価の視点 3 から見た持続性 | 中程度 |
| <p>評価の視点 4： 財政的観点から見た今後の展望</p> | |

| | |
|--|---|
| COMIFAC の重要かつクリティカルなファクターはその財政的安定性である。COMIFAC の財源は加盟国からの拠出金であるが、支払いを履行しない国が複数あることから、組織の財政基盤は非常に不安定なものとなっている。COMIFAC 事務局はこの状況の深刻さを認識し、解決策を模索し続けているが、問題の解決には至っていない。COMIFAC としては、少なくとも、事務局役員と事務局職員および専門家に係る費用は負担すべきところであるが、今の財政状況ではそれもままならない。そのためこれまで、技術・財政支援パートナー機関は、プロジェクトやプログラムの実施という形での支援だけでなく、例えば閣僚会議のように COMIFAC の定款で定められた会議の開催費用の負担まで行ってきた。COMIFAC が今後もパートナー機関への財政面での過剰な依存を続けるのであれば、パートナー機関にとっては今後の支援の継続が非常に難しくなることが予想される。 | |
| 評価の視点 4 から見た持続性 | 低い |
| 全体的に見た持続性のレベル | 持続性の最も重要な判断基準は財政的安定性である。他の側面の持続性もすべてこの安定性にかかっている。従って、プロジェクトで導入した活動の持続性は、COMIFAC の財政基盤の改善がなければ低いと言わざるを得ない。 |

3. プロジェクトの実施を阻害する主な要因

プロジェクト期間を通じて確認された主な阻害要因は、以下の3点である。

- 1) プロジェクトチームと COMIFAC 事務局との頻繁なコミュニケーションの難しさ：

本案件は JICA の技術協力プロジェクトであり、日本人専門家が COMIFAC 事務局の本拠地であるヤウンデに常時滞在しているわけではない。一方、COMIFAC 事務局の専門家たちは出張で不在ことが多い。よって、直接向き合って話し合う機会を持つことが難しかった。コミュニケーション手段として E メールを使ったが、適時に十分な情報交換を行うことは容易ではなく、特にプロジェクトの開始当初は、お互いの仕事の進め方を理解し合うことも困難であった。

E メールでのやり取りを重ねた後により物事が決定するため、活動の実施を先延ばしせざるを得ないことも度々あった。

ただ、日本人専門家は接触の機会がある場合には極力、日本の協力の考え方を説明するよう努めた。その結果、案件の進行につれ、日本人専門家と COMIFAC 事務局職員ならびに加盟国の各作業グループフォーカルポイントとの間で相互理解を深めることができた。
- 2) 実施予定日直前のワークスケジュール変更

通常、COMIFAC の活動については、年間作業計画という形でスケジュールが組まれている。年間作業計画の策定にあたっては、作業計画ワークショップを開催し、COMIFAC 事務局と技術・財政支援パートナー機関の代表が集って協議を行う。同ワークショップに向け、JICA プロジェクトを含む各プロジェクト・プログラムは、それぞれの年間作業計画を準備する。

問題は、地域レベルで開かれる諸々の会議の日時が、開催予定日の直前になって変更になることであり、しかもそうした事態がかなり頻繁に起こる。こうした予期せぬ変更から多くの障害が発生する。特にロジ業務においては、航空券の手配などがひととき困難を極め、キャンセル料の支出などを余儀なくされた。

さらに、作業計画に予定されていなかった活動が突然追加となり、費用負担の支援を求められることもある。こうした仕事の進め方でかかる要望を出されても、プロジェクトとしてそれに応えることは非常に難しい。こうしたことはすべて、プロジェクト活動の円滑な実施を阻害する要因になり得るものである。

- 3) COMIFAC が開催する会合開催へ本プロジェクトから支援を得るには日本人専門家の参加が実質的に必要条件であったこと（COMIFAC 専門家からの指摘）

本プロジェクトは財政支援ではなく技術支援プロジェクトではあるが、COMIFAC の使命が地域の課題解決のために加盟国の関係者を集めて会合を開いて意見調整することなので、COMIFAC の会合開催については GIZ など関係ドナーと費用を分担して支援することが多かった。こうした会合開催支援を行う場合、できる限り日本人専門家の日程に合わせるよう COMIFAC 事務局に要請したこともあった。これが COMIFAC 専門家の視点で見ると、上記のような指摘につながったと思われる。これがプロジェクトの進展を大きく阻害したとはいえないが、COMIFAC 側の日程調整を難しくした側面はあると思われる。

4. プロジェクトのリスク管理に係る評価

本プロジェクトの最大のリスクは、繰り返し指摘しているように COMIFAC の財務状況の脆弱さである。COMIFAC の創設以来、代々の事務局役員が多くの努力を費やしてきたにもかかわらず、この問題はいまだに解決していない。

JICA の技術協力案件において優先すべきは財政支援ではなく技術支援であり、プロジェクトとして COMIFAC の不安定な財務状況の改善に大きく貢献することはできない。そ

れでも、本プロジェクトは、COMIFAC 事務局の専門家たちの活動を阻害し得るこのリスクを軽減するために、いくつかの策を講じた。例えば、COMIFAC 事務局の専門家のプロジェクト成果達成に関連した出張にかかる費用を、本人による報告書作成を条件に負担したのはその一例である。

5. 教訓

本プロジェクトが直面した主な問題の分析を基に、そこから得られた教訓を以下にまとめる。

本プロジェクトは、JICA のリージョナル・アプローチという枠組みの中で実施されている。つまり、JICA は複数の加盟国により構成されたサブリージョンレベルの国際機関を介して複数国への協力を行う、ということである。

本プロジェクトの対象機関は、中部アフリカ森林協議会（COMIFAC）である。よって、裨益国は1ヶ国のみでなく、COMIFAC に加盟する複数の国々ということになる。活動の実施にあたっては、ひとつの国だけでなく、すべての加盟国との間での調整が必要となる。当然、相応の時間をかけて調整を進めていかねばならない。プロジェクト開始当初、1ヶ国のみを対象とした技術部門を相手とする調整に慣れていた日本側のチームは、COMIFAC の事務局がその活動、例えば諸々の会議の開催を準備するために、なぜこんなにも多くの時間がかかるのか、よく理解できなかった。

確かに、COMIFAC 事務局には、加盟各国とのコミュニケーション不足など改善すべき課題はある。しかし、プロジェクト側でも、こうした機関を相手方とする場合には、意欲の度合が異なる様々な国との間で調整を図ることの難しさを理解し、想定される以上の時間を要することを見通した上で活動計画を策定する必要があると思われる。

例えば、GTCCC の会合を開く場合、まずは開催国を決めることから始まり、会議のアジェンダ準備など事務局と加盟国の GTCCC フォーカルポイントとの日程調整の E メール交換などを考えると準備期間に少なくとも3ヶ月~6ヶ月を要し、場合によってはそれ以上のこともあり得る。また、決定した日程についても各加盟国の諸事情から急遽変更になることがあった。

不安定な財務状況については、当然、COMIFAC 自身が解決策を見出さねばならない。この種の問題に関して、技術・資金パートナーは主役を務めることはできない。それら技

術・資金パートナーが COMIFAC のような組織を支援する際には、後に問題が生じないように、プロジェクトまたはプログラムを形成する段階で、支援を行う側と受ける側のそれぞれが技術面、財政面において担う役割を明確に定めておくべきである。技術協力プロジェクトであっても、技術パートナーは活動を実施するために必要な経費を負担する必要がある。

その際、例えば COMIFAC のような組織の場合、事務職員・技術職員の人件費を含む事務局の運営費については自己負担とし、技術・資金パートナーは活動の実施に係る費用のみを負担する、というかたちが理想的である。そうした費用分担により、COMIFAC のような組織と技術・資金パートナーの協力関係を維持していくことが可能となる。

最後に COMIFAC 事務局から寄せられた教訓に係るコメントを紹介する。これは現地コンサルタントの備上の必要性に係るものである。COMIFAC 事務局としては活動実施にあたって中部アフリカの地域事情に詳しい専門家の備上を勧めている。そのようにすれば、プロジェクト終了後にも係る専門知見が残ることになる。この指摘は適切である。というのも、カウンターパート機関とプロジェクト間の密接なコミュニケーションを基礎とするプロジェクト管理では地域事情に精通した現地専門家の存在は今後ますます不可欠だからである。

IV. プロジェクト終了後の上位目標達成に向けて

1. 上位目標達成の見込み

上位目標達成の見込みについて、以下、目標達成指標に沿って分析を行う。

指標 1 : COMIFAC 加盟 8 ヶ国において森林資源のインベントリーに係るデータベースが整備される

指標 2 : COMIFAC 加盟 10 ヶ国において森林被覆のモニタリング国家システムが整備され運用される

これに関連するプロジェクト目標の指標は、「COMIFAC 加盟国の少なくとも 8 ヶ国において森林資源モニタリングシステムが改善される」である。

国家森林モニタリングシステムを整備するためには、技術面においても資金面において

も膨大な投資が必要となる、である。そして、その種の投資は、COMIFAC の任務に含まれてはいない。COMIFAC の使命は、加盟各国に対し、そうしたシステムの整備を奨励することである。本プロジェクトにおいて、加盟各国の技術者を対象に実施した研修により、COMIFAC はその使命を果たすことができている。研修に参加した 8 ヶ国以上の技術者の能力強化を通じ、システム開発の基礎構築に大きく貢献した。COMIFAC 加盟各国が、本プロジェクトの成果品である『中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド』をしっかりと活用して自国に適した森林モニタリングシステム整備のプロジェクトなりプログラムを策定し、実施のための支援パートナーを見つけることができれば、上位目標を達成することはできよう。

指標 3 : 2025 年までにサブ地域行動計画及び保護区管理・開発国家戦略の 50%以上の成果が達成される

本プロジェクトでは、越境保護地域にてパイロットプロジェクトを実施し、その成果として、グッドプラクティスをまとめた『非木材林産物の活用を通じた越境保護地域の協働管理ガイド』を作成した。同ガイドを参照することで、非木材林産物の活用を通じた協働管理という方針を、実践に移すことが可能となる。

2. 上位計画実現に向けた COMIFAC のオペレーションプランおよび実施体制

上位目標達成の鍵は、『中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド』、『COMIFAC 諸国における遺伝資源研究所の管理に係るグッド・プラクティス・ガイド』、『非木材林産物の活用を通じた越境保護地域の協働管理ガイド』という本プロジェクトで作成したガイドの活用をいかにして図るかということにある。

そこで、以下にそのための COMIFAC 事務局および加盟国のナショナルコーディネータ (CNC) がとるべきアクションを示す。

- COMIFAC 事務局は、上記 3 種類のガイドを COMIFAC の Web サイトに掲示する
- COMIFAC 事務局は、係るガイド普及計画策定活動を 2021 年および 2022 年の COMIFAC 年次活動計画に組み込む。
- COMIFAC 専門家が関係の作業グループ会合時に各 CNC に対して、ガイド普及計画

を策定することを強く要請する。

- 各 CNC はガイド普及ワークショップ開催を計画し、同時に支援を依頼する技術・資金パートナーを探す。
- 特に COMIFAC 域内遺伝資源ラボマネジメント・グッドプラクティスガイドに関しては、COMIFAC と地域研究者プラットフォームとの日本を含む先進国の公立および民間の研究機関との共同研究推進に関する作業が必要となる。JICA では 2021 年度以降に遺伝資源の活用をテーマとした課題別研修を計画している。研修生の選定にあたっては、各国の研修担当窓口だけでなく、COMIFAC 事務局の生物多様性専門家を介して、加盟国の ABS フォーカルポイントや地域研究者プラットフォームのメンバーにも連絡し、当該研究者プラットフォーム参加者から選定することが望ましい。

3. プロジェクト終了時から事後評価実施時までのモニタリング計画

COMIFAC 事務局の拠点はカメルーンのヤウンデにあるため、同事務局による上記のアクション実施のモニタリングは主として JICA カメルーン事務所が行う。

具体的には以下の形でのモニタリングを行う。

- COMIFAC の Web サイトに 3 種類のガイドが掲載されていることを確認する
- COMIFAC 担当専門家と連絡を取り、CNC への働きかけをいつ行ったか、その際の CNC 側の反応について確認し、ガイド普及計画作成状況を確認する。

別添 1 プロジェクト結果

- 専門家リスト
- カウンターパートリスト
- 研修および会合リスト

専門家リスト

| | |
|--------|----------------|
| 水品 修 | 総括／気候変動対策(1) |
| 松本 淳一郎 | 副総括／気候変動対策 (2) |
| 笹川 裕史 | 副総括／森林モニタリング |
| 二村 聡 | 生物多様性保全(1) |
| 沼田 蕙一 | 生物多様性保全(2) |
| 柴原聖至 | 生物多様性保全(2)-2 |
| 佐藤 向陽 | 業務調整／生計向上(1) |
| 平井將公 | 業務調整／生計向上(2) |
| 堀 麻耶 | 業務調整／気候変動対策(3) |
| 小山 朋宏 | 通訳 |
| 大島 美保 | 通訳(2) |
| 芹澤 紀青 | 通訳(3) |
| 鈴木 源太郎 | 通訳(4) |

カウンターパートリスト (COMIFAC 事務局構成メンバー)

事務局長、事務局次長、総務・財務局長の3名が役員で、公募で選出される。

| No. | 氏名 | 役職 |
|-----|-----------------------------------|--------------|
| 1. | Raymond NDOMBA NGOYE | 事務局長 |
| 2. | Gervais Ludovic ITSOUA MADZOUS | 事務局次長 |
| 3. | EKANE Cosmas NZUOBONTANE | 総務・財務局長 |
| 4. | NCHOUTPOUEN CHOUAIBOU | 生物多様性専門家 |
| 5. | Tite Valerie TCHUANTE | モニタリング・評価専門家 |
| 6. | Michel NDJATSANA | 環境・気候変動専門家 |
| 7. | NGO YEBEL Louise epe FOUNGA | 広報 |
| 8. | Jean Claude KENFACK | 会計 |
| 9. | Elizabeth AYUK KOUAM | 総務補佐 |
| 10. | DJONKOU Celine NANA | 秘書 |

研修および会合リスト

| No | 活動名 | 日付 | 開催場所 | 参加者数 |
|----|---|---------------------|---------------------------|------|
| 1 | プロジェクト概要説明 セミナー | 2015/9/3 | Yaoundé, Cameroun | - |
| 2 | 世界林業会議 | 2015/9/7-11 | Durban, Afrique du Sud | - |
| 3 | 気候変動ワーキング・ グループ会議(GTCCC) | 2015/9/16-18 | Douala, Cameroun | - |
| 4 | GTBAC | 2015/11/14-15 | | - |
| 5 | COMIFAC 閣僚会合 | 2015/11/28-30 | Kigali, Rwanda | - |
| 6 | 第1回合同調整会議 (JCC) | 2016/1/25 | Douala, Cameroun | - |
| 7 | キックオフワークショ ップ | 2016/1/26 | Douala, Cameroun | 46 |
| 8 | GTGF 関連会議「国際 森林フォーラムに係る 準備会合」第12回 FNUF | 2016/4/11-12 | Douala, Cameroun | 32 |
| 9 | 気候変動ワーキンググ ループ | 2016/5/2-4 | Douala, Cameroun | 44 |
| 10 | COMIFAC 収束計画2 普及セミナー | 2016/5/7 | Yaoundé, Cameroun | - |
| 11 | COMIFAC 各国調整官 (CNC)の能力強化セ ミナー | 2016/5/30-6/3 | Douala, Cameroun | 52 |
| 12 | 気候資金に係る能力強 化セミナー | 2016/9/26-27 | Douala, Cameroun | 40 |
| 13 | 各国調整官能力強化セ ミナー | 2016/10/31- 11/2 | Douala, Cameroun | 53 |
| 14 | 収束計画2の指標基礎 データ検討に係る会議 | 2016/11/3-5 | Douala, Cameroun | 51 |

| | | | | |
|----|--|---------------|--|-----|
| 15 | 第 24 回 GTBAC 24em Reunion du GTBAC | 2016/11/14-17 | Brazzaville, République du Congo | 40 |
| 16 | COMIFAC 閣僚級会合 | 2016/11/27-29 | Kigali, Rwanda | 53 |
| 17 | COP12 | 2016/12/4-17 | Cancún, Mexique | 50 |
| 18 | TRIDOM 管理状況報 告書の承認会議 | 2017/1/25 | Douala, Cameroun | 23 |
| 19 | 第 2 回合同調整会議 (JCC) | 2017/1/26 | Douala, Cameroun | 18 |
| 20 | GTCCC 会合 | 2017/3/9-11 | Kigali, Rwanda | 36 |
| 21 | 国連森林フォーラムに かかわる準備会合 | 2017/4/10-11 | Douala, Cameroun | 50 |
| 22 | 第 25 回中部アフリカ 生物多様性作業グルー プ会合 | 2017/4/24-26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 23 | 第 6 回 SGTAPFS 「保護区と野生動物に 係るサブグループ会 合」 (GTBAC 内サブグループ による会議) | 2017/4/27-29 | Douala, Cameroun | 20 |
| 24 | COMIFAC 収束計画 2 普及のための円卓会議 | 2017/6/17 | Bata, Guinée équatoriale | 120 |
| 25 | GTCCC ワークショッ プ | 2017/6/22-24 | Malabo, Guinée équatoriale | 50 |
| 26 | コンゴ盆地諸国におけ る FREL、MRV システ ムおよびセーフガード 実施現状に係る地域ワ ークショップ | 2017/7/17-21 | Libreville, Gabon | 80 |
| 27 | GTCCC 会合 | 2017/8/28-30 | Brazzaville, République du Congo | 60 |

| | | | | |
|----|-------------------------------------|---------------|---|-----|
| 28 | TRIDOM パイロットプロジェクトのキックオフ会合 | 2017/8/30 | Gribé, Cameroun | 150 |
| 29 | ABS ラボラトリーワーク研修 | 2017/9/18-23 | Kigali, Rwanda | 21 |
| 30 | COMIFAC 収束計画 2 普及のための円卓会議 | 2017/9/29 | Kinshasa, Democratic Republic of the Congo | 120 |
| 31 | コンゴ盆地森林パートナーシップ会合 | 2017/10/24-27 | Douala, Cameroun | |
| 32 | JICA 森林ガバナンスイニシアチブ国際セミナー | 2017/10/24-25 | Tokyo, Japan | |
| 33 | 第 23 回気候変動枠組条約締約国会議 | 2017/11/6-17 | Bonne, Allemagne | |
| 34 | TRIDOM 対話集会 | 2017/11/28-29 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 35 | 森林モニタリング研修 | 2017/12/4-8 | Mbalmayo, Cameroun | 15 |
| 36 | GTBAC サブグループ会合 | 2017/12/4-8 | Libreville, Gabon | 29 |
| 37 | パイロットプロジェクト、定期市開催回と NTFP 販売促進に関する集会 | 2017/12/30 | Gribé, Cameroun | 160 |
| 38 | 第 26 回 GTBAC 会議 | 2018/1/15-18 | Douala, Cameroun | - |
| 39 | 2017 年成果報告ワークショップ | 2018/1/26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 40 | 第 3 回合同調整会議 (JCC) | 2018/1/27 | Douala, Cameroun | 30 |
| 41 | COMIFAC2018 年年間作業計画策定 WS | 2018/1/29-30 | Kribi, Cameroun | - |

| | | | | |
|----|----------------------------|---------------|----------------------------------|-----|
| 42 | 第 2 回大規模対話集会 | 2018/2/8 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 43 | 第 2 回大規模対話集会 | 2018/2/9 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 44 | COP23 結果分析に係る中部アフリカワークショップ | 2018/2/13-14 | Brazzaville, République du Congo | 50 |
| 45 | COMIFAC 臨時閣僚会議 | 2018/3/13-15 | Brazzaville, République du Congo | 122 |
| 46 | 第 3 回大規模対話集会 | 2018/3/15 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 47 | 臨時 JCC | 2018/5/23 | Douala, Cameroun | 13 |
| 48 | TRIDOM における森林管理に関する参考書検討会議 | 2018/5/24 | Douala, Cameroun | 5 |
| 49 | 収束計画普及円卓会議 | 2018/5/29 | Kigari, Rwanda | 100 |
| 50 | 第 2 回森林モニタリング研修 | 2018/6/4-8 | Libreville, Gabon | 21 |
| 51 | 第 27 回 GTBAC | 2018/6/13-16 | Douala, Cameroun | 42 |
| 52 | 第 2 回ラボワーク研修 | 2018/7/30-8/3 | Huye, Rwanda | 37 |
| 53 | 第 28 回 GTBAC | 2018/10/15-19 | Bata, Guinée équatoriale | 79 |
| 54 | GTCCC | 2018/10/16-18 | Kribi, Cameroun | 30 |
| 55 | CBD COP14 | 2018/11/13-29 | Sharm El Sheikh | 4 |
| 56 | 円卓会議 | 2018/11/22 | Libreville, Gabon | 100 |
| 57 | 第 24 回気候変動枠組条約締約国会議 | 2018/12/3-14 | Katowice, Poland | - |
| 58 | 2018 年成果報告ワークショップ | 2019/1/31 | Douala, Cameroun | 32 |
| 59 | 第 4 回合同調整会議 (JCC) | 2019/2/1 | Douala, Cameroun | 22 |
| 60 | 2019 年年間活動策定会議 | 2019/2/27-3/1 | Nlokandom, Cameroun | - |

| | | | | |
|----|---|----------------|--|----|
| 61 | 第3回森林モニタリング研修 | 2019/3/4-8 | Brazzaville, République du Congo | 20 |
| 62 | 気候変動作業グループ 会合 | 2019/3/5-7 | Malabo - Guinée Equatoriale | 40 |
| 63 | 越境保護地域協働管理 に係るパイロットプロ ジェクトキックオフミ ーティング | 2019/4/25 | Sembé, Cameroun | - |
| 64 | 円卓会議 | 2019/6/7-8 | Brazzaville, République du Congo | 27 |
| 65 | SBSTA50 | 2019/6/17-27 | Bonn, Allemagne | 2 |
| 66 | 第10回 COMIFAC 閣 僚会議 | 2019/7/9-11 | Yaoundé, Cameroun | 82 |
| 67 | REDD+研修 | 2019/8/13-16 | Abidjan, Côte d'Ivoire | 1 |
| 68 | ABS 民間コンタクトフ ォーラム | 2019/9/30-10/1 | Douala, Cameroun | 54 |
| 69 | 気候変動作業グループ 会合 | 2019/10/28-29 | Douala, Cameroun | 31 |
| 70 | 第25回気候変動枠組 条約締約国会議 | 2019/12/2-13 | Madrid, Espagne | 2 |
| 71 | ABS ラボラトリーマニ ュアル承認会議 | 2020/2/12-14 | Kigali, Rwanda | 25 |
| 72 | CNC 円卓会議 | 2020/2/17-18 | Kigali, Rwanda | 19 |
| 73 | 森林モニタリングガイ ド承認会議 | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 19 |
| 74 | 越境保護区管理ガイド 検討会議 | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 11 |

別添 2 成果品リスト

各種マニュアル等

成果品リスト

成果 1 に係る成果品 (GTCCC)

| No. | Title |
|-----|---------------------------|
| 1. | 森林モニタリングに係る現況調査報告書 |
| 2. | 森林資源モニタリング強化のためのプログラム及び教材 |
| 3. | 中部アフリカ森林インベントリー・モニタリングガイド |

成果 2 に係る成果品 (ABS,TRIDOM)

| No. | Title |
|-----|---|
| 1. | ABS に係る現況調査 (Laboratory Work) 報告書 |
| 2. | TRIDOM に係る現況調査報告書 |
| 3. | COMIFAC 諸国における遺伝資源研究所の管理に係るグッド・プラクティス・ガイド |
| 4. | 非木材林産物の活用を通じた越境保護地域の協働管理ガイド |

別添 3: PDM

- PDM version 0 (Date: December 18, 2014)
- PDM version 1(Date: January 27, 2018)

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries
 Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission) Version: 0
 Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations
 Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries
 Project Site: COMIFAC member countries
 Project Period: 5 years

Dated: 18 December 2014

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|---|---|--|--|-------------|---------|
| <p>Overall Goal Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project. 1. Database on forest resource inventory is available in 7 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025).</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose Implementation of the Convergence Plan is promoted through capacity enhancement of COMIFAC</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project. 1. Forest resource monitoring system is improved in all COMIFAC member countries (concrete target for each COMIFAC member countries will be decided). 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. Communication supports become operational in XXX</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member countries 3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries | 1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed. | | |

PM Form 4 Project Completion Report

| | | | | |
|--|---|--|---|--|
| <p>Outputs</p> <p>1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced</p> | <p>COMIFAC member countries.</p> <p>1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared.</p> <p>1-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed.</p> <p>1-3 More than XXX persons have strengthened their knowledge and skills on forest resource monitoring.</p> <p>1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCCC-COP at least XXX times.</p> | <p>1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries</p> <p>1-2 Training plans and training materials</p> <p>1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants</p> <p>1-4 Progress report of the project</p> | <p>1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly.</p> <p>2) Political situation and public security are not changed significantly.</p> | |
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared.</p> <p>2-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed.</p> <p>2-3 More than XXX persons have strengthened their technical knowledge and skills related to specific issues on ABS.</p> <p>2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project.</p> <p>2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBBD-COP at least XXX times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues</p> <p>2-2 Training plans and training materials</p> <p>2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants</p> <p>2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops</p> <p>2-5 Progress report of the project</p> | | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinations is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning.</p> <p>3-2 Platforms of actors on the COMIFAC National Coordination are created and functioning well.</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country</p> <p>3-2 Reports on Platforms</p> | | |

PM Form 4 Project Completion Report

| | Activities | The Japanese Side | meetings and COMIFAC National Coordination meetings. |
|---|--|---|---|
| <p>Activities</p> <p>1-1 Enhance negotiation capacities of COMIFAC on the issues related to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC).</p> <p>1-1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change.</p> <p>1-2 Provide technical support to GTFG meetings and other relevant meetings.</p> <p>1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries.</p> <p>1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory.</p> <p>1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion.</p> <p>1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest inventory.</p> <p>2-1 Enhance implementation of GTBAC activities</p> <p>2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the implementation of the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the</p> | <p>Inputs</p> <p><u>The COMIFAC Side</u></p> <p>1. Assignment of counterpart personnel 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators</p> <p>2. Provision of office space for JICA Experts</p> <p>3. Local operational expenses 1) Running expenses</p> | <p><u>The Japanese Side</u></p> <p>1. Dispatch of JICA Experts 1) Climate Change/ Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed</p> <p>2. Trainings in specific fields in Japan, and/or third countries, /and/or COMIFAC member countries</p> <p>3. Provision of machinery and equipment</p> <p>4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate</p> <p>5. Local operational expenses (Expenses for holding meetings, workshops,</p> | <p>Pre-condition</p> <p><Issues and countermeasures></p> |

| | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|
| <p>COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through utilization of existing training framework in the subregion, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps (e.g. Collection of materials in the field, preparatory actions for bioprospecting, data handling).</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities, monitoring of land use change in the pilot area using satellite images and biodiversity monitoring).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-4 Share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries, through utilization of existing framework in the subregion.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | <p>trainings, and pilot project etc.)</p> | | | | |
|---|---|--|--|--|--|

Notes: There are objectively verifiable indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries Version: 1

Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission)

Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations

Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries

Project Site: COMIFAC member countries

Project Period: 5 years

Dated: 27 January 2018

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|--|--|---|---|-------------|---------|
| <p>Overall Goal Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project. 1. Database on forest resource inventory is available in 8 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025).</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose Implementation of the Convergence Plan is</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project. 1. Forest resource monitoring system is improved in at least eight COMIFAC member countries. 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member | <p>1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed.</p> | | |

PM Form 4 Project Completion Report

| | | | | |
|--|---|---|---|--|
| <p>promoted institutional enhancement of COMIFAC through capacity of</p> | <p>related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. At least 5 communication supports are produced and well used in at least 8 COMIFAC countries.</p> | <p>3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries</p> | | |
| <p>Outputs 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced</p> | <p>1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared. 1-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed. 1-3 More than eighty percent of participants for forest monitoring training have recognized their knowledge and skills strengthened. 1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCCC-COP at least three times.</p> | <p>1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries 1-2 Training plans and training materials 1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 1-4 Progress report of the project</p> | <p>1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly. 2) Political situation and public security are not changed significantly.</p> | <p>1-1 Report prepared and validated. 1-2 Two types developed. 1-3 Achieved for 1st and 2nd course. 1-4 One time achieved with World Forest Congress.</p> |

PM Form 4 Project Completion Report

| | | | | |
|--|---|--|--|---|
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared.</p> <p>2-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed.</p> <p>2-3 More than eighty percent of participants for ABS Laboratory Work training have recognized their knowledge and skills strengthened.</p> <p>2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project.</p> <p>2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBD-COP at least two times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues</p> <p>2-2 Training plans and training materials</p> <p>2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants</p> <p>2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops</p> <p>2-5 Progress report of the project</p> | <p>2-1 Report prepared and validated.</p> <p>2-2 Two types developed.</p> <p>2-3 Achieved for 1st and 2nd course.</p> <p>2-4 Report drafting is in progress.</p> <p>2-5 One time achieved with COPI3 Cancun.</p> | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinators is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning.</p> <p>3-2 Round Table for COMIFAC Convergence Plan Vulgarization is organized in at least four member countries</p> <p>3-3 The operational capacities of the COMIFAC National</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country</p> <p>3-2 Reports on Round Tables</p> | <p>3-1 Partially achieved.</p> <p>3-2 Three countries achieved.</p> <p>3-3 Non</p> | <p>3-2 Republic of Equatorial Guinea & Democratic Republic of Congo</p> |

PM Form 4 Project Completion Report

| | | | |
|--|--|--|---|
| | <p>Coordination platforms are strengthened in at least three countries.</p> | <p>and COMIFAC National Coordination meetings. 3-3 Reports on Platform meetings and COMIFAC National Coordination meetings.</p> | <p>realization.</p> |
| <p>Activities</p> | | <p>Inputs</p> | |
| <p>1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change. 1-2 Provide technical support to GTGF meetings and other relevant meetings. 1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025). 1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries. 1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory.</p> | <p><u>The Japanese Side</u> 1. Dispatch of JICA Experts 1) Climate Change/Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed 2. Training Trainings in specific fields in third countries and/or COMIFAC</p> | <p><u>The COMIFAC Side</u> 1. Assignment of counterpart personnel 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators 2. Provision of office space for JICA Experts 3. Local operational expenses 1) Running expenses</p> | <p>Pre-condition <Issues and countermeasures></p> |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| <p>1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion.</p> <p>1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest monitoring including forest inventory.</p> <p>2-1 Enhance implementation of GTBAC activities</p> <p>2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through laboratory work training, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps in the field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-2-3 Supporting a bridge making between researchers of COMIFAC member countries and private sector in the</p> | <p>member countries</p> <p>3. Provision of machinery and equipment</p> <p>4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate</p> <p>5. Local operational expenses (Expenses for holding meetings, workshops, trainings, and pilot project etc.)</p> | | | |
|---|--|--|--|--|

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| <p>field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-4 Implement a pilot project at least in two countries and share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries through GTBAC meetings.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|

Notes: There are objectively verifiable indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.

別添4

中部アフリカ森林協議会
(COMIFAC)

独立行政法人 国際協力機構
(JICA)



COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および
気候変動対策促進プロジェクト

合同調整委員会 定例会議（最終回）
報告書

オンライン会議
2020年10月14日

序文

2020年10月14日、「COMIFAC 諸国における生物多様性保全・利用および気候変動対策促進プロジェクト」の合同調整委員会会議が、ビデオ会議の形式にて執り行われた。議長は COMIFAC 事務局長 NDOMBA NGOYE Raymond 氏が務めた。

本会議の目的は以下の通りである。

- プロジェクトの終了にあたり、主な成果品についての発表を行う
- 得られた教訓について意見交換を行う
- 今後の展望について意見交換を行う
- プロジェクト業務完了報告書(Completion Report)の承認を行う

議長は定足数に達していることを確認した上で、会議のモデレーションを水品修氏に委ねた。

1. 開会の辞

開会にあたっては、JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ自然環境第二チーム課長の池上宇啓氏と COMIFAC 事務局長 NDOMBA NGOYE Raymond 氏が、それぞれ挨拶の言葉を述べた。

池上氏はその挨拶の中で、2020年10月末に終了する本プロジェクトはひとつの「チャレンジ事業」として5年前にスタートしたものであることを改めて説明し、ここに至るまでに得られた成果は COMIFAC 側とプロジェクトチーム側それぞれが費やしてきた大きな努力によるものであると、謝意を表した。また特に、本プロジェクトの成果物として COMIFAC が持続的に活動を続けて行く上での基礎となる3種のガイドブックが作成されたことに触れ、今後それらが COMIFAC によって十分に活用されることを願うと述べた。

Raymond NDOMBA NGOYE 氏は、プロジェクトが成し遂げた実績について、収束計画に定められた成果目標の達成に寄与するものであると述べ、称賛の意を表した。特に、プロジェクトの貢献により、大多数の COMIFAC 加盟国において森林資源モニタリングシステムが向上したことや、ABS に関して、加盟諸国に特有の問題と向き合うための技術・知識の強化に向けた戦略が開発されたことなどを強調した。最後に、本プロジェクト実施のために JICA を通じて日本国より提供された支援に対し、COMIFAC からの感謝の意を改めて伝え、コンゴ盆地の森林保全と地域住民の幸福のために、10年来続いてきた JICA と COMIFAC の協力が今後も末永く続くことを希望する、と述べた。

上記2名の挨拶に続き、以下の参加者による自己紹介が行われた。

- ・ カメルーン、ブルンジ、ガボン、チャドそれぞれの COMIFAC 調整官
- ・ COMIFAC 事務局
- ・ JICA カメルーン事務所

- ・ 在カメルーン日本国大使館
- ・ プロジェクトチーム
- ・ 大学関係者（ルワンダ大学 / チャン大学）
- ・ 諸国際機関プロジェクト関係者 (GIZ, UNDP, FAO)
- ・ コンゴ盆地森林パートナーシップ (GBFP)

2. 会議の進行

会議では、アジェンダに沿って、以下の5つの議題に関するプレゼンテーションが行われた。

- 地域森林インベントリー及びモニタリング・ガイド
- 遺伝資源ラボマネジメント グッドプラクティスガイド
- 非木材林産物の活用を通じた越境保護地域協働管理ガイド
- プロジェクト完了報告書 (Completion Report)
- Completion Reportに係るミニッツの説明及び署名

これらプレゼンテーションの後には意見交換が行われ、以下の懸念事項と課題が指摘された。

- 非木材林産物の活用を通じた越境保護地域協働管理ガイドについては、「非木材林産物の活用」がより強調されるよう、タイトルの文言を見直すべきである。
- さまざまな連携・協力にむけた道を開いて本プロジェクトの成果を永続化させ、森林ガバナンス、持続可能な非木材林産物管理などの分野において、COMIFAC 支援に関するより野心的なプログラムを作り上げる必要がある。
- COMIFAC が立ち上げようとしている、遺伝資源研究に係る学術審議会に対する、JICA を通じての日本の協力・支援が求められる。

3. 決議と提言

会議の終わりに、委員会メンバーは、以下の決議と提言をとりまとめた。

i. 決議

委員会メンバーは、

- プロジェクトにより得られた成果を確認した上で、
- 成果品の実現に努めたプロジェクトチームに称賛の意を表し、
- プロジェクト完了報告書 (Completion Report) を承認し、同報告書にかかるミニッツに COMIFAC 事務局長が署名することに同意する。

ii. 提言

委員会メンバーは、以下について提言する。

❖ **COMIFAC 事務局においては、**

- 本プロジェクトの成果品である中部アフリカ地域向け諸ガイドの継続的な普及のために、加盟各国の調整官と連携し、必要なリソースを動員すること。

❖ **プロジェクトチームにおいては、**

- 中部アフリカの ABS 研究者チームが生み出す製品の日本での宣伝・販売のため、COMIFAC の「遺伝資源研究に係る学術協議会(研究者ネットワーク)」に対する支援がなされるよう、様々な機会を通じて関係機関への働きかけを行うこと。
- プロジェクト完了報告書(Completion Report)の提出・承認に係る Minutes of Meeting のフランス語版を作成すること。
- 「非木材林産物の活用を通じた越境保護地域協働管理ガイド」については、可能であれば、本調査のキーポイントである「非木材林産物の活用」がより強調されるようにタイトルの文言を見直すべきである。(複数のタイトル構成案が提示された)

また、合同調整委員会メンバーは、JICA が中部アフリカの関係者を対象に ABS をテーマとした研修の実施を予定している旨、通知を受けた。同研修は、新型コロナウイルス感染症による影響が収まれば、2021 年度に実施される予定である。

在カメルーン日本国大使館は、プロジェクトチーム、特に COMIFAC 事務局の専門家諸氏の尽力に対する日本政府からの謝意を伝え、本プロジェクトの成果は関連分野における諸活動の継続に役立つことであろうと述べた。

最後に、合同調整委員会メンバーは、コンゴ盆地の森林保全に向けた日本政府と日本国民の支援に対して感謝の意を表し、また、本会議にて行われた質の高い意見交換を称賛した。

4. 閉会の辞

会議の閉会にあたっては、JICA カメルーン事務所所長の影山正氏が挨拶を行い、COMIFAC 事務局長の Raymond NDOMBA NGOYE 氏が、閉会の辞を述べた。

影山氏はその挨拶の中で、中部アフリカ諸国によってエコシステムの保全・管理にかかる条約が採択され、COMIFAC が創設された経緯について触れ、COMIFAC に対する JICA の支援は、JICA が全世界の森林を対象に提供する支援策の一環である旨を説明した。

NDOMBA NGOYE 氏は、合同調整委員会メンバーがこれまで行ってきた作業に感謝の意を表し、本プロジェクトの成果は、何より COMIFAC 事務局とプロジェクトチームの良好な協力関係の賜物であると、喜びの言葉を述べた。また、委員会メンバーに対し、COMIFAC 事務局の現役員の

の任期が 2020 年末で終了を迎える旨を伝え、今後、プロジェクトの成果が新たな指導部に引き継がれ永続されることを期待すると述べた。日本国より JICA を通じて COMIFAC 事務局とその加盟国に提供される継続的支援に対して改めて謝意を述べ、合同調整委員会の閉会を宣した。

於ヤウンデ

2020年10月14日

書記

Valerie TCHUANTE

議長

Raymond NDOMBA NGOYE



Projet de Promotion de la Conservation et de
l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures
contre le Changement Climatique dans les Pays de
la COMIFAC

Rapport d'Achèvement du Projet

Octobre 2020

JAFTA (Association Japonaise de Technologie Forestière)

Rapport d'Achèvement du Projet

Titre du projet : Projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC

Nom: Gervais Ludovic ITSOUA MADZOUS

Titre: Directeur de projet

Nom: Shu MIZUSHINA

Titre: Conseiller Principal

Date de Soumission: le 30 octobre 2020

Table des matières

| | |
|--|----|
| I. Informations de Base du Projet | 1 |
| 1. Pays | 1 |
| 2. Titre du Projet | 1 |
| 3. Durée du Projet | 1 |
| 4. Contexte (extrait de la Convention de Collaboration (R/D)) | 1 |
| 5. But Global et Objectif du Projet (extrait de la Convention de Collaboration (R/D)) | 2 |
| 6. Entité d'exécution | 2 |
| II. Résultats du Projet | 2 |
| 1. Résultats du Projet | 2 |
| 1-1 Inputs par la partie japonaise (Planifiés et Réalisés) | 2 |
| 1-2 Inputs par la partie de COMIFAC (Planifié et Réalisé) | 3 |
| 1-3 Activités réalisées | 4 |
| 2. Achèvement du Projet | 11 |
| 2-1 Résultats attendus et Indicateurs | 11 |
| 2-2 Objectif du Projet et Indicateurs | 16 |
| 3. Historique des modifications apportées à la Matrice de Concept de Projet (MCP) | 19 |
| 4. Autres | 19 |
| 4-1 Considérations Environnementales et Sociales (si applicable) | 19 |
| 4-2 Considérations en matière de Genre/Consolidation de la paix/Réduction de la pauvreté (si applicable) | 19 |
| III. Résultats de la Vérification Conjointe de la Réalisation du Projet | 20 |
| 1. Modalité de Vérification de la Réalisation du Projet | 20 |
| 2. Résultats de l'évaluation (par rapport aux 5 critères d'évaluation) | 20 |
| 3. Facteurs clés affectant la mise en œuvre du Projet | 26 |
| 4. Evaluation sur la Gestion des Risques du Projet | 27 |

| | |
|--|-----------|
| 5. Leçons Tirées..... | 28 |
| IV. Pour l'atteinte du But Global après l'Accomplissement du Projet..... | 29 |
| 1. Perspective d'atteinte du But Global | 29 |
| 2. Plan d'opérations et structure d'exécution de la COMIFAC visant l'atteinte du But Global..... | 30 |
| 3. Plan de Suivi depuis la fin du Projet jusqu'au moment de l'Evaluation postérieure..... | 31 |

Liste de sigles

| Sigle | English/Français |
|-----------------|---|
| ABS (APA) | Acces and Benefit-Sharing (Accès et Partage des Avantages) |
| CBD (CDB) | Convention on Biological Diversity (Convention sur la Diversité Biologique) |
| CNC | Coordination Nationale de la COMIFAC |
| COMIFAC | Commission des Forêts d'Afrique Centrale |
| COP | Conference of Parties (Conférence des Parties) |
| DAC | Development Assistance Committee (Comité d'Aide au Développement) |
| GIZ | Deutsche Gesellschaft fuer Internationale Zusammenarbeit |
| GTBAC | Groupe de Travail sur la Biodiversité en Afrique Centrale |
| GTCCC | Groupe de travail de la Convention sur le Changement Climatique |
| GTGF | Groupe de travail de la Gestion Forestière |
| JCC | Joint Coordination Committee (Comité de pilotage) |
| JICA | Japan International Cooperation Agency (Agence Japonaise de Coopération Internationale) |
| M/M | Man-month (Homme-mois) |
| PDM | Project Design Matrix (Matrice de Concept de Projet) |
| PROGEF | Projet de renforcement des capacités pour la gestion durable de l'écosystème forestier en République du Cameroun |
| R/D | Record of Discussions |
| SATREPS-COMECA | Science and Technology Research Partenership for Sustainable Development - Co-création d'une gestion innovante des ressources forestières combinant les méthodes écologiques et les connaissances autochtones |
| SE COMIFAC | Secrétariat Exécutif de la COMIFAC |
| SGAPFS | Sous Groupe de travail sur les Aires Protégées et la Faune Sauvage |
| TRIDOM | zone de Tri-National Dja, Odzala-Kokoua, Minkébé (TRIDOM) |
| UNFCCC (CCNUCC) | United Nations Framework Convention on Climate Change (Convention-Cadre des Nations-Unis de Changement Climatique) |

PM Form 4 Project Completion Report

I. Informations de Base du Projet

1. **Pays** : Dix pays membres de la Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC) dont le siège se situe à Yaoundé, Cameroun.

2. **Titre du Projet** : Projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC.

3. **Durée du Projet** : Août 2015 - Octobre 2020.

4. Contexte (extrait de la Convention de Collaboration (R/D)) :

Les forêts du Bassin du Congo constituent la deuxième plus grande étendue des forêts tropicales dans le monde après l'Amazonie et elles abritent une riche biodiversité. Cependant, la déforestation et la dégradation forestière se sont progressivement accentuées en raison de plusieurs causes parmi lesquelles l'exploitation excessive, les coupes illégales et la conversion des territoires forestiers en terres de culture et en agglomérations.

Dans le but de répondre à ces enjeux, la Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC), qui comprend dix pays membres à savoir: le Burundi, le Cameroun, la République Centre Africaine, le Tchad, le Congo, la République Démocratique du Congo, la Guinée Equatoriale, le Gabon, le Rwanda et le Sao-Tomé et Principe, a été instituée en 2005 sur la base de la «Déclaration de Yaoundé» de mars 1999 en vue de coordonner, d'orienter, d'harmoniser et de suivre les politiques forestières et environnementales d'Afrique Centrale.

En 2005, le Plan de Convergence (2005-2014) a été adopté comme cadre de référence et de coordination de toutes les interventions en matière de conservation, de gestion durable des écosystèmes forestiers et de l'environnement en Afrique Centrale. Ce Plan de convergence a été révisé en 2014 en vue de prendre en compte des nouveaux enjeux liés à la conservation et à la gestion durable des écosystèmes forestiers. Ce nouveau plan de convergence dit « de deuxième génération », couvre la période 2015-2025.

Dans l'optique de mobiliser les ressources pour la mise en œuvre du Plan de Convergence et renforcer les capacités des groupes de travail thématiques de la COMIFAC dont le Groupe de Travail sur la Biodiversité en Afrique Centrale (GTBAC), le Groupe de Travail sur les Changements Climatiques (GTCCC) et le Groupe de Travail sur la Gouvernance Forestière (GTGF), la COMIFAC a sollicité et obtenu l'appui du Gouvernement Japonais à travers l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA) pour le financement d'un projet de coopération technique. Il sied de rappeler que depuis 2011, la JICA a fourni des appuis techniques au Secrétariat Exécutif de la COMIFAC pour promouvoir la mise en œuvre du Plan de Convergence à travers des experts japonais. C'est dans ce contexte qu'une convention de collaboration (Record of Discussions) a été signée entre la JICA et la COMIFAC pour la mise en œuvre du Projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC.

5. But Global et Objectif du Projet (extrait de la Convention de Collaboration (R/D)) :

But Global

La conservation et la gestion durable de l'écosystème forestier dans les pays membres de la COMIFAC sont promues.

Objectif du projet

La mise en œuvre du Plan de Convergence est promue à travers le renforcement des capacités organisationnelles de la COMIFAC.

6. Entité d'exécution

Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC)

II. Résultats du Projet

1. Résultats du Projet

1-1 Inputs par la partie japonaise (Planifiés et Réalisés)

(1) Fonds Total

Plan (budget indiqué dans les Plans de Travail Annuel): 980.859.100 XAF (¥187.658.000)

Réalisation : 965.860.000 XAF (¥184.788.000)

(2) Envoi des experts japonais

| Experts JICA (H/M) | Depuis le début du projet jusqu' à la fin du projet | |
|---|---|-------------|
| | Plan | Réalisation |
| Chef du projet / Changement Climatique (1) | 17,00 | 17,00 |
| Adjoint au Chef du Projet / Changement Climatique (2) | 1,30 | 1,30 |
| Adjoint au Chef du Projet /Surveillance des forêts | 11,03 | 11,03 |
| Conservation de la Biodiversité (1) | 5,63 | 5,63 |
| Conservation de la Biodiversité (2) | 1,10 | 1,10 |
| Gestion administrative / Amélioration des conditions de vie (1) | 14,00 | 14,00 |
| Gestion administrative / Amélioration des conditions de vie (2) | 13,60 | 13,60 |
| Gestion administrative / Changement Climatique (3) | 9,33 | 9,33 |
| Interprète | 223 jours | 132 jours |
| Interprète (2) | 0 jour | 24 jours |
| Interprète (3) | 0 jour | 18 jours |
| Interprète (4) | 18 jours | 67 jours |
| Total d'H/M hormis les interprètes | 72.99 | 72,99 |

(3) Nombre de participants aux formations réalisées par le Projet

| Formation | Nombre de participants |
|--|------------------------|
| Formation sur la surveillance des forêts | 75 |
| Formation sur la gestion des laboratoires de l'APA | 137 |
| Total | 212 |

(4) Equipements et matériels

Les équipements et matériels suivants se sont approvisionnés :

Pour l'utilisation dans le bureau du Projet : 1 projecteur, 1 imprimante, 2 véhicules tout-terrain

Pour l'utilisation dans le micro-projet pilote de gestion collaborative du TRIDOM effectué à Gribé au Cameroun : 1 modem de communication par satellite, 1 ordinateur personnel, 2 TruPulse (dispositif de mesure d'arbre), 1 motocyclette.

Les matériels pour le bureau de projet continuent à être utilisés par un autre Projet JICA. Ceux utilisés pour le micro-projet pilote à Gribé sont cédés au Projet SATREPS-COMECA qui s'effectue aux environs de Gribé.

La cession de matériels au SE COMIFAC n'est pas prévue.

1-2 Inputs par la partie de COMIFAC (Planifié et Réalisé)

| | |
|------------------------------------|---|
| Mise à disposition des homologues | Comme planifié dans la Convention de Collaboration (R/D), le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC a mis à la disposition du Projet, durant toute la période de sa mise en œuvre, un chef de projet, trois experts COMIFAC chargés respectivement du changement climatique, de la biodiversité et du suivi-évaluation ainsi que les coordonnateurs nationaux de la COMIFAC (10 au total). |
| Locaux à usage de bureau du projet | Les locaux à usage de bureau n'ont pas été mis à la disposition du projet en dépit de la mention faite dans la R/D. Ceci est dû à l'espace limité dans l'immeuble qui abrite le SE COMIFAC, et ce, malgré les efforts fournis par celui-ci pour trouver des places disponibles. L'équipe japonaise du projet a loué une salle à sa propre charge dans le même immeuble que le bureau du projet GIZ d'appui à la COMIFAC, depuis le début du projet jusqu'à août 2019, puis un autre local ailleurs de septembre 2019 jusqu'à la fin du projet, toujours à sa propre charge. |
| Budget | Le budget annuel nécessaire pour les activités du présent projet JICA est mentionné chaque année dans le plan de travail annuel du projet et soumis à l'approbation du SE COMIFAC lors des |

| | |
|--|--|
| | <p>réunions du Comité de pilotage conjoint. Le montant définitif du budget est publié et validé lors de l'atelier pour l'élaboration du plan de travail annuel du SE COMIFAC.</p> <p>La COMIFAC prend en charge les frais du personnel de son Secrétariat Exécutif. Cependant, les frais de voyage en mission du personnel du SE COMIFAC à savoir les frais du transport, l'allocation journalière et les frais d'hébergement sont pris en charge par le projet.</p> |
|--|--|

1-3 Activités réalisées

Les événements majeurs sont rapportés dans le tableau ci-après sous forme de résumé pour chaque année suivant les résultats attendus.

Avant tout, il est nécessaire de comprendre que la mission de la COMIFAC qu'est une institution sous-régionale de l'Afrique Centrale ne consiste pas à réaliser des activités liées au Plan de Convergence dans chaque pays membre au moyen de l'appui financier de la COMIFAC mais à harmoniser les politiques forestière et environnementale de l'Afrique Centrale et à coordonner, avec la collaboration des partenaires techniques et financiers, la mise en œuvre des activités. La COMIFAC a par ailleurs un autre rôle important, qui consiste à exprimer des positions communes de l'Afrique Centrale dans différentes conférences internationales. En résumé, on pourrait dire que les principales activités de la COMIFAC consistent à organiser des différentes réunions dans ses pays membres en vue d'établir un consensus sur les positions communes à affirmer dans les instances internationales.

[2015]

| Réalisation |
|--|
| Aspect transversal du Projet |
| <ul style="list-style-type: none"> - Location d'un local pour le bureau de projet, recrutement du personnel camerounais, approvisionnement du matériel bureautique ; - Organisation de l'atelier de l'orientation des activités du Projet, le 03/09/2015 ; - Discussion avec le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC sur la finalisation du Plan de Travail Annuel du Projet et du Plan de Travail Annuel du SE COMIFAC 2016, les mois de novembre et de décembre 2015. |
| Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées. |
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à l'organisation de l'évènement parallèle de la COMIFAC lors du Congrès Mondial des Forêts à Durban (Afrique Sud) du 07 au 11/09/2015. Pour ce congrès, le Projet a appuyé la participation des représentants des structures homologues de la République Démocratique du Congo et du Gabon qui ont donné une présentation sur |

| |
|--|
| leur projet de renforcement des capacités sur le système de surveillance des forêts exécuté par la JICA. |
| Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées. |
| - Visite d'instituts de recherche (laboratoires) à Yaoundé, Cameroun, dans le cadre de l'étude sur l'état des lieux de l'APA, du 04 au 09/09/2015. |
| Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées. |
| Rien à mentionner |

[2016]

| Réalisation |
|--|
| Aspect transversal du Projet |
| <ul style="list-style-type: none"> - Organisation de la première réunion du Comité de pilotage conjoint du Projet, à Douala au Cameroun le 25/01/2016 ; - Organisation de l'Atelier de lancement officiel du projet, à Douala au Cameroun le 26/01/2016. - Signature de la Décision N° 001/COMIFAC/SE/16 portant création du Comité de Pilotage conjoint du projet le 22/03/2016 |
| Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées. |
| <ul style="list-style-type: none"> - Réalisation de l'étude sur l'état des lieux du système de surveillance des ressources forestières dans les pays membres de la COMIFAC ; - Appui à l'organisation de l'atelier relatif au GTCCC en Mai 2016 (décryptage des résultats de la COP21) ; - Appui à l'organisation de la réunion relative au GTCCC qui s'est tenue en septembre 2016 (discussion sur la position commune de la COMIFAC pour la COP22) ; - Appui à l'organisation de la réunion relative au GTCCC qui s'est tenue en octobre 2016 (confirmation de la position commune de la COMIFAC pour la COP22) ; - Appui à l'organisation de la réunion de validation du rapport de l'étude qui a été réalisée par le consultant local sur l'état des lieux des systèmes de surveillance des ressources forestières. |
| Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées. |
| <ul style="list-style-type: none"> - Visite de laboratoires de recherche concernés par l'APA à l'université de Buéa et à l'université de Dschang au Cameroun, du 27 au 30/01/2016; - Appui à l'organisation de la 24ème réunion du GTBAC qui s'est tenue en novembre 2016 ; |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à la participation des experts du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC à la COP 13 CDB qui s'est tenue du 2 au 17 décembre 2016 à Cancun, au Mexique ; - Appui à l'organisation de la réunion de validation du rapport de l'étude sur l'état des lieux de la bioprospection ; - Appui à l'organisation de la réunion de validation du rapport de l'étude sur l'état des lieux de la gestion des aires protégées transfrontalières de la TRIDOM. |
| Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées. |
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à l'organisation de l'atelier relatif au renforcement des capacités de CNC du 30 mai au 3 juin 2016 à Douala ; - Appui à l'organisation de l'Atelier de concertation des Coordinateurs Nationaux COMIFAC et de restitution des données de base des indicateurs du Plan de Convergence 2, du 03 au 05 novembre 2016, Douala |

[2017]

| |
|--|
| Réalisation |
| Aspect transversal du Projet |
| Organisation de la 2 ^{ème} session du Comité de pilotage conjoint (JCC) tenue le 26 janvier 2017 à Douala, Cameroun. L'avancement des activités de l'année 2016 et la planification des activités 2017 ont été discutés et validés. |
| Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées. |
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à l'organisation de la réunion du GTGF du 10 au 11 avril 2017 à Douala, Cameroun. Cette réunion était une préparation de la participation des pays de l'espace COMIFAC au 12e Forum des Nations-Unis sur les Forêts à New York ; - Appui à l'organisation de la réunion du GTCCC du 9 au 11 mars 2017 à Kigali, Rwanda. Cette réunion avait pour objectifs de faire le décryptage de la COP22 et la préparation d'une vision commune pour l'échéance future de la CCNUCC ; - Appui à l'organisation de la réunion du GTCCC du 22 au 24 juin 2017 à Malabo, Guinée Equatoriale. Cette réunion a traité des mécanismes et procédures de financement des pays par le Fonds Vert pour le Climat. La compréhension sur les fonds de préparation du FVC a été approfondie dans les pays membres de la COMIFAC ; - Appui à l'organisation de la « Semaine de MNV du Bassin du Congo » du 17 au 21 juillet 2017 à Libreville, Gabon. Cette réunion a pour objectif d'avoir la compréhension commune sur l'état des lieux des MNV dans les pays membres de la COMIFAC avec |

| |
|---|
| <p>la participation des Experts en charges des MNV des 10 pays Membres de la COMIFAC, des représentants des Organisations de la sociétés civiles et représentants des partenaires techniques et financiers ;</p> <p>- Appui à l'organisation de la réunion du GTCCC du 28 au 30 août 2017 à Brazzaville, Congo. Dans cette réunion, la position commune des pays de l'espace COMIFAC pour la COP 23 a été discutée et adoptée.</p> |
| <p>Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées.</p> |
| <p>- Appui à l'organisation de la 25ème réunion du GTBAC du 24 au 26 avril 2017 à Douala, Cameroun. Le thème de cette réunion était le décryptage de la COP13 de la CDB ;</p> <p>- Tenue de la 6ème réunion du Sous-Groupes de Travail des Aires Protégées et Faune Sauvage (SGAPFS) du 27 au 29 avril 2017 à Douala, Cameroun ;</p> <p>- Appui à l'organisation de l'atelier de démarrage du projet pilote de TRIDOM le 30 août 2017 à Gribé, région de l'Est, Cameroun. Dans cet atelier, l'explication du projet pilote a été donnée aux administrateurs concernés, aux autorités locales et aux villageois concernés pour avoir leur compréhension.</p> |
| <p>Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées.</p> |
| <p>- Le Projet JICA a appuyé l'organisation de la Table Ronde de vulgarisation du Plan de Convergence 2 le 17 juin 2017 à Bata, Guinée Equatoriale. Cette table ronde a permis de vulgariser le Plan de Convergence 2 de la COMIFAC auprès des parties prenantes de la Guinée Equatoriale, non seulement au niveau des administrateurs des services centraux mais aussi des personnes concernées des services déconcentrés ;</p> <p>- Le Projet JICA a appuyé également l'organisation de la Table Ronde de vulgarisation du Plan de Convergence 2 le 29 septembre 2017 à Kinshasa, République Démocratique du Congo.</p> |

[2018]

| |
|--|
| Réalisation |
| Aspect transversal du Projet |
| <p>- Appui à l'organisation de l'atelier de présentation des activités du Projet le 26 janvier 2018 à Douala, Cameroun ;</p> <p>- Organisation du 3ème Comité du Pilotage conjoint le 27 janvier 2018 à Douala, Cameroun ;</p> |

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> - Une session extraordinaire du Conseil des Ministres de la COMIFAC a été organisée à Brazzaville, République du Congo le 15 mars 2018 ; - Préalablement à la session extraordinaire du Conseil des Ministres suscités, une réunion des experts s'était tenue les 13 et 14 mars 2018 ; - Une réunion extraordinaire du Comité de pilotage a été organisée le 23 mai 2018. |
| <p>Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées.</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à l'organisation de la réunion du GTCCC du 13 au 14 février 2018 à Brazzaville, République du Congo. Les objectifs cette réunion étaient le décryptage des résultats de la COP23 de la CCNUCC et la préparation des documents pour la Session Extraordinaire du Conseil des Ministres de la COMIFAC ; - Le projet JICA a appuyé l'organisation de la « Formation en surveillance des forêts - Volet Inventaire forestier- » à l'Ecole Nationale des Eaux et Forêts (ENEF) du Gabon, du 04 au 08 juin 2018 ; - Une réunion du GTCCC s'est tenue du 16 au 18 octobre 2018 à Kribi, au Cameroun avec l'appui du projet. Il s'agissait d'une réunion importante dont le but était de discuter de la préparation de la COP24 de la CCNUCC qui était prévue pour décembre 2018 à Katowice en Pologne, et aussi du Guide de surveillance des forêts que le présent projet avait prévu d'élaborer ; - Le projet JICA a appuyé la participation des experts de la COMIFAC à la COP 24 de la CCNUCC qui s'est déroulée du 03 au 14 décembre 2018 à Katowice, en Pologne. |
| <p>Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées.</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> - Appui à l'organisation de la 26ème réunion du GTBAC du 22 janvier 2018 à Douala, Cameroun ; - La 27ème réunion du GTBAC s'est tenue du 13 au 16 juin 2018 à Douala avec l'appui du projet. Cette réunion avait pour objectif de confirmer la position commune des pays membres de la COMIFAC en vue d'une prochaine session de l'Organe subsidiaire de mise en œuvre (SBI) de la Convention sur la Diversité Biologique (CDB) ; - A la suite de la conclusion d'un protocole d'entente avec l'Université du Rwanda, la deuxième formation en travaux de laboratoire de l'APA s'est tenue du 30 juillet au 03 août 2018 dans les enceintes de ladite Université, au campus de Huye avec l'appui du projet ; - Le projet a appuyé l'organisation d'une réunion de dialogue tenue le 15 mars 2018 sur le site du projet pilote dans le village de Gribé, avec pour objectif de coordonner les intérêts des sociétés de chasse sportive et ceux des populations locales. A cette occasion de concertation entre les différentes parties prenantes, il a été souligné la nécessité de renforcer les capacités du Comité de Valorisation des Ressources |

| |
|--|
| <p>Fauniques (COVAREF), et d'assurer un partage équitable des avantages aux communautés locales ;</p> <ul style="list-style-type: none"> - Une réunion d'examen du livre de référence, synthétisant les leçons apprises et les connaissances acquises dans le cadre du projet pilote, s'est tenue le 24 mai 2018 à Douala avec l'appui du projet. Dans ledit livre de référence, la promotion de la combinaison entre la vie des populations locales et la conservation des forêts, basée sur l'établissement des relations de collaboration entre les diverses parties prenantes, est considérée comme le principal défi à relever ; - La 28ème réunion du GTBAC s'est tenue du 15 au 19 octobre 2018 à Bata, en Guinée équatoriale avec l'appui du projet. Il s'agissait d'une réunion importante ayant pour but la préparation de la participation de la COMIFAC et ses pays membres à la COP 14 à la CDB ; - La COP 14 de la CDB s'est tenue du 13 au 29 novembre 2018 à Sharm el-Sheikh, en Egypte. Le Projet JICA a appuyé la participation d'un expert en biodiversité de la COMIFAC à cette conférence. |
| <p>Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées.</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> - Tenue de la Table Ronde sur la vulgarisation du plan de convergence de la COMIFAC le 29 mai 2018 à Kigali, au Rwanda avec l'appui du projet, sous la présidence du Ministre des Terres et des Forêts du Rwanda ; - Tenue d'une table Ronde le 22 novembre 2018 à Libreville au Gabon, réunissant une centaine d'acteurs concernés avec l'appui du projet. |

[2019]

| |
|--|
| <p>Réalisation</p> |
| <p>Aspect transversal du Projet</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> - Une mission du siège de la JICA est arrivée au Cameroun pour assister à l'atelier de présentation des résultats obtenus à la fin de 2018 du projet qui a eu lieu le 31 janvier 2019 et à la 4ème session du Comité de pilotage conjoint le 01 février ; - L'atelier de planification opérationnelle 2019 du SE COMIFAC s'est tenu du 27 février au 01 mars 2019 dans la salle de réunions du Centre Touristique de Nkolandom ; - La dixième session du Conseil des Ministres des pays de l'espace COMIFAC s'est tenue du 09 au 11 juillet 2019 à l'Hôtel Mont-Fébé à Yaoundé, au Cameroun avec des appuis des partenaires techniques et financiers, la GIZ et la JICA en particulier ; |

| |
|--|
| <p>- Un atelier portant sur la REDD+ (Workshop for the Design of REDD+ Projects in Africa : Lessons learned and perspectives) a été organisé conjointement par la BAD et la JICA, du 13 au 16 août 2016 à Abidjan, au Côte d'Ivoire.</p> |
| <p>Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées.</p> |
| <p>Un rapport sur la deuxième formation en surveillance des forêts a été présenté à l'occasion de l'atelier de présentation des résultats obtenus à la fin de 2018 du projet qui s'est tenu le 31 janvier 2019 à Douala, au Cameroun avec l'appui du projet.</p> <p>- Le projet JICA a appuyé l'organisation de la troisième session de formation en surveillance des forêts (volet Rédaction de rapports) du 04 au 08 mars 2019 à Brazzaville, République du Congo ;</p> <p>- Appui à la participation à la réunion du GTCCC du 05 au 07 mars 2019 (lieu : Malabo, en Guinée équatoriale)</p> |
| <p>Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées.</p> |
| <p>- Les experts japonais ont eu un entretien avec l'Expert Biodiversité au SE COMIFAC le 20 mars 2019, à l'issue de laquelle il a été convenu d'organiser un forum d'échange d'expériences en matière d'APA entre les chercheurs des pays de l'espace COMIFAC et le secteur privé japonais d'une durée de 2 à 2,5 jours du 25 au 27 septembre 2019 au Rwanda, en invitant 3 personnes de chaque pays membre (2 personnes ayant participé aux sessions précédentes et un représentant du secteur privé de chaque pays membre)</p> <p>- Une note conceptuelle a été établie pour le forum d'échange d'expériences qui était prévu pour septembre 2019, sur la base de l'entretien qui avait été tenu en mars 2019. Cette note conceptuelle a été envoyée au Secrétaire Exécutif Adjoint et l'Expert Biodiversité au SE COMIFAC début mai 2019</p> <p>- Une réunion de lancement du projet pilote relatif à la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières a eu lieu le 25 avril 2019 à Sembé, en République du Congo avec l'appui du projet. L'équipe du projet a envoyé son assistant technique pour assister à cet évènement.</p> |
| <p>Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées.</p> |
| <p>- L'atelier de renforcement des capacités pour l'opérationnalisation de la plate-forme des points focaux thématiques au sein du Groupe National d'appui à la Coordination Nationale COMIFAC s'est tenu les 7 et 8 juin 2019, à Brazzaville au Congo. Cet atelier, qui rentre dans le cadre du renforcement des capacités sous-régionales pour le suivi et la coordination de la mise en œuvre des initiatives de conservation et de gestion durable des écosystèmes forestiers du bassin du Congo, a bénéficié de l'appui de la</p> |

| |
|-------|
| JICA. |
|-------|

[2020]

| |
|-------------|
| Réalisation |
|-------------|

| |
|------------------------------|
| Aspect transversal du Projet |
|------------------------------|

| |
|---|
| Il avait été prévu d'organiser la session finale du Comité de pilotage et un atelier de synthèse du projet au mois d'avril 2020. Cependant, en raison de la pandémie de COVID-19 qui a entraîné la suspension de l'envoi des experts japonais et l'application des mesures de confinement etc, au Cameroun, il a été décidé de les tenir à mi-octobre 2020 sous forme de Web conférences. ; |
|---|

| |
|--|
| Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées. |
|--|

| |
|--|
| Le projet JICA a appuyé l'organisation d'un atelier d'examen et de validation du Guide d'Inventaire et de Surveillance des Forêts le 6 mars 2020 à Douala, Cameroun. |
|--|

| |
|--|
| Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées. |
|--|

| |
|---|
| Le projet JICA a appuyé l'organisation d'un atelier d'examen et de validation du Guide de Bonnes Pratiques de Gestion des Laboratoires des Ressources Génétiques des pays de l'espace COMIFAC du 12 au 14 février 2020 à Kigali, Rwanda ; |
|---|

| |
|---|
| Le projet JICA a appuyé l'organisation d'un atelier d'examen et de validation du Guide de Gestion Collaborative des Aires Protégées Transfrontalières dans le cadre de la valorisation des produits forestiers non ligneux le 6 mars 2020 à Douala, Cameroun. |
|---|

| |
|--|
| Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées. |
|--|

| |
|---|
| Le projet JICA a appuyé l'organisation de la Plateforme du CNC Rwanda les 17 et 18 février 2020 à Kigali, Rwanda. |
|---|

2. Achèvement du Projet

Afin de constater le degré de réalisation du Projet, une évaluation a été faite pour chacun des « Résultats attendus » et « l'Objectif du Projet » en rapport avec les indicateurs de réalisation définis dans la version 1 de la Matrice de Conception du Projet en date du 27 janvier 2018. (Il ne s'agit pas ici d'évaluer l'état de la réalisation de chacune des activités qui composent le Projet).

2-1 Résultats attendus et Indicateurs

| Résultat 1 : Les activités relatives au GTCCC et GTGF sont renforcées. | | | |
|---|---|----------------------------|-----------|
| Indicateurs | Moyens de vérification | Achèvement des indicateurs | Remarques |
| Indicateur 1-1 : Un rapport sur les besoins communs et les éléments déficients du système de surveillance des ressources forestières des pays membres de la COMIFAC est préparé. | Le Rapport validé intitulé « Etude sur l'état des lieux des systèmes de surveillance des ressources forestières des pays de la COMIFAC » | 1/1=100% | |
| Indicateur 1-2 : Le programme et les matériels didactiques de formation pour trois types de cours sont développés | Trois types de Matériels didactiques élaborés | 3/3=100% | |
| Indicateur 1-3 : Plus de 80% des participants à la formation de surveillance des forêts reconnaissent leurs connaissances et compétences renforcées | Selon les résultats des enquêtes lors de chaque session de formation, le taux de reconnaissance de leurs capacités renforcées sont : 17/20(=85%) pour la 1 ^{ère} session, 17/20(=85%) pour la 2 ^{ème} et 17/20(=85%) pour la | 100% | |

| | | | |
|--|--|---------------------------|--|
| | 3 ^{ème} session. Puisque tous les trois taux dépassent 80%, cet indicateur est atteint à 100%. | | |
| Indicateur 1-4 : La politique et les mesures sur le changement climatique et la gestion durable des forêts sont présentées à l'occasion des conférences internationales incluant la COP-CCNCCC au moins trois fois. | Compte-rendu des 3 conférences internationales | 3/3=100% | 3 Conférences Internationales : -Congrès Mondial Forestier 2015 (Durban, Afrique du Sud) -COP 24 (Katwice, Pologne) -COP 25 (Madrid, Espagne) (Décembre 2019) |
| Degré de réalisation du Résultat 1 | | (100+100+100+100) /4=100% | |
| Résultat 2 : Les activités relatives au GTBAC sont renforcées. | | | |
| Indicateur 2-1 : Un rapport sur les besoins communs et les éléments déficients de l'aspect technique d'APA dans les pays membres de la COMIFAC est préparé. | Le Rapport validé intitulé « Etude sur l'état des lieux de la bioprospection dans les pays de la COMIFAC » | 1/1=100% | |
| Indicateur 2-2 : Le programme et les matériels didactiques de formation pour trois | Deux types de programme pour les deux formations et un programme de l'atelier de prise de | 100% | |

| | | | |
|--|---|------|--|
| types de cours sont développés. | contact entre le secteur privé japonais et les chercheurs sous-régionaux ont été développés. Une check liste et un guide sont élaborés et validés. | | |
| Indicateur 2-3 : Plus de 80% des participants à la formation des travaux laboratoires de l'APA reconnaissent leurs connaissances et compétences renforcées. | Les résultats de l'enquête effectuée lors de la première session de la formation : Volet « Gestion des laboratoires » : 13/13 ont répondu que leurs connaissances ont été renforcées. Volet « Technique de base » : 9/9 ont répondu que leurs connaissances ont été renforcées. | 50% | Pour la 1 ^{ère} formation, le taux de réalisation de l'indicateur est de 100%. Mais les résultats de l'enquête de la 2 ^{ème} formation étant indisponibles, on considère que le taux de réalisation est de 1/2. |
| Indicateur 2-4 : Les bonnes pratiques et les leçons tirées du projet pilote dans une zone des aires protégées transfrontalières sont partagées avec les pays membres de la COMIFAC durant la mise en œuvre | Le rapport des micro-projets pilotes dans le segment Cameroun et dans le segment Congo de la TRIDOM est élaboré, et le Guide de gestion collaborative des Aires Protégées Transfrontalières est élaboré sur la base des résultats desdits | 100% | |

| | | | |
|---|--|---|---|
| du projet et elles sont synthétisées dans des rapports de projet pilotes incluant le manuel technique du projet pilote. | micro-projets pilotes. | | |
| Indicateur 2-5 : La politique et les mesures sur la biodiversité sont présentées à l'occasion des conférences internationales incluant la COP-CDB au moins deux fois. | Vérification des Rapports concernés. COP-CDB 13, 2016 ; Cancun, Mexique COP-CDB 14, 2018; Sharme El-Scheikh , Egypte | 2/2=100% | <ul style="list-style-type: none"> - COP-CDB 13 (2016; Cancun, Mexique) - COP-CDB 14 (2018, Sharme El-Scheikh , Egypte) |
| Degré de réalisation du Résultat 2 | | (100+100+50+100+100) /5=90% | |
| Résultat 3 : Les capacités des Coordinations Nationales de la COMIFAC sont renforcées. | | | |
| Indicateur 3-1 : Le système de suivi et évaluation relative à la mise en œuvre du Plan de Convergence et les activités de la COMIFAC fonctionne bien. | Compte-rendu de participation à la réunion de concertation. | Le système en question est déjà opérationnel sur le site Web de la COMIFAC. | <p>Cette activité concerne le développement d'un système de suivi des indicateurs du Plan de Convergence dont la réalisation est appuyée par la GIZ.</p> <p>La contribution attendue de la part du Projet JICA consistait à fournir des appuis techniques dans le cadre de l'organisation des réunions qui y sont liées. Il est difficile d'évaluer quantitativement une telle contribution</p> |
| Indicateur 3-2 : La Table Ronde | Rapports de Table Ronde | 4/4=100% | La table ronde a été organisée dans les 4 pays ci- |

| | | | |
|--|----------------------------|------------------------|---|
| pour la vulgarisation du Plan de Convergence 2 de la COMIFAC est organisée dans au moins quatre pays membres. | | | dessous : -La RDC ; -Le Gabon -La Guinée Equatoriale -Le Rwanda |
| Indicateur 3-3 : Les capacités opérationnelles de la plateforme de Coordination Nationale de la COMIFAC sont renforcées dans au moins trois pays membres. | Rapports de Plateforme CNC | 2/3=67% | La plateforme CNC a été organisée dans les 2 pays ci-après : -Congo -Rwanda |
| Degré de réalisation du Résultat 3 | | $(0+100+67) / 3=56\%$ | |
| Degré de réalisation des tous les Résultats | | $(100+90+56) / 3=82\%$ | |

2-2 Objectif du Projet et Indicateurs

Le degré de réalisation de l'Objectif du Projet est indiqué ci-dessous de manière qualitative pour chaque indicateur.

| Objectif du Projet : La mise en œuvre du Plan de Convergence est promue à travers le renforcement des capacités organisationnelles de la COMIFAC. | | |
|---|---|--|
| Indicateurs | Degré de réalisation des indicateurs | Remarques |
| Indicateur 1 : Le système de surveillance des ressources forestières est amélioré dans au moins huit pays membres de la | Cet indicateur a été défini en supposant que tous les pays membres de la COMIFAC disposent déjà d'un système de surveillance des ressources forestières. Cependant, lors du commencement du présent projet, aucun pays membre n'était équipé d'un tel | Il convient toutefois de noter que le projet a organisé une série de formations portant sur la surveillance des ressources forestières, à l'intention des acteurs concernés des pays |

| | | |
|--|---|--|
| COMIFAC. | système. Par conséquent, il est difficile d'apprécier directement le degré de réalisation de cet indicateur. | membres de la COMIFAC, leur procurant les compétences et les savoir-faire les plus actualisées en la matière. Compte tenu de ceci, on pourrait affirmer que le présent projet a permis aux pays membres de la COMIFAC de construire une base solide pour développer ou améliorer leur propre système de surveillance des ressources forestières. |
| Indicateur 2 : La stratégie de renforcement des connaissances et des compétences techniques relatives aux problématiques spécifiques sur l'APA, qui contribue à la promotion de la stratégie nationale de l'APA est développée dans les pays membres de la COMIFAC. | Le présent projet s'est focalisé sur un thème spécifique de base : amélioration de la gestion des laboratoires liés à la valorisation des ressources génétiques à travers les formations en cette matière. Il convient de souligner à nouveau qu'en ce qui le concerne, les principaux impacts du projet sont apparus sous deux formes suivantes : <ul style="list-style-type: none">- La création d'une Plateforme (réseau) fonctionnelle des chercheurs de la sous-région constituée au terme des formations dispensées dans le cadre du projet. Ce qui va favoriser le partage d'informations et des expériences entre les chercheurs au niveau sous régional. | Aucun guide spécifique sur la gestion de laboratoire n'a jamais existé dans la sous-région d'Afrique centrale. Ceci est très significatif d'autant plus que ce guide a été créé par les chercheurs de la sous-région eux-mêmes et non par un consultant extérieur. |

| | | |
|---|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> - L'élaboration participative et l'appropriation du Guide APA par l'ensemble de ces chercheurs va permettre d'avoir un outil unique et consensuel pour ce qui est de l'APA au niveau de l'ensemble des pays de la sous-région. | |
| <p>Indicateur 3 :</p> <p>Les bonnes pratiques et les leçons tirées des activités pilote menées par le projet dans une zone des aires protégées transfrontalières sont intégrées dans le plan de gestion des aires protégées transfrontalières des pays membres de la COMIFAC.</p> | <p>Dans le cadre du présent projet, un guide de gestion collaborative des aires protégées transfrontalières dans le cadre de la valorisation des produits forestiers non-ligneux a été élaboré sur la base des résultats obtenus des micro-projets pilotes qui ont été réalisés dans le segment Cameroun et dans le segment Congo de la TRIDOM respectivement. Reste à espérer que le concept de gestion collaborative qu'indique ledit guide sera pris en compte et mis en valeur dans les autres aires protégées transfrontalières des pays membres de la COMIFAC.</p> | |
| <p>Indicateur 4 :</p> <p>Au moins cinq types de supports de communication sont produits et utilisés dans au moins huit pays membres de la COMIFAC.</p> | <p>Pour le renforcement de la visibilité des activités du projet et le partage de ses résultats dans la zone COMIFAC, le projet a utilisé les supports suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Presse audiovisuelle et écrite - « Rapport Annuel COMIFAC » qui est publié annuellement par le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC ; - « COMIFAC News » qui est publié occasionnellement par le | <ul style="list-style-type: none"> - Lors du Comité de Pilotage, une presse soit audiovisuelle soit écrite est venue pour interviewer le secrétaire exécutif de la COMIFAC et/ou le représentant résident du bureau JICA au Cameroun et un article est diffusé ou publié sur le journal concernant les activités du Projet. |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>Secrétariat Exécutif de la COMIFAC ;</p> <ul style="list-style-type: none"> - Films vidéo produits au moment de la table ronde et/ou la plateforme CNC ; - Brochure du Projet préparé par le projet intitulé « S'unir pour la gestion durable des forêts en Afrique centrale : Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC) et l'appui du Japon | <p>-Exemples de films vidéo : « Round Table Workshop-New policies for the conservation and sustainable forest ecosystems management in Central Africa-revised COMIFAC Convergence Plan » au Rwanda et «Plan de convergence, Bilan et Défi – Gabon »</p> |
|--|--|---|

Normalement l'objectif du projet doit être réalisé à la fin du projet. Mais, pour le présent projet, si l'on analyse l'état de sa réalisation, le constat du fait que les indicateurs ne sont pas totalement atteints sauf l'indicateur 4 ne permet pas de dire que l'objectif du projet est réalisé à la fin du projet. Cependant, on ne peut nier non plus que le projet a bien contribué à réaliser partiellement l'objectif du projet à travers la réalisation des résultats attendus.

3. Historique des modifications apportées à la Matrice de Concept de Projet (MCP)

Durant la durée du Projet, la Matrice de Concept de Projet (MCP) a été modifiée une seule fois le 27 janvier 2018.

La Version 0 est en date du 18 décembre 2014 et la Version 1 en date du 27 janvier 2018.

4. Autres

4-1 Considérations Environnementales et Sociales (si applicable)

Non applicable.

4-2 Considérations en matière de Genre/Consolidation de la paix/Réduction de la pauvreté (si applicable)

Non applicable

III. Résultats de la Vérification Conjointe de la Réalisation du Projet

1. Modalité de Vérification de la Réalisation du Projet

Pour le présent projet, la JICA, le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC et l'équipe du projet ont initialement convenu de procéder conjointement à une évaluation simple afin de vérifier le degré de réalisation des résultats escomptés du projet, sans tenir compte des 5 critères du CAD. C'est en partant de ce principe qu'une étude préliminaire de vérification de la réalisation a été confiée à un consultant indépendant camerounais qui a mis en œuvre son travail en février 2020.

Cependant, la pandémie du COVID-19 qui persiste à l'échelle mondiale depuis la mi-mars 2020 a empêché les experts japonais et les experts de la COMIFAC de se réunir en face à face au Cameroun pour vérifier ensemble le degré de réalisation des résultats attendus du projet. De ce fait, les experts japonais ont préparé un projet de document de vérification de la réalisation en se référant au rapport de l'étude préliminaire susmentionnée pour lequel les experts du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC ont donné leurs observations en vue de sa finalisation. La section « 2. Achèvement du Projet » plus haut a été rédigée sur la base de la version finale de ce document.

Mais par ailleurs, l'exigence de la JICA en matière de rédaction du rapport d'achèvement de projets a amené les experts japonais à préparer le présent Rapport d'Achèvement du Projet en incluant une évaluation basée sur les cinq critères du CAD à savoir : pertinence, efficacité, efficience, impact et durabilité, qui sera soumis aux commentaires des experts du SE COMIFAC.

2. Résultats de l'évaluation (par rapport aux 5 critères d'évaluation)

Le tableau ci-dessous présente les résultats de l'évaluation.

1) Pertinence

| |
|--|
| Point de vue d'appréciation : Consistance avec la politique supérieure |
|--|

| |
|--|
| La structure cible du présent projet est la Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC) qui est une institution sous-régionale composée de dix pays membres. La mission principale de la COMIFAC est de coordonner, d'harmoniser et de suivre les |
|--|

politiques et initiatives sous-régionales en matière de conservation et de gestion durable des écosystèmes forestiers en Afrique Centrale. A cet effet, la COMIFAC est dotée d'un document d'orientation politique, le Plan de Convergence.

Le présent projet répond justement à plusieurs priorités d'intervention prescrites dans ledit Plan de Convergence, comme l'indique le tableau suivant :

| Priorités d'intervention | Réalisation du Projet |
|--|---|
| Vulgarisation du Plan de Convergence 2 | Appui à l'organisation de la Table Ronde dans 4 pays membres. |
| Opérationnalisation du système de suivi-évaluation de la COMIFAC | Appui à l'organisation de la plateforme de Coordination Nationale de la COMIFAC dans 2 pays membres. |
| Concertation sous-régionale et renforcement des capacités des acteurs | Appui à l'organisation de différentes sessions des Groupes thématiques, GTCCC et GTBAC. |
| Coordination de la mise en œuvre des programmes et projets | Mise en œuvre des formations portant sur l'inventaire et de surveillance des forêts, la gestion des laboratoires de l'APA, et des micro-projets pilotes de gestion collaborative des Aires Protégées Transfrontalières. |
| Participation aux conférences internationales et rencontres régionales | Appui à la participation aux différentes conférences internationales comme COP-CCNUCC, COP-CDB. |
| Organisation des réunions statutaires | Appui à l'organisation du 10 ^{ème} Conseil des Ministres des pays membres de la COMIFAC (juillet 2019). |
| Niveau de pertinence : | Les activités du Projet sont bien en ligne avec les priorités d'intervention définies dans le Plan de convergence et elles ont beaucoup contribué à leur réalisation. De ce fait, on peut dire que la pertinence du Projet est relativement élevée. |

2) Efficacité

Points de vue d'appréciation 1 :

Les résultats générés ont-ils effectivement contribué à la réalisation de l'objectif du

| | |
|---|--|
| projet ? | |
| <p>Dans le présent projet, les activités visant à renforcer les capacités ont été mises en œuvre et leurs résultats ont été synthétisés sous forme de trois guides. Quant à l'objectif du projet, ses indicateurs exigent le reflet de ces produits sur les politiques nationales des pays membres de la COMIFAC. Cependant, bien que les résultats soient effectivement générés sous forme de guides, il y a un écart temporel entre la génération de ces résultats et leur reflet sur les politiques nationales des pays membres.</p> <p>Par conséquent, on ne peut pas forcément affirmer que les résultats générés aient contribué, de façon directe, à la réalisation de l'objectif du projet.</p> <p>Néanmoins, il faudrait souligner que des outils de base sont en place pour favoriser la réalisation de l'objectif du projet.</p> | |
| Points de vue d'appréciation 2 : | |
| L'objectif du projet est-il réalisé avant la fin du projet ? | |
| Comme mentionné plus haut, étant donné qu'il y a une distance temporelle entre la génération des résultats et la réalisation de l'objectif du projet, nous sommes contraints de dire que l'objectif n'a pas été réalisé avant la fin du projet. | |
| Niveau d'efficacité | Compte tenu des deux points énoncés plus haut, le niveau d'efficacité est relativement bas. Mais, cela provient du fait que l'objectif du projet est peu réaliste en raison d'un saut de logique de la Matrice de Concept du Projet. |

3) Efficience

| |
|--|
| Points de vue d'appréciation 1 : |
| Budget du Projet : Les dépenses de la partie japonaise sont-elles restées dans les limites prévues ? |
| Budget indiqué dans les Plan de Travail Annuel : 980.859.100 XAF (¥187.658.000) Dépenses réelles : 965.860.000 XAF (¥184.788.000) |
| Points de vue d'appréciation 2 : |
| Durée du Projet : La durée du projet est-elle inchangée ? |
| Le projet était initialement prévu pour une durée de cinq ans à compter de la date de l'arrivée d'un premier expert japonais au Cameroun (le 12 août 2015). Cependant, à l'approche de la fin du projet, c'est-à-dire de mars-août, dû à la crise du COVID-19, l'envoi des experts japonais a été suspendu et le personnel camerounais a été contraint de travailler à domicile par suite du confinement. |

En vue d'assurer en dépit de ces circonstances la mise en œuvre des activités restantes telles que l'atelier de synthèse du projet et la dernière session du dernier Comité de Pilotage, le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC et la JICA se sont accordés pour prolonger la durée du projet jusqu'à la fin d'octobre 2020 (Le Procès-Verbal y afférent est signé le 8 août 2020).

Points de vue d'appréciation 3 :
 Rapport cause et effet : Les activités sont-elles appropriées pour produire les résultats attendus ?
 Les inputs du projet sont-ils effectués à temps avec la quantité et la qualité appropriées ?

Les livrables majeurs du présent projet sont : i) Guide Sous-Régional d'Inventaire et de Surveillance des Forêts, ii) Guide de Bonnes Pratiques de Gestion des Laboratoires des Ressources Génétiques des pays de l'espace COMIFAC et iii) Guide de la Gestion Collaborative des Aires Protégées Transfrontalières dans le cadre de la valorisation des Produits Forestiers Non Ligneux.
 Avant de produire les guides 1) et 2) ci-dessus, le projet a mis en œuvre, pour chaque domaine concerné, une étude sur l'état des lieux dans les pays membres de la COMIFAC, dont les résultats ont servi à l'élaboration des programmes de formations. Le guide 1) est un fruit des trois sessions de formations en surveillance des forêts (volet télédétection, volet inventaire forestier et volet rédaction de rapports). Le guide 2) a été élaboré au travers des deux formations tenues au Rwanda et un atelier de contact entre les chercheurs de la sous-région et les représentants du secteur privé japonais réalisé à Douala, Cameroun. Quant au guide 3), il a été produit à l'issue de la mise en œuvre des projets-pilotes dans le segment Congo et dans le segment Cameroun de la TRIDOM.
 Ces apports de contributions ont permis de réaliser les produits livrables conformément aux attentes.

| | |
|---------------------|--|
| Niveau d'efficience | Les inputs du projet en temps opportun et en quantité et qualité appropriée ont permis de produire les résultats attendus. De ce fait, on peut dire que le niveau d'efficience est relativement élevé. |
|---------------------|--|

4) Impact

| |
|---|
| Points de vue d'appréciation 1 : |
| Perspective de l'atteinte de but global |
| Généralement, le but global d'un projet est fixé pour qu'il soit atteint trois ans après la |

| | |
|--|---|
| <p>fin du projet.</p> <p>Dans le cadre du présent Projet, le but global est « La conservation et la gestion durable de l'écosystème forestier dans les pays membres de la COMIFAC sont promues ».</p> <p>Une analyse détaillée est faite dans le chapitre IV. Mais en bref, il y a une possibilité d'atteindre le but global si le CNC de chaque pays membre fait une promotion de la mise en pratique des guides produits par le projet en élaborant un plan de leur vulgarisation.</p> | |
| <p>Points de vue d'appréciation 2 :</p> <p>Rapport de cause et effet entre le but global et l'objectif de projet</p> | |
| <p>L'objectif du projet est «la mise en œuvre du Plan de Convergence est promue à travers le renforcement des capacités organisationnelles de la COMIFAC ». Il est stipulé que l'objectif du projet doit être atteint à la fin du projet. Cependant, si l'on examine attentivement les indicateurs de réalisation de l'objectif de projet, on a l'impression que ces indicateurs correspondent plutôt au but global.</p> | |
| <p>Points de vue d'appréciation 3 :</p> <p>Effets d'entraînement</p> | |
| <p>Parmi les 4 indicateurs de réalisation de l'objectif de projet, les trois premiers indicateurs ne sont pas entièrement atteints mais l'ossature de base est solidement établie pour qu'ils soient atteints un jour ou l'autre. La mise en valeur des produits livrables que sont les guides pratiques devrait permettre à la COMIFAC de réaliser l'objectif du projet.</p> <p>Une mention particulière est à faire en ce qui concerne l'initiative prise par les participants aux sessions de formation en gestion de laboratoires APA : ceux-ci ont mis sur pied une plateforme (un réseau) des chercheurs de la sous-région, par le biais de laquelle la JICA pourrait organiser une formation au Japon qui leur sera bénéfique, portant sur la valorisation des ressources génétiques.</p> | |
| Niveau d'impact | Compte tenu de tout ce qui est énoncé plus haut, on peut dire que le niveau d'impact est moyen. |

5) Durabilité

| | |
|--|---------|
| <p>Points de vue d'appréciation 1 :</p> <p>Perspective du point de vue politique et institutionnelle</p> | |
| <p>En fait, les orientations politiques de la COMIFAC sont clairement définies dans le plan de convergence et il ne reste plus qu'à le mettre en œuvre. A cet effet, il est attendu que davantage d'efforts soient faits par les pays membres en ce qui concerne le paiement de leur contribution.</p> | |
| Durabilité du point de vue 1 | moyenne |
| <p>Points de vue d'appréciation 2 :</p> <p>Perspective du point de vue de la structure de mise en œuvre</p> | |
| <p>La structure de la mise en œuvre du Plan de Convergence est très bien conçue. Mais pour l'opérationnalisation effective de celle-ci, la première nécessité consiste en une</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>mobilisation de ressources financières suffisantes et stables de la part des pays membres.</p> <p>Par ailleurs, par rapport au volume de travail, le nombre d'experts et de personnel de soutien administratif et logistique est insuffisant. Il est souhaitable de renforcer l'efficience du travail et d'augmenter l'effectif du personnel afin d'assurer un meilleur fonctionnement de la structure.</p> | |
| Durabilité du point de vue 2 | Compte tenu de l'instabilité financière et le manque de personnel, le niveau de la durabilité de cette structure est moyen. |
| <p>Points de vue d'appréciation 3 :</p> <p>Perspective d'avenir du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC du point de vue technique</p> | |
| <p>Les experts qui travaillent au sein du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC disposent de hautes compétences techniques dans leur domaine respectif.</p> <p>La présence continue de ces experts devra permettre au SE COMIFAC de maintenir le niveau élevé de ses capacités techniques, toutefois, il est souhaitable de recruter de nouveaux experts de chaque domaine afin de garantir la succession des techniques.</p> | |
| Durabilité du point de vue 3 | moyenne |
| <p>Points de vue d'appréciation 3 :</p> <p>Perspective du point de vue financière</p> | |
| <p>Le facteur le plus important et crucial pour la COMIFAC est la stabilité financière. Les ressources financières de la COMIFAC proviennent des contributions des Etats membres, cependant, le non-paiement des contributions par plusieurs pays rend sa base financière très précaire. Conscient de la gravité de cette situation, le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC tente continuellement de trouver des solutions à ce problème qui persiste.</p> <p>La COMIFAC devrait prendre en charge au moins des dépenses de personnel afférentes au personnel statutaire, aux experts et au personnel administratif du Secrétariat Exécutifs, cependant, sa situation financière actuelle ne lui permet pas d'assurer cette prise en charge. Ces circonstances ont conduit jusqu'ici les partenaires techniques et financiers à apporter leur appui non seulement à la réalisation de projets et de programmes, mais également à la prise en charge des coûts d'organisation de différentes réunions, incluant même des réunions statutaires comme le Conseil des ministres. A moins que la COMIFAC réduise cette dépendance excessive en matière financière, il serait très difficile pour les partenaires de continuer à apporter leur appui.</p> | |
| Durabilité du point de vue 4 | basse |

| | |
|-------------------------------|--|
| Niveau de durabilité générale | Le critère le plus important pour apprécier le niveau de durabilité est la stabilité financière. La durabilité de tous les autres aspects dépend de cette stabilité. De ces points de vue, force est de constater que le niveau de durabilité des activités introduites par le présent projet est relativement bas à moins que la base financière de la COMIFAC ne soit renforcée. |
|-------------------------------|--|

3. Facteurs clés affectant la mise en œuvre du Projet

Deux principaux facteurs affectant la mise en œuvre du projet ont été observés à savoir : 1) difficulté d'assurer la communication constante entre l'équipe du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC (SE COMIFAC) et l'équipe du Projet, et 2) changements de calendrier de travail au dernier moment.

1) Difficulté d'assurer la communication constante :

Etant donné la nature de la coopération technique de la JICA, les experts japonais ne sont pas présents en permanence à Yaoundé où se trouve le siège de la COMIFAC. Quant aux experts du SE COMIFAC ils sont souvent absents en effectuant des voyages en mission. Par conséquent, il est difficile d'avoir des occasions de discuter en face à face.

Les échanges par courriels n'ont pas pu suffire à combler les lacunes de communication en temps opportun. Il a même été difficile, notamment au début du projet, que les deux parties comprennent la façon de travailler de l'une et l'autre. Certaines activités n'ont pas pu démarrer aux dates prévues, en raison du fait que les décisions ne peuvent être prises qu'après plusieurs échanges d'e-mails.

Face à ces difficultés, les experts japonais se sont efforcés d'expliquer les principes de la coopération japonaise, chaque fois que l'occasion se présentait pour contacter leurs homologues. Ces efforts ont contribué, au fur et à mesure de l'avancement du projet, à améliorer les compréhensions mutuelles entre les experts japonais, le personnel du SE COMIFAC et les points focaux des différents groupes de travail des pays membres.

2) Changement de calendrier de travail au dernier moment :

En principe, les activités de la COMIFAC sont programmées dans le cadre du Plan de Travail Annuel (PTA) qui est élaboré par le biais d'un atelier de planification réunissant les représentants du SE COMIFAC et des partenaires

techniques et financiers. Les acteurs des différents projets et programmes concernés, y compris le Projet-JICA, préparent leurs plans de travail annuels respectifs, préalablement à la tenue dudit atelier.

Mais ce qui est problématique est qu'il arrive souvent que des changements soient apportés aux dates de réunions sous-régionales au dernier moment. De tels changements inattendus ont entraîné des perturbations importantes à différents niveaux, imposant parfois des dépenses inutiles. Les conséquences en sont préjudiciables notamment au niveau logistique : il y a parfois eu lieu de changer et d'annuler des billets de avions en payant des pénalités.

Il y a d'autres cas où des activités s'ajoutent soudainement à celles qui sont prévues dans le PTA, et des appuis financiers sont demandés pour leur réalisation. Cette façon de procéder permet très difficilement au projet de prendre des dispositions nécessaires.

Tout ce qui précède peut être considéré comme étant des facteurs affectant la bonne marche des activités du projet.

- 3) Exigence de la présence d'un expert japonais à toutes les réunions organisées par la COMIFAC avec l'appui du projet :

Aux yeux des experts de la COMIFAC, ce qui imposait parfois la COMIFAC de s'arrimer au calendrier des experts japonais pour programmer les ateliers avec l'appui technique et financier par le projet.

4. Evaluation sur la Gestion des Risques du Projet

Le plus grand risque auquel le présent projet est exposé est la précarité de la situation financière de la COMIFAC. Malgré les grands efforts continuels déployés par les anciens et nouveaux personnels statutaires du SE COMIFAC, ce problème reste non résolu.

Le présent projet ne peut pas apporter un grand appui pour remédier à l'instabilité financière de la COMIFAC étant donné qu'il est réalisé au titre de la coopération technique dont la priorité est axée sur l'appui technique, et non financier. Mais tout de même, le projet a entrepris certaines mesures en vue de mitiger ce risque qui peut entraver les activités des experts du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC.

Ces mesures consistent, entre autres, à prendre en charge les frais de déplacement de ces experts lorsque leurs missions sont effectuées en vue de l'atteinte de l'objectif du projet, sous réserve de la présentation d'un compte-rendu pour chaque mission.

5. Leçons Tirées

Les paragraphes suivants résument les leçons tirées du projet, ressorties de l'analyse des difficultés rencontrées au cours de sa mise en œuvre.

Le présent projet est réalisé dans le cadre d'une approche régionale mise en place par la JICA. Il s'agit d'entreprendre une coopération avec plusieurs pays par le biais d'une institution sous-régionale composée de plusieurs pays membres.

L'institution ciblée par le présent projet est la Commission des Forêts d'Afrique Centrale (COMIFAC). Tous les pays membres de cette institution en sont bénéficiaires, et de ce fait, lors de la mise en œuvre des activités, il y a lieu d'assurer une coordination avec tous les pays membres et non avec un seul, en y consacrant beaucoup de temps. Au début, pour l'équipe japonaise qui travaillait d'habitude dans le cadre des projets bilatéraux où elle assurait la coordination avec des services techniques d'un seul pays, il était difficile de comprendre pourquoi le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC prenait autant de temps pour réaliser ses fonctions telles que l'organisation de différentes réunions.

Il est vrai qu'il y a certains points à améliorer au sein du SE COMIFAC parmi lesquels l'insuffisance de communication avec les pays membres. Toutefois, de notre côté, nous devons élaborer les plans d'activités avec une certaine marge de temps tout en tenant compte des difficultés d'assurer la coordination entre plusieurs pays au sein desquels le niveau de volonté n'est pas toujours uniforme.

Par exemple, lorsque l'on organise une session du GTCCC, la première démarche à entreprendre est la détermination du lieu de la réunion suivi de la préparation de l'agenda et des échanges d'e-mails entre le SE COMIFAC et les points focaux GTCCC de chaque pays membre. L'ensemble de ces opérations nécessitent au moins 3 à 6 mois, voire plus. Les dates peuvent être changées à tout moment suivant les circonstances particulières de chaque pays membre.

Pour le problème de l'instabilité financière, il est évident que des solutions doivent être trouvées par la COMIFAC elle-même. Les partenaires techniques et financiers ne peuvent pas et ne doivent pas jouer un rôle principal à l'égard d'un tel problème. Lorsque ceux-ci décident d'apporter un appui à ce type d'institution, ils doivent déterminer clairement la répartition des tâches tant sur le plan technique que sur le plan financier

entre l'institution concernée et les partenaires au stade de la formulation du projet ou du programme afin d'éviter des problèmes pouvant survenir ultérieurement.

Même s'il s'agit d'une coopération technique, il est nécessaire que les partenaires prennent en charge des frais nécessaires pour la mise en œuvre des activités prévues.

L'idéal est que l'institution bénéficiaire comme la COMIFAC assure elle-même les frais de fonctionnement de son Secrétariat, y compris les frais liés au personnel administratif et technique, tandis que les partenaires prennent en charge uniquement des coûts nécessaires à la mise en œuvre des activités.

Avec cette manière de partager les dépenses, la relation de collaboration entre une telle institution et les partenaires peut être maintenue

Pour terminer cette partie du rapport qui concerne les leçons tirées, il convient de mentionner un commentaire formulé par le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC : Dans son observation qui porte sur le recrutement d'expert, il est à recommander de privilégier le recrutement de l'expertise locale (sous-régionale) dans la mise en œuvre des activités, en expliquant qu' en termes de durabilité, ceci permettra que les savoir-faire et connaissances techniques capitalisées resteront toujours sur place après la fin du projet. Cette remarque est pertinente car la présence d'un expert qui connaît bien les circonstances locales est de plus en plus indispensable pour une meilleure gestion des projets, gestion qui s'appuie sur une étroite communication entre les projets et leurs homologues.

IV. Pour l'atteinte du But Global après l'Accomplissement du Projet

1. Perspective d'atteinte du But Global

La perspective d'atteinte du but global est analysée en suivant les indicateurs définis à cette fin.

Indicateur 1 : Les bases de données sur les inventaires des ressources forestières sont disponibles dans 8 pays membres de la COMIFAC.

Indicateur 2 : Le système national de surveillance et le suivi du couvert forestier est mis en place et opérationnel dans tous les pays membres de la COMIFAC.

L'indicateur de l'objectif de projet y relatif est : « Le système de surveillance des ressources forestières est amélioré dans au moins 8 pays membres de la COMIFAC ». Pour mettre en place un système national de surveillance des forêts, il est nécessaire de faire des investissements énormes tant sur le plan technique que sur le plan

financier. Il convient de noter sur ce point que la réalisation de ce type d'investissement ne fait pas partie du mandat de la COMIFAC. Son mandat est d'encourager les pays membres à mettre en place leur propre système de surveillance des forêts, et le présent projet a permis à la COMIFAC de réaliser cette mission par le biais des formations qui ont contribué à renforcer les capacités techniques des participants venant de plus de 8 pays et aidé ainsi à construire une base pour le développement du système dans ces pays respectifs. L'atteinte du but global est possible si les pays membres de la COMIFAC exploitent efficacement le Guide d'inventaire et de surveillance des forêts, un des livrables du projet, pour formuler un projet ou un programme approprié à la situation propre à chacun, et trouve un partenaire d'appui pour sa réalisation.

Indicateur 3 : Au moins 50% des résultats escomptés du plan d'action sous-régional et la stratégie nationale sur la gestion et le développement des aires protégées sont atteints avant 2025.

Le présent projet a mis en œuvre un projet pilote dans des aires protégées transfrontalières à l'issue duquel les bonnes pratiques réalisées ont été synthétisées sous forme d'un Guide de gestion collaborative des aires protégées transfrontalières. En se référant à ce guide, il est possible de mettre en pratique les principes de gestion collaborative basée sur la valorisation des produits forestiers non ligneux.

2. Plan d'opérations et structure d'exécution de la COMIFAC visant l'atteinte du But Global

La clé pour atteindre le but global réside dans la mise en valeur efficace des guides élaborés par le présent projet sur trois thèmes, à savoir le système de surveillance des forêts, la gestion des laboratoires des ressources génétiques et la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières.

A cet effet, on suggère que les actions énumérées ci-dessous devraient être prises par le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC et les CNC :

- Le SE COMIFAC publie les trois guides sur son site Web ;
- Le SE COMIFAC mentionnera l'élaboration d'un plan de vulgarisation dans son plan de travail 2021 et 2022 ;
- A l'occasion des réunions des groupes de travail thématiques, les experts de la COMIFAC préconisent aux CNC concernés par les thèmes respectifs la nécessité d'élaborer un plan de vulgarisation des guides ;
- Les CNC proposent dans son plan de travail 2021 et 2022 l'organisation d'un atelier de vulgarisation des guides, en essayant de trouver un partenaire

technique et financier. ;

- En ce qui concerne le Guide de Bonnes Pratiques de Gestion des Laboratoires des Ressources Génétiques des pays de l'espace COMIFAC, le SE de la COMIFAC devra travailler avec la plateforme des chercheurs sous-régionaux. Le travail consistera à promouvoir des recherches conjointes avec des institutions de recherche publiques et privées des pays avancés incluant le Japon. La JICA prévoit d'organiser une formation au Japon à l'intention des chercheurs de la sous-région à partir de l'année fiscale (allant d'avril à mars) 2021. Pour la sélection des participants à cette formation, il est souhaitable que l'expert en biodiversité du SE COMIFAC prenne contact non seulement avec les personnes chargées des formations les points focaux APA de chaque pays, mais aussi, notamment, avec les membres de ladite plateforme pour que ceux-ci y prennent part.

3. Plan de Suivi depuis la fin du Projet jusqu'au moment de l'Evaluation postérieure

C'est principalement le Bureau JICA au Cameroun qui s'occupe du suivi des actions à prendre par le Secrétariat Exécutif de la COMIFAC et les CNC, car le siège du Secrétariat se situe à Yaoundé au Cameroun.

De manière concrète, le suivi se fera de manière suivante :

- Le bureau JICA au Cameroun confirme que les trois guides sont publiés sur le site Web de la COMIFAC ;
- Le bureau JICA au Cameroun prendre contact avec les experts du SE COFAC concernés par les thèmes respectifs, en leur demandant à quel moment ils ont suggéré aux CNC l'élaboration d'un plan de vulgarisation des guides et quelle a été leur réaction afin de connaître l'état d'avancement de l'élaboration du plan de vulgarisation des guides.

ANNEXE 1 : Résultats du Projet

Liste des Experts Japonais

Liste des Homologues

Liste des Formations et Réunions

Liste des Experts Japonais

| NOM | Domaine d'intervention |
|---------------------|---|
| MIZUSHINA Shu | Chef du projet / Changement Climatique (1) |
| MATSUMOTO Junichiro | Adjoint au Chef du Projet / Changement Climatique (2) |
| SASAKAWA Hiroshi | Adjoint au Chef du Projet / Surveillance des forêts |
| NIMURA Satoshi | Conservation de la Biodiversité (1) |
| NUMATA Keiichi | Conservation de la biodiversité (2) |
| SHIBAHARA Seiji | Conservation de la Biodiversité (2) -2 |
| SATO Koyo | Gestion administrative / Amélioration des conditions de vie (1) |
| HIRAI Masaaki | Gestion administrative / Amélioration des conditions de vie (2) |
| HORI Maya | Gestion administrative / Changement Climatique (3) |
| KOYAMA Tomohiro | Interprète |
| OSHIMA Miho | Interprète(2) |
| SERIZAWA Kiharu | Interprète(3) |
| SUZUKI Gentaro | Interprète(4) |

Liste des Homologues (Membres du SE COMIFAC)

L'équipe statutaire de la COMIFAC est composée d'un Secrétaire Exécutif, d'un Secrétaire Exécutif Adjoint et d'un Directeur Administratif et Financier.

| N° | NOMS | TITRE |
|----|-------------------------------------|--|
| 1. | Raymond NDOMBA NGOYE | Secrétaire Exécutif |
| 2. | Gervais Ludovic ITSOUA MADZOUS | Secrétaire Exécutif Adjoint |
| 3. | EKANE Cosmas NZUOBONTANE | Directeur Administratif et Financier |
| 4. | NCHOUTPOUEN CHOUAIBOU | Expert Biodiversité/Coordonnateur APA |
| 5. | Tite Valerie TCHUANTE | Expert Suivi-Evaluation/Coordonnateur ODD |
| 6. | Michel NDJATSANA | Expert en Environnement |
| 7. | NGO YEBEL Louissette epse FOUNGA | Experte-Communicatrice |
| 8. | Jean Claude KENFACK | Comptable |

| | | |
|-----|----------------------|---------------------------|
| 9. | Elizabeth AYUK KOUAM | Assistante/SPM |
| 10. | DJONKOU Celine NANA | Secrétaire-Réceptionniste |

Liste des Formations et Réunions

| N° | Titre | Date | Lieu | Nombre de participants |
|-----------|--|---------------|------------------------|-------------------------------|
| 1 | Réunion de concertation sur les activités liées au volet APA du Projet JICA d'appui à la COMIFAC | 2015/9/3 | Yaoundé, Cameroun | *** |
| 2 | Congrès Forestier Mondial | 2015/9/7-11 | Durban, Afrique du Sud | *** |
| 3 | L'Atelier sous-régional de préparation des échéances futures sous la convention cadre des nations unies sur les changements climatiques (CCNUCC) | 2015/9/16-18 | Douala, Cameroun | *** |
| 4 | Réunion Groupe de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale | 2015/11/14-15 | *** | *** |
| 5 | Conseil des Ministres de la COMIFAC | 2015/11/28-30 | Kigali, Rwanda | *** |
| 6 | Comité de Pilotage du Projet pour la Promotion de la Conservation et de l'utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre la Changement Climatique dans le pays de la COMIFAC | 2016/1/25 | Douala, Cameroun | *** |
| 7 | Atelier de Lancement officiel du Projet pour la Promotion de la Conservation et de l'utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre la Changement Climatique dans le pays de | 2016/1/26 | Douala, Cameroun | 46 |

| | | | | |
|-----------|---|-----------------|------------------|-----|
| | la COMIFAC | | | |
| 8 | Atelier de validation du Guide de négociation et de mise en œuvre des APV/FLEGT en Afrique CENTRALE | 2016/4/11-12 | Douala, Cameroun | 32 |
| 9 | Atelier sous régional de décryptage des conclusions de la COP 21 et de préparation des échéances futures sous la CCNUCC | 2016/5/2-4 | Douala, Cameroun | 44 |
| 10 | Séminaire de vulgarisation du Plan de Convergence 2 | 2016/5/7 | *** | *** |
| 11 | Troisième session de renforcement des Capacités des Coordonnateurs Nationaux COMIFAC et autres acteurs sur la plateforme de suivi-évaluation de la mise en œuvre du Plan de convergence | 2016/5/30-6/3 | Douala, Cameroun | 52 |
| 12 | L'Atelier sous-régional de renforcement des capacités en finance climatique en Afrique Centrale | 2016/9/26-27 | Douala, Cameroun | 40 |
| 13 | L'Atelier sous-régional de revue des Directives et Autres Instruments Clés de la COMIFAC | 2016/10/31-11/2 | Douala, Cameroun | 53 |
| 14 | L'Atelier de Concentration des Coordinations Nationales COMIFAC et de Restitution des données | 2016/11/3-5 | Douala, Cameroun | 51 |

| | | | | |
|-----------|---|---------------|----------------------------------|-----|
| | des Indicateurs de Plan de Convergence 2 | | | |
| 15 | 24ème réunion du Groupe de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale (GTBAC) | 2016/11/14-17 | Brazzaville, République du Congo | 40 |
| 16 | Conseil des Ministres de la COMIFAC | 2016/11/27-29 | Kigali, Rwanda | 53 |
| 17 | Deuxième réunion de la Conférence des Parties | 2016/12/4-17 | Cancún, Mexique | 50 |
| 18 | Atelier de Validation du Rapport TRIDOM | 2017/1/25 | Douala, Cameroun | 23 |
| 19 | 2ème réunion du Comité de pilotage du Projet JICA COMIFAC | 2017/1/26 | Douala, Cameroun | 18 |
| 20 | L'Atelier sous régional de préparation des échéances futures sous la convention climat (CCNUCC) | 2017/3/9-11 | Kigali, Rwanda | 36 |
| 21 | Réunion préparatoire des pays membres de la COMIFAC à la 12ème session du Forum des Nations Unies sur les Forêts (FNUF) | 2017/4/10-11 | Douala, Cameroun | 50 |
| 22 | 25ème réunion Group de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale | 2017/4/24-26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 23 | 6ème Réunion du sous Group du Travail sur les Aires Protégées et la Faune Sauvage | 2017/4/27-29 | Douala, Cameroun | 20 |
| 24 | Table ronde sur la vulgarisation du Plan de Convergence 2 | 2017/6/17 | Bata, Guinée équatoriale | 120 |

| | | | | |
|-----------|---|-------------------|---|-----|
| 25 | L'Atelier sous régional de validation des notes conceptuelles des projets régionaux des Pays du Bassin du CONGO | 2017/6/22-24 | Malabo, Guinée équatoriale | 50 |
| 26 | L'Atelier sous régional sur l'état des lieux de la mise en œuvre des niveaux de référence, des systèmes MRV et des sauvegardes dans les pays du Bassin du Congo | 2017/7/17-21 | Libreville, Gabon | 80 |
| 27 | L'Atelier sous régional de renforcement de capacités et de préparation des échéances futures sous la CCNUCC | 2017/8/28-30 | Brazzaville, République du Congo | 60 |
| 28 | L'Atelier de lancement du Micro-projet Pilot par le Projet JICA d'appui à la COMIFAC | 2017/8/30 | Gribé, Cameroun | 150 |
| 29 | L'Atelier de formation des gestionnaires et techniciens des laboratoires sur les ressources génétiques | 2017/9/18-23 | Kigali, Rwanda | 21 |
| 30 | Table ronde sur la vulgarisation du Plan de Convergence 2 | 2017/9/29 | Kinshasa, République Démocratique du Congo | 120 |
| 31 | Partenariat pour les forêts du Bassin du Congo (PFBC) | 2017/10/24- 27 | Douala, Cameroun | *** |
| 32 | Tokyo International Conference on the Forest Governance Initiative | 2017/10/24- 25 | Tokyo, Japon | *** |

| | | | | |
|-----------|--|---------------|--------------------|-----|
| 33 | Conférence de Bonn de 2017 sur les changements climatiques | 2017/11/6-17 | Bonne, Allemagne | *** |
| 34 | Concertation pour une gestion collaborative dans le cadre du Micro-projet pilot | 2017/11/28-29 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 35 | L'Atelier sous régional sur la surveillance des forêts avec l'utilisation des techniques de télédétection | 2017/12/4-8 | Mbalmayo, Cameroun | 15 |
| 36 | 7ème réunion du SGTAPFS sur la capitalisation des bonnes pratiques des PPP dans les aires protégées d'Afrique Centrale | 2017/12/4-8 | Libreville, Gabon | 29 |
| 37 | Ouverture du marché hebdomadaire et Concertation sur la valorisation des PFNLs végétaux dans le cadre du Micro-projet pilote | 2017/12/30 | Gribé, Cameroun | 160 |
| 38 | 26ème réunion Group de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale | 2018/1/15-18 | *** | *** |
| 39 | L'Atelier de présentation des résultats obtenus à la fin de l'année 2017 | 2018/1/26 | Douala, Cameroun | 50 |
| 40 | 3ème réunion du Comité de Pilotage du Projet JICA COMIFAC | 2018/1/27 | Douala, Cameroun | 30 |
| 41 | Atelier d'élaboration du PTA COMIFAC 2018 | 2018/1/29-30 | Kribi, Cameroun | *** |
| 42 | Concertation pour une Gestion Collaborative entre les parties prenantes | 2018/2/8 | Gribé, Cameroun | 60 |

| | | | | |
|-----------|--|--------------|--|-----|
| | associées à la gestion l'UFA, dans le cadre du Micro-projet pilote | | | |
| 43 | Concertation pour une Gestion Collaborative entre les parties prenantes associées à la gestion l'UFA, dans le cadre du Micro-projet pilote | 2018/2/9 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 44 | L'Atelier sous-régional de préparation des échéances futures sous la convention cadre des nations unies sur les changements climatiques (CCNUCC) | 2018/2/13-14 | Brazzaville, République du Congo | 50 |
| 45 | Commission des Forêts d'Afrique Centrale CONSEIL EXTRAORDINAIRE ORDINAIRE DES MINISTRES | 2018/3/13-15 | Brazzaville, République du Congo | 122 |
| 46 | Concertation pour une Gestion Collaborative entre les parties prenantes associées à la gestion l'UFA, dans le cadre du Micro-projet pilote | 2018/3/15 | Gribé, Cameroun | 60 |
| 47 | Sessions Extraordinaire de la 3ème réunion du Comité de pilotage du Projet JICA COMIFAC | 2018/5/23 | Douala, Cameroun | 13 |
| 48 | La première Réunion sur le Livre du Référence pour la Gestion Collaborative de la Forêt dans la zone du TRIDOM | 2018/5/24 | Douala, Cameroun | 5 |

| | | | | |
|-----------|---|---------------|--------------------------|-----|
| 49 | Table ronde sur la vulgarisation du Plan de Convergence 2 | 2018/5/29 | Kigari, Rwanda | 100 |
| 50 | L'Atelier sous régional de formation en inventaire forestier dans le cadre de la surveillance des forêts | 2018/6/4-8 | Libreville, Gabon | 21 |
| 51 | 27ème réunion Groupe de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale | 2018/6/13-16 | Douala, Cameroun | 42 |
| 52 | L'ATELIER SOUS REGIONAL DES PAYS DE L'ESPACE COMIFAC SUR LA GESTION DU LABORATOIRE POUR LA BIOPROSPECTION | 2018/7/30-8/3 | Huye, Rwanda | 37 |
| 53 | 28ème réunion Groupe de Travail Biodiversité d'Afrique Centrale | 2018/10/15-19 | Bata, Guinée équatoriale | 79 |
| 54 | L'Atelier sous-régional de préparation des échéances futures sous la convention cadre des nations unies sur les changements climatiques (CCNUCC) | 2018/10/16-18 | Kribi, Cameroun | 30 |
| 55 | Conférence des Parties – Convention sur la diversité biologique | 2018/11/13-29 | Sharm El Sheikh | 4 |
| 56 | Table ronde sur les nouvelles orientations de la conservation et de la gestion durable des écosystèmes forestiers en Afrique centrale à travers le plan de convergence révisé | 2018/11/22 | Libreville, Gabon | 100 |

| | | | | |
|----|---|---------------|----------------------------------|-----|
| | de la COMIFAC | | | |
| 57 | Conférence de Katowice de 2018 sur les changements climatiques | 2018/12/3-14 | Katowice, Poland | *** |
| 58 | L'Atelier de présentation des résultats obtenus à la fin de l'année 2018 | 2019/1/31 | Douala, Cameroun | 32 |
| 59 | 4ème réunion du Comité de Pilotage du Projet JICA COMIFAC | 2019/2/1 | Douala, Cameroun | 22 |
| 60 | Atelier d'élaboration de PTA COMIFAC 2019 | 2019/2/27-3/1 | Nlokandom, Cameroun | *** |
| 61 | Formation en surveillance des forêts -Volet Rédaction de rapport- | 2019/3/4-8 | Brazzaville, République du Congo | 20 |
| 62 | L'Atelier sous régional de restitution des résultats de la CdP24 | 2019/3/5-7 | Malabo - Guinée Equatoriale | 40 |
| 63 | Atelier de lancement | 2019/4/25 | Sembé, Cameroun | *** |
| 64 | Plat forme des Points Focaux thématiques du secteur forêts et environnement au sein du Groupe National d'appui à la Coordination National COMIFAC | 2019/6/7-8 | Brazzaville, République du Congo | 27 |
| 65 | 50èmes sessions de SBI et SBSTA | 2019/6/17-27 | Bonn, Allemagne | 2 |
| 66 | 10ème session du Conseil des Ministres de la COMIFAC | 2019/7/9-11 | Yaoundé, Cameroun | 82 |
| 67 | Workshop for the Design of REDD+ Projects in Africa | 2019/8/13-16 | Abidjan, Côte d'Ivoire | *** |
| 68 | Forum d'échange | 2019/9/30- | Douala, | 54 |

| | | | | |
|-----------|---|---------------|------------------|----|
| | d'expérience entre les chercheurs/secteur privé des pays de l'espace COMIFAC en matière d'APA | 10/1 | Cameroun | |
| 69 | Atelier Sous Régional de Préparation de la 25ème session de la Conférence des Parties à la Convention-Cadre des Nations Unies sur les Changements Climatiques (CCNUCC). | 2019/10/28-29 | Douala, Cameroun | 31 |
| 70 | Conférence de Madrid de 2019 sur les changements climatiques | 2019/12/2-13 | Madrid, Espagne | 2 |
| 71 | Atelier de Finalisation du Guide de Bonnes Pratiques en matière de Gestion des Laboratoires sur les Ressources Génétiques des pays de l'espace COMIFAC | 2020/2/12-14 | Kigali, Rwanda | 25 |
| 72 | Capacity building workshop for the operationalization of the Thematic Focal Points platform within the National Support Group for the COMIFAC National Coordination | 2020/2/17-18 | Kigali, Rwanda | 19 |
| 73 | Atelier de validation du Guide Sous Régional d'Inventaire et de Surveillance des forêts | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 19 |
| 74 | Réunion d'examen du guide pour la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières TRIDOM | 2020/3/6 | Douala, Cameroun | 11 |

ANNEXE 2 : Liste des produits

Produits relatifs au Résultat 1

| N° | Titre |
|----|---|
| 1. | Rapport d'étude sur l'état des lieux de la surveillance des ressources forestières des pays de la COMIFAC |
| 2. | Programme et matériels didactiques pour le renforcement du suivi des ressources forestières |
| 3. | Guide sous-régional d'inventaire et de surveillance des forêts |

Produits relatifs au Résultat 2

| N° | Titre |
|----|--|
| 1. | Rapport d'étude sur l'état des lieux de la bioprospection dans les pays de la COMIFAC |
| 2. | Rapport d'étude sur l'état des lieux de la gestion des aires protégées transfrontalières du TRIDOM |
| 3. | Guide de bonnes pratiques de gestion des laboratoires des ressources génétiques des pays de l'espace COMIFAC |
| 4. | Guide de la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières dans le cadre de la valorisation des produits forestiers non-ligneux |

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries

Version: 0

Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission)

Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations

Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries

Project Site: COMIFAC member countries

Project Period: 5 years

Dated: 18 December 2014

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|---|--|--|--|-------------|---------|
| <p>Overall Goal</p> <p>Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Database on forest resource inventory is available in 7 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025). | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose</p> <p>Implementation of the Convergence Plan is promoted through institutional capacity enhancement of COMIFAC</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Forest resource monitoring system is improved in all COMIFAC member countries (concrete target for each COMIFAC member countries will be decided). 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. Communication supports become operational in XXX COMIFAC member countries. | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member countries 3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries | <p>1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed.</p> | | |
| <p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared. 1-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed. 1-3 More than XXX persons have strengthened their knowledge and skills on forest resource monitoring. 1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCCC-COP at least XXX times. | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries 1-2 Training plans and training materials 1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 1-4 Progress report of the project | <ol style="list-style-type: none"> 1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly. 2) Political situation and public security are not changed significantly. | | |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared. 2-2 Training plans and training materials for XXX kinds of course are developed. 2-3 More than XXX persons have strengthened their technical knowledge and skills related to specific issues on ABS. 2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project. 2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBD-COP at least XXX times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues 2-2 Training plans and training materials 2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops 2-5 Progress report of the project</p> | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinations is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning. 3-2 Platforms of actors on the COMIFAC National Coordination are created and functioning well.</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country 3-2 Reports on Platforms meetings and COMIFAC National Coordination meetings.</p> | |
| Activities | | Inputs | |
| <p>1-1 Enhance negotiation capacities of COMIFAC on the issues related to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC). 1-1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change. 1-2 Provide technical support to GTFG meetings and other relevant meetings. 1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025). 1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries. 1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory. 1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion. 1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest inventory. 2-1 Enhance implementation of GTBAC activities 2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant</p> | <p><u>The Japanese Side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of JICA Experts <ol style="list-style-type: none"> 1) Climate Change/ Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed 2. Training <p>Trainings in specific fields in Japan, and/or third countries, /and/or COMIFAC member countries</p> 3. Provision of machinery and equipment 4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate 5. Local operational expenses (Expenses for holding meetings, | <p><u>The COMIFAC Side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Assignment of counterpart personnel <ol style="list-style-type: none"> 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators 2. Provision of office space for JICA Experts 3. Local operational expenses <ol style="list-style-type: none"> 1) Running expenses | <p>Pre-condition</p> <p><Issues and countermeasures></p> |

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the implementation of the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through utilization of existing training framework in the subregion, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps (e.g. Collection of materials in the field, preparatory actions for bioprospecting, data handling).</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities, monitoring of land use change in the pilot area using satellite images and biodiversity monitoring).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-4 Share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries, through utilization of existing framework in the subregion.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | workshops, trainings, and pilot project etc.) | | |
|---|---|--|--|

Notes: There are objectively verifiable indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.

Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Promotion of conservation, sustainable use of biodiversity and climate change issues in COMIFAC countries
 Implementing Agency: COMIFAC (Central African Forests Commission)
 Direct Beneficiaries: COMIFAC Executive Secretariat including Working Groups and COMIFAC National Coordinations
 Indirect Beneficiaries: COMIFAC member countries
 Project Site: COMIFAC member countries
 Project Period: 5 years

Version: 1

Dated: 27 January 2018

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption | Achievement | Remarks |
|---|--|--|--|-------------|---------|
| <p>Overall Goal</p> <p>Conservation and sustainable management of the forest ecosystems in the COMIFAC member countries is promoted.</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved within 5 years after the completion of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Database on forest resource inventory is available in 8 COMIFAC member countries (related to the expected result 2.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 2. The national surveillance and monitoring system on forest cover is in place and operational in all COMIFAC member countries (related to the expected result 4.1.2.1 of the Convergence Plan 2015-2025). 3. At least, 50% of expected results of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area are achieved by 2025 (related to the expected result 3.1.1.6 of the Convergence Plan 2015-2025). | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on national forest resource inventory 2. Reports on national forest resource system 3. Reports on implementation of the sub-regional action plan and the national strategies on management and development of protected area | | | |
| <p>Project Purpose</p> <p>Implementation of the Convergence Plan is promoted through institutional capacity enhancement of COMIFAC</p> | <p>The following indicators are expected to be achieved by the end of the project.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Forest resource monitoring system is improved in at least eight COMIFAC member countries. 2. Strategy for strengthening technical knowledge and skills related to specific issues on ABS, which contributes to the promotion of the ABS national strategy in the COMIFAC member countries, is developed. 3. Good practices and lessons learned of pilot activities implemented under the project in a transboundary protected area are integrated in the transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries. 4. At least 5 communication supports are produced and well used in at least 8 COMIFAC countries. | <ol style="list-style-type: none"> 1. Reports on the national forest resource monitoring system 2. ABS National Strategy of the COMIFAC member countries 3. Transboundary protected area management plan in the COMIFAC member countries 4. Results of questionnaire surveys on communication supports to stakeholders in the COMIFAC member countries | 1) The contents of the Convergence Plan 2015-2025 are not drastically changed. | | |
| <p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The activities related to the Climate Change Working Group (GTCCC) and the Forest Governance Working Group (GTFG) are enhanced | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 A report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of the COMIFAC member countries is prepared. 1-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed. 1-3 More than eighty percent of participants for forest monitoring training have recognized their knowledge and skills strengthened. 1-4 Policy and measures on climate change and sustainable forest management are presented at international conferences including UNFCCC-COP at least three times. | <ol style="list-style-type: none"> 1-1 Report on common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries 1-2 Training plans and training materials 1-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 1-4 Progress report of the project | 1) Overall framework of COMIFAC (including Working Groups and CNCs) is not changed significantly. 2) Political situation and public security are not changed significantly. | | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>2. The activities related to the Biodiversity Working Group (GTBAC) are enhanced.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues in the COMIFAC member countries is prepared. 2-2 Training plans and training materials for three kinds of course are developed. 2-3 More than eighty percent of participants for ABS Laboratory Work training have recognized their knowledge and skills strengthened. 2-4 Good practices and lessons learned of pilot project at transboundary protected area are shared with the COMIFAC member countries in the course of project implementation and compiled in reports on pilot project including technical manual on pilot project. 2-5 Policy and measures on biodiversity are presented at international conferences including UNCBD-COP at least two times.</p> | <p>2-1 A report on common needs and gaps on ABS related technical issues 2-2 Training plans and training materials 2-3 Reports on results of examination of understanding of training participants 2-4 Reports on the pilot project and number of persons participated in workshops 2-5 Progress report of the project</p> | |
| <p>3. The capacity of the COMIFAC National Coordinators is enhanced.</p> | <p>3-1 Monitoring and evaluation system related with implementation of the Convergence Plan and COMIFAC related activities is well functioning. 3-2 Round Table for COMIFAC Convergence Plan Vulgarization is organized in at least four member countries 3-3 The operational capacities of the the COMIFAC National Coordination platforms are strengthened in at least three countries.</p> | <p>3-1 Reports of monitoring and evaluation on implementation of the Convergence Plan at each COMIFAC member country 3-2 Reports on Round Tables and COMIFAC National Coordination meetings. 3-3 Reports on Platform meetings and COMIFAC National Coordination meetings.</p> | |
| <p>Activities</p> | | <p>Inputs</p> | |
| <p>1-1 Provide technical support to GTCCC meetings and other relevant meetings on Climate Change.</p> | <p>The Japanese Side 1. Dispatch of JICA Experts 1) Climate Change/ Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed 2. Training Trainings in specific fields in third countries and/or COMIFAC member countries 3. Provision of machinery and equipment 4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate 5. Local operational expenses</p> | <p>The COMIFAC Side 1. Assignment of counterpart personnel 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators 2. Provision of office space for JICA Experts 3. Local operational expenses 1) Running expenses</p> | <p>Pre-condition</p> |
| <p>1-2 Provide technical support to GTGF meetings and other relevant meetings. 1-3 Enhance the capacity of COMIFAC member countries on forest resource monitoring, which contribute to the Operational Objectives 2.1.2 and/or 4.1.2 of the Convergence Plan (2015-2025). 1-3-1 Identify common needs and gaps on forest resource monitoring system of COMIFAC member countries. 1-3-2 Prepare training plans including training materials based on 1-3-1 to be carried out utilizing knowledge and experiences of relevant JICA's cooperation, such as possibility of ALOS-2 utilization and forest inventory. 1-3-3 Conduct trainings based on 1-3-2 through utilization of existing training framework in the subregion. 1-3-4 Compile the result of 1-3-3 to reflect into the related regional initiatives including the development of a regional guideline of forest monitoring including forest inventory.</p> | <p>The Japanese Side 1. Dispatch of JICA Experts 1) Climate Change/ Sustainable Forest Management 2) Biodiversity Conservation 3) Administrative Coordinator 4) Other specific fields as needed 2. Training Trainings in specific fields in third countries and/or COMIFAC member countries 3. Provision of machinery and equipment 4. Running expenses necessary for the implementation of the Project, as appropriate 5. Local operational expenses</p> | <p>The COMIFAC Side 1. Assignment of counterpart personnel 1) Project Manager 2) COMIFAC Experts in charge of three (3) thematic working groups and National COMIFAC Coordinators 2. Provision of office space for JICA Experts 3. Local operational expenses 1) Running expenses</p> | <p><Issues and countermeasures></p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>2-1 Enhance implementation of GTBAC activities</p> <p>2-1-1 Provide technical support to GTBAC meetings and other relevant meetings.</p> <p>2-2 Support activities related to the Nagoya Protocol on Access and Benefit Sharing (ABS) in the COMIFAC member countries, such as trainings for obtaining important technical knowledge and skills on ABS through laboratory work training, which contribute to the Operational Objective 3.2.1 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-2-1 Identify common needs and gaps of COMIFAC member countries on ABS to be supported by the Project.</p> <p>2-2-2 Provide technical support to fill the common needs and gaps in the field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-2-3 Supporting a bridge making between researchers of COMIFAC member countries and private sector in the field of laboratory work of bioprospecting.</p> <p>2-3 Support the transboundary protected area management, which contribute to the Operational Objectives 3.1.1 and/or 3.1.2 and/or 5.1.3 of the Convergence Plan (2015-2025).</p> <p>2-3-1 Review the existing transboundary protected areas and select a pilot area and activities to improve transboundary protected area management.</p> <p>2-3-2 Prepare an implementation plan of pilot activities in the selected area (e.g. Potential activities include livelihood improvement and awareness raising of communities).</p> <p>2-3-3 Provide technical support to implement the action plan.</p> <p>2-3-3-4 Implement a pilot project at least in two countries and share knowledge from the pilot activities and other related projects in Congo Basin among the COMIFAC member countries through GTBAC meetings.</p> <p>3-1 Provide technical support for the National Coordination meetings and other relevant meetings.</p> | <p>(Expenses for holding meetings, workshops, trainings, and pilot project etc.)</p> | | |
|---|--|--|--|

Notes: There are objectively verifiable indicators which don't have numerical target. It is required to set up concrete numerical targets after the certain period from the commencement of the Project. Revised PDM should be approved at the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting.



DECISION N° 001/COMIFAC/SE/16

Portant création du Comité de Pilotage conjoint du projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC

LE SECRETAIRE EXECUTIF DE LA COMIFAC,

- Vu le « Record of Discussions » signé en mars 2015 entre la COMIFAC et la JICA pour la mise en œuvre du projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC,
- Conformément aux recommandations de l'atelier de lancement officiel du projet tenu le 26 janvier 2016 à Douala au Cameroun,

DECIDE

ARTICLE 1 : De la création

Il est créé pour compter de la date de signature de la présente décision, un Comité de pilotage du projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC financé par la Coopération Technique Japonaise (JICA).

ARTICLE 2 : Des missions

Les missions du Comité de pilotage sont les suivantes :

- Approuver le Plan des opérations et le Plan de Travail Annuel (PTA) du projet ;
- Examiner les progrès d'ensemble des activités du projet ainsi que les réalisations du plan annuel;
- Examiner et échanger les points de vue sur les principaux défis découlant de/ou en relation avec le projet, et recommander des mesures correctives.

ARTICLE 3 : De la composition

Le Comité de pilotage du projet Promotion de la Conservation et de l'utilisation durable de la Biodiversité et des mesures contre le changement climatique comprend les membres suivants :

- A. Un (1) Président : Secrétaire Exécutif de la COMIFAC
- B. Un (1) Co- Président : Représentant du Bureau de la JICA-Cameroun

A. Partie de la COMIFAC :

- Un (1) Directeur du Projet, Secrétaire Exécutif Adjoint de la COMIFAC
- Un (1) Représentant dans chacun des groupes de travail suivants :
 - i. Groupe de Travail Biodiversité (GTBAC)
 - ii. Groupe de Travail Changement Climatique (GTCCC)
 - iii. Groupe de Travail Gouvernance Forestière (GTGF)
- Deux (2) Coordinateurs Nationaux des Pays membres de la COMIFAC

B. Partie Japonaise :

- Un (1) Représentant du Bureau de la JICA-Cameroun
- Des experts JICA du Projet

C. Autres experts acceptés par les deux parties

D. Le (s) Agent(s) de l'Ambassade du Japon peuvent assister à la réunion du Comité de Pilotage comme observateur (s).

ARTICLE 4 : De l'organisation et du fonctionnement

Le Comité de pilotage conjoint se réunit au moins une (1) fois par an ou en cas de nécessité. Ses réunions sont convoquées par le Président qui en assure la présidence des travaux.

La réunion du Comité de pilotage conjoint est sanctionnée par un compte rendu qui sera rédigé par le secrétariat assuré par un membre à désigner par le président.

Fait à Yaoundé, le 22 MAR 2016

Le Secrétaire Exécutif,

Raymond MBETIKON



COMMISSION DES FORETS
D'AFRIQUE CENTRALE
(COMIFAC)



AGENCE JAPONAISE DE
COOPERATION
INTERNATIONALE (JICA)



**Projet de promotion de la conservation et de l'utilisation durable de
la biodiversité et des mesures contre le changement climatique dans
les pays de la COMIFAC**

**Compte-rendu de la session ordinaire du Comité de
pilotage conjoint de clôture**

Visioconférence, le 14 octobre 2020

Introduction

Il s'est tenu le 14 octobre 2020 par visioconférence, la Session du Comité de pilotage conjoint de clôture du Projet de Promotion de la Conservation et de l'Utilisation Durable de la Biodiversité et des Mesures contre le Changement Climatique dans les Pays de la COMIFAC. La réunion a été présidée par M. NDOMBA NGOYE Raymond, Secrétaire Exécutif de la COMIFAC.

Les objectifs dudit Comité de Pilotage Conjoint étaient :

- présenter les produits majeurs obtenus au terme de l'exécution du Projet ;
- échanger sur les leçons apprises ;
- échanger sur les perspectives ;
- valider le rapport final du Projet.

Après avoir vérifié que le quorum est atteint, le Président a donné la parole à M. Shu MIZUSHINA pour la modération de travaux.

1. Cérémonie d'ouverture

La cérémonie d'ouverture a été ponctuée par deux allocutions : celle de M. Takahiro IKENOUE et de M. Raymond NDOMBA NGOYE.

Dans son mot de circonstance, M. Takahiro IKENOUE, Directeur du Groupe de l'Environnement Forestier Naturel du Département de l'Environnement Global de l'Agence Japonaise de Coopération Internationale a rappelé que la JICA a commencé le présent projet il y a 5 ans, lequel projet était dit « projet challenging ». Celui-ci devra s'achever à la fin octobre 2020. Poursuivant son propos, il s'est réjoui des grands efforts déployés par la COMIFAC et l'équipe de projet grâce auxquels les résultats à ce stade ont été obtenus et à qui il a exprimé sa gratitude. Il a mis l'accent entre autres sur les trois guides produits dans le cadre du projet, lesquels guides pourront servir de base de la durabilité des activités de la COMIFAC. Il a enfin exhorté fortement la COMIFAC de faire bon usage desdits guides.

Prenant la parole en son tour, M. Raymond NDOMBA NGOYE s'est félicité des réalisations obtenues par le projet, lesquelles réalisations ont contribué aux résultats attendus du Plan de convergence. Il s'est notamment appesanti sur la contribution du

projet à l'amélioration du système de surveillance des ressources forestières dans la plupart des pays membres de la COMIFAC et le développement de la stratégie de renforcement des connaissances et des compétences techniques relatives aux problématiques spécifiques sur l'APA au profit des pays.

Pour finir, il a renouvelé la gratitude de la COMIFAC à la Coopération japonaise à travers la JICA pour son appui apporté à la mise en œuvre du projet et a exprimé le souhait que la coopération entre la JICA et la COMIFAC vieille de plus de dix ans soit pérennisée pour la préservation des forêts du bassin du Congo et pour le bien-être des populations locales.

Les deux allocutions ont été suivies par la présentation des participants comprenant les Coordonnateurs Nationaux COMIFAC du Cameroun, du Burundi, du Gabon et du Tchad, l'équipe du Secrétariat Exécutif la COMIFAC, les représentants de la JICA et de l'ambassade du Japon au Cameroun, l'équipe du projet, les représentants des institutions universitaires (Université du Rwanda, Université de Dschang), des projets et des organisations internationales (GIZ, PNUD) et le représentant du Partenariat pour les Forêts du Bassin du Congo (PFBC).

2. Déroulement des travaux

Les travaux du Comité se sont poursuivis par cinq présentations suivant l'agenda articulé ainsi qu'il suit :

- Présentation du Guide sous-régional d'inventaire et de surveillance des forêts ;
- Présentation du Guide de bonnes pratiques de la gestion des laboratoires en matière des ressources génétiques ;
- Présentation du Guide de la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières au travers de la valorisation des produits forestiers non ligneux ;
- Présentation du Rapport d'Achèvement du Projet ;
- Procès-verbal relatif au Rapport d'Achèvement du Projet et signature.

Ces présentations ont suscité des échanges ayant permis de relever les préoccupations et défis ci-après :

- la nécessité de reformulation du titre du Guide de la gestion collaborative des aires protégées transfrontalières au travers de la valorisation des produits forestiers non ligneux, en mettant plus en exergue les PFNL.

- la nécessité de pérenniser les acquis du projet en ouvrant les pistes de collaboration pour bâtir un programme plus ambitieux en appui à la COMIFAC dans les domaines tels que la gouvernance forestière et la gestion durable des PFNL, etc.
- la nécessité d'un soutien de la coopération japonaise à travers la JICA, au Conseil scientifique de recherche sur les ressources génétiques de la COMIFAC en cours de création.

3. Résolutions et recommandations

Au terme des travaux, les membres du Comité de pilotage ont pris les résolutions et formulé les recommandations suivantes :

i. Résolutions

Les membres du Comité de pilotage ont :

- pris acte des réalisations obtenues par le projet ;
- félicité l'équipe du projet pour les produits obtenus ;
- approuvé le Procès-Verbal du relatif au Rapport d'Achèvement du Projet en vue de sa signature par le Secrétaire Exécutif de la COMIFAC.

ii. Recommandations

Les membres du Comité de pilotage ont recommandé :

❖ Au Secrétariat Exécutif de :

- Mobiliser les ressources nécessaires pour poursuivre la vulgarisation des Guides sous-régionaux en collaboration avec les Coordinations Nationales COMIFAC ;

❖ A l'équipe du projet

- Faire le plaidoyer pour le soutien du Conseil scientifique de recherche sur les ressources génétiques de la COMIFAC à travers des opportunités pour la promotion et la vente des produits de l'équipe scientifique APA au Japon ;
- Produire la version française du Procès-Verbal du relatif au Rapport d'Achèvement du Projet.

- Reformuler si possible l'intitulé du Guide de gestion collaborative des aires protégées transfrontalières, en mettant en exergue les PFNL qui constituent la porte d'entrée de l'étude (des propositions de formulation ont été proposées).

De même, les membres du Comité de Pilotage ont été informés que la JICA envisage d'organiser, si les conditions sanitaires liées à la COVID 19 le permettent, une session de formation sur l'APA en 2021 destinée à toute personne intéressée, ressortissant de l'Afrique Centrale.

Par ailleurs, le représentant de l'Ambassade du Japon au Cameroun a, au nom du gouvernement japonais, félicité l'équipe du projet et plus particulièrement les experts du Secrétariat Exécutif de la COMIFAC pour les résultats obtenus et dont les acquis devront permettre de poursuivre les activités dans les domaines d'intervention du projet.

A la fin des travaux, les membres du Comité de Pilotage ont remercié le Gouvernement et le peuple japonais pour le soutien apporté pour la préservation des forêts du bassin du Congo. Ils se sont par ailleurs félicités de la qualité des échanges qui ont eu lieu au cours des travaux.

4. Cérémonie de clôture

La Session du Comité de pilotage conjoint de clôture du Projet a été clôturée par deux allocutions à savoir celle M. Tadashi KAGEYAMA, Représentant Résident du Bureau JICA au Cameroun et le mot de fin de M. Raymond NDOMBA NGOYE. Dans son allocution, M. KAGEYAMA a rappelé les engagements pris par les Etats de l'Afrique Centrale à travers l'adoption du Traité relatif à la conservation et la gestion durable des écosystèmes et instituant la COMIFAC. Poursuivant son propos, il a dit l'appui que la JICA apporte à la COMIFAC rentre dans le cadre global de l'appui de la JICA en faveur des forêts du monde.

Dans son mot de clôture, M. NDOMBA NGOYE a remercié les membres du Comité de pilotage pour la bonne tenue de travaux. Il s'est félicité des résultats obtenus du projet, fruit de la bonne collaboration ayant prévalu entre l'équipe du Secrétariat Exécutif et l'équipe du projet. Il a par ailleurs informé les membres du Comité de pilotage que l'équipe qu'il dirige est en fin de mandat et a souhaité que la nouvelle équipe dirigeante du Secrétariat Exécutif puisse œuvrer en vue de pérenniser les acquis

du projet. Avant de clore son propos, il a réitéré ses remerciements à la coopération japonaise à travers son instrument qu'est la JICA pour le soutien qu'il ne cesse d'apporter à la COMIFAC et à ses pays membres.

Fait à Yaoundé, le 14 octobre 2020

Le Rapporteur



Valerie TCHUANTE

Le Président



Raymond NDOMBA NGOYE